大館市
子どもの成長環境の把握のための
アンケート調査

結果報告書

平成30年3月

大　館　市

目　次

第1章　調査の概要 3
1．調査の目的 3
2．調査の実施状況 3
3．報告書の見方 3
第2章　調査結果 3
1．回答者の基本属性 3
（1）調査票回答者 3
（2）宛名の子どもの年代 4
（3）住まいの形態 4
（4）世帯の構成 4
1）世帯の家族構成 4
2）ひとり親世帯の該当状況 6
2．世帯の経済的状況 7
（1）世帯収入 7
（2）国の貧困線に基づく貧困線区分の判定（参考） 10
（3）世帯収入の充足感 12
（4）利用している手当や援助 13
（5）借入金の状況 14
（6）家計のゆとり感 15
（7）経済的に困った経験 16
3．子どもの教育や生活に関わる状況について 20
（1）子どもにかかる教育費 20
（2）習い事の状況 24
（3）子どもに希望する最終学歴 25
（4）経済的理由による進学・就学への影響 26
1）経済的理由によって進学・就学を断念した経験 26
2）進学・就学を断念した場合の子どもの最終学歴 26
3）経済的理由によって進学・就学を断念する可能性 27
（5）教育に関して心配なこと 28
（6）子どもにかかる生活費 30
（7）子どもにかかる費用 34
（8）平日、子どもだけで過ごす状況 38
（9）子どもの居場所づくりに対する希望 38
4．子どもとの関わりについて 39
（1）子どもとのふれあいの状況 39
1）平日の子どもとのふれあい時間 39
2）休日の子どもとのふれあい時間 41
3）子どもとのふれあいの内容 42
（2）夜、子どもだけで過ごす状況 45
1）夜、子どもだけで過ごす機会の有無 45
2）夜、子どもだけで過ごす頻度 45
（3）食生活の状況 46

１）朝食の状況 46
２）朝食を食べない理由 46
３）夕食の状況 47
（４）子どものことで心配なこと 48
（５）子どもに関する相談の状況 51
１）子育て等の相談において困ったこと 51
２）子育て等に関する相談窓口の必要性 51
５．保護者の就労状況について 51
（１）父親の就労状況 51
１）父親の就業形態 51
２）父親の夜勤の状況 52
３）父親の副業の状況 52
（２）母親の就労状況 53
１）母親の就業形態 53
２）母親の夜勤の状況 53
３）母親の副業の状況 54
（３）保護者の就労に関して困っていること 54
６．子どものために必要な支援について 55
（１）子どもの将来に関して心配なこと 55
（２）子どものために必要と思われる支援 56
（３）支援を受けやすくするために必要なこと 58
７．子どもの貧困対策のために必要な支援について 60
（１）貧困に対する認識 60
（２）貧困の連鎖に対する心配 61
（３）子どもの貧困対策における支援事業の重要度 62

第１章　調査の概要

１．調査の目的

すべての子どもたちが夢と希望を持って成長することができる地域社会の実現を目指し、大館市として必要な取り組みについて計画として取りまとめるため本調査を実施しました。

本調査においては、家計状況や子育てニーズなどについて確認を行っており、計画策定のための基礎資料として活用します。

２．調査の実施状況

①　調査期間

平成29年10月～11月

②　調査方法

郵送による配布・回収

③　調査対象

市内に居住している0歳～18歳までの子どものいる世帯の保護者（1,000世帯）

④　回収状況

発送数	回収数	回収率
1,000世帯	480票	48.0%

３．報告書の見方

○図表の中のｎは回答者の総数を意味しています。設問によっては、回答者が制限される（別の設問である選択肢を選んだ回答者のみ回答する場合など）ため、ｎの数は一定ではありません。

○比率は、ｎを100%とした百分比で算出し、小数点以下第２位を四捨五入しています。そのため、表示されている百分比の合計が100%にならない場合があります。

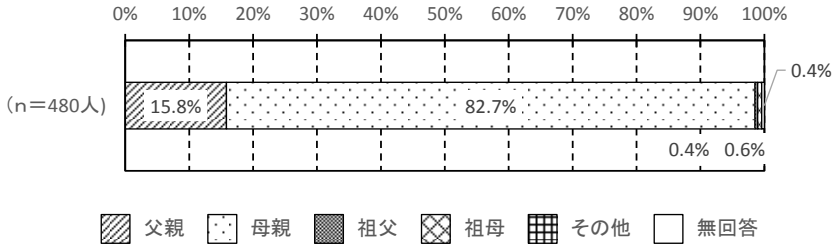
○複数回答が可能な設問では、その比率の合計が100%を上回ることがあります。

第２章　調査結果

１．回答者の基本属性

（１）調査票回答者

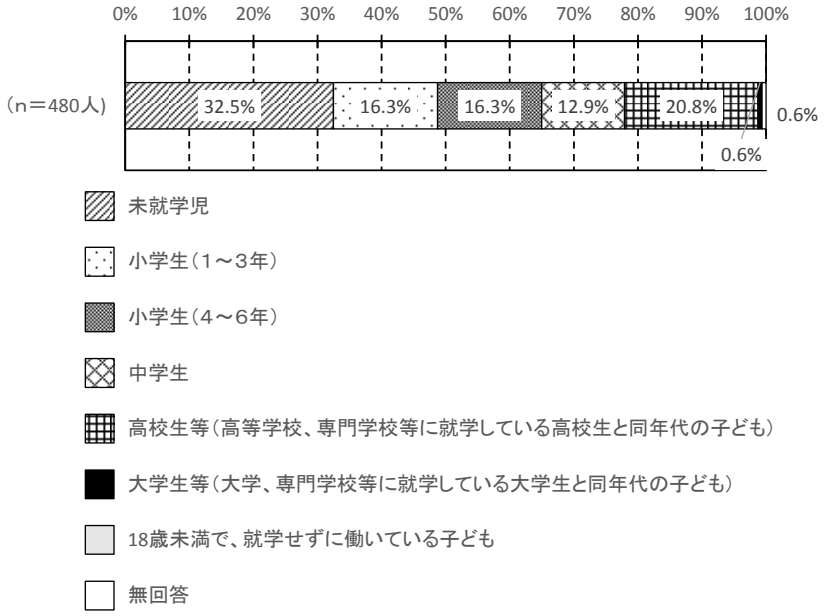
問１　この調査票にご回答いただいている方は宛名のお子さんからみて、どなたになりますか。（○は１つ）



調査票への回答は82.7%が「母親」によるものとなっています。

（２）宛名の子どもの年代

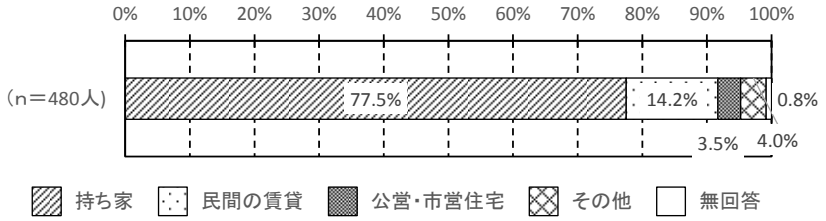
問２　宛名のお子さんの年代は次のどれにあたりますか。（○は１つ）



調査対象となる子どもは「未就学児」が32.5%でもっとも多くなっています。

（３）住まいの形態

問３　住宅はどのようになっていますか。（○は１つ）



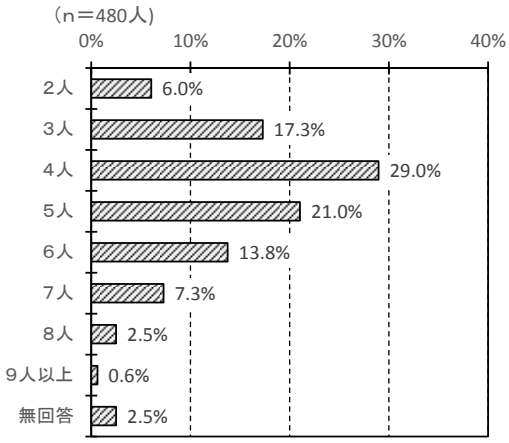
住まいは「持ち家」が77.5%でもっとも多く、ついで「民間の賃貸」が14.2%となっています。

（４）世帯の構成

１）世帯の家族構成

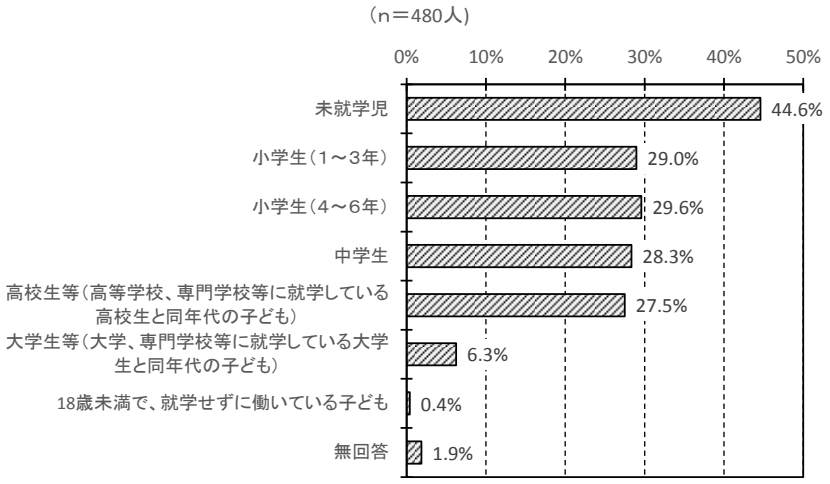
問４　世帯の家族構成を教えてください。（自宅を離れていても生計同一の学生等は含めてください。）

①世帯人数



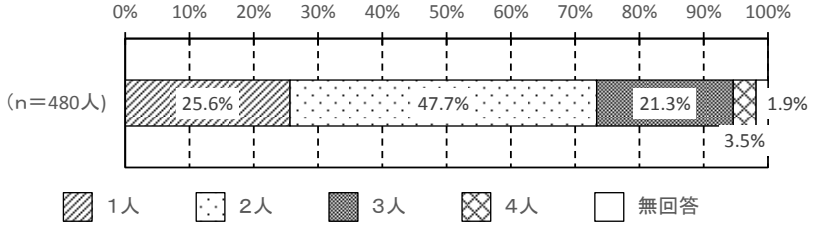
回答のあった世帯の人数は「４人」が29.0%でもっとも多く、平均は4.6人となっています。

②世帯の子どもの構成



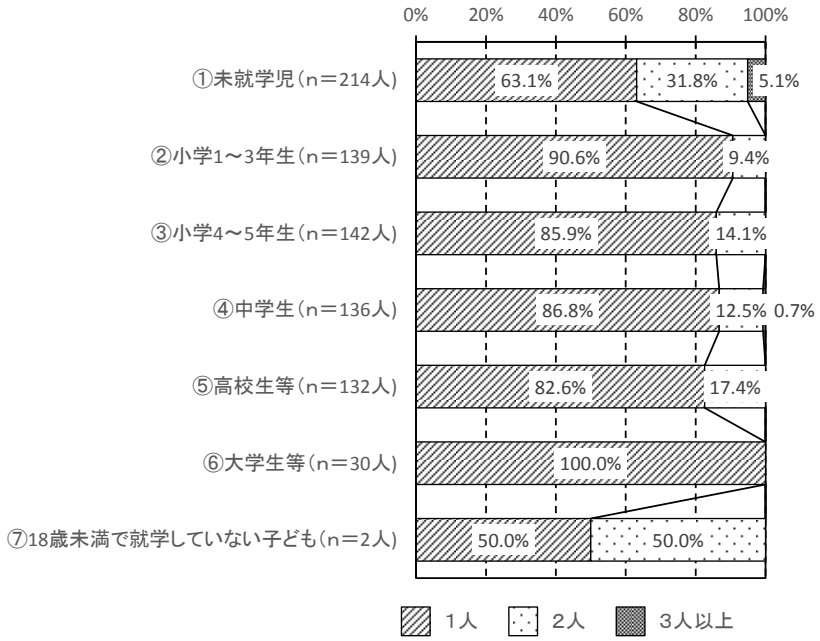
回答のあった世帯の子どもの構成は、「未就学児」のいる世帯が44.6%と4割以上を占め、小学生～高校生等までがいる世帯はそれぞれ3割弱を占めています。

③世帯の子どもの人数



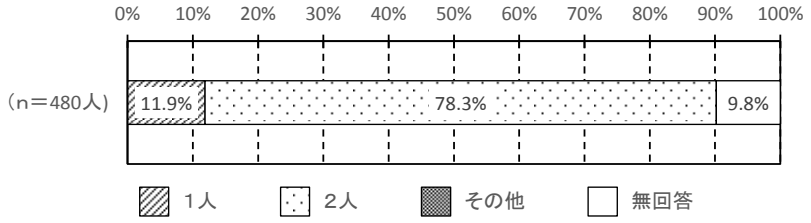
回答のあった世帯の子どもの人数は、「2人」が47.7%と半数近くを占め、平均も2.0人となっています。

④年代別にみた世帯の子どもの人数



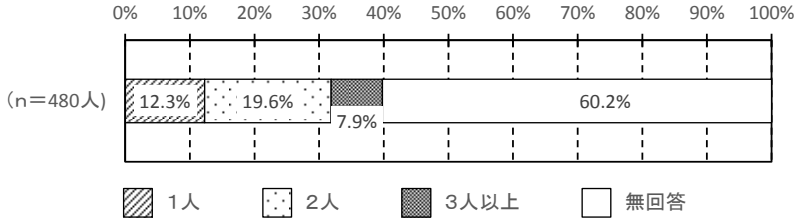
子どもの年代別に子どもの人数をみると、いずれの年代も「1人」という場合が多くなっています。

⑤父母の人数



父母の人数は「２人」の場合が 78.3%と８割近くを占めています。「１人」は 11.9%となっています。

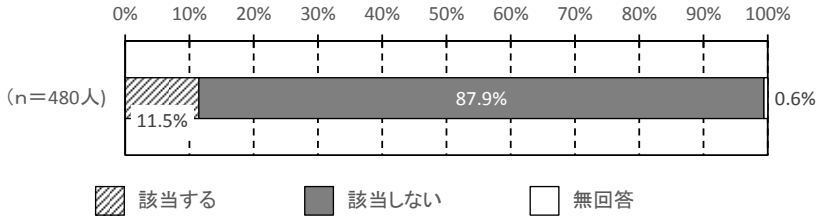
⑥父母以外の大人の人数



父母以外の大人については、最大で５人、平均して 2.0 人となっており、父母以外の大人がいる世帯は 39.8%と約４割を占めています。

２）ひとり親世帯の該当状況

問５　あなたの世帯は、「ひとり親世帯」に該当しますか。（○は１つ）



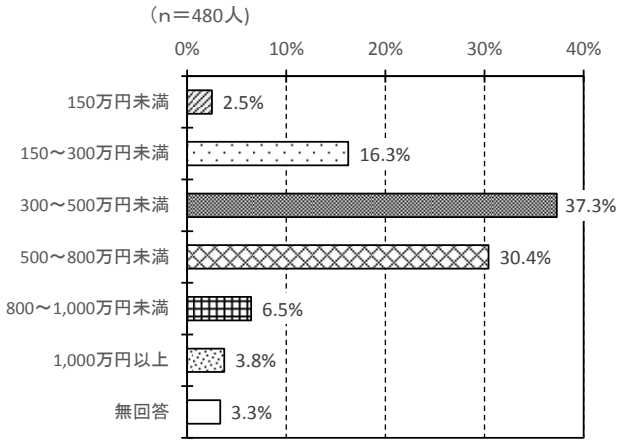
ひとり親世帯に「該当する」とした世帯は 11.5%と１割程度を占めています。

２．世帯の経済的状況

（１）世帯収入

問６　　世帯全体の収入（手取り）はおおよそいくらぐらいですか。（回答欄におおよその金額を記入）

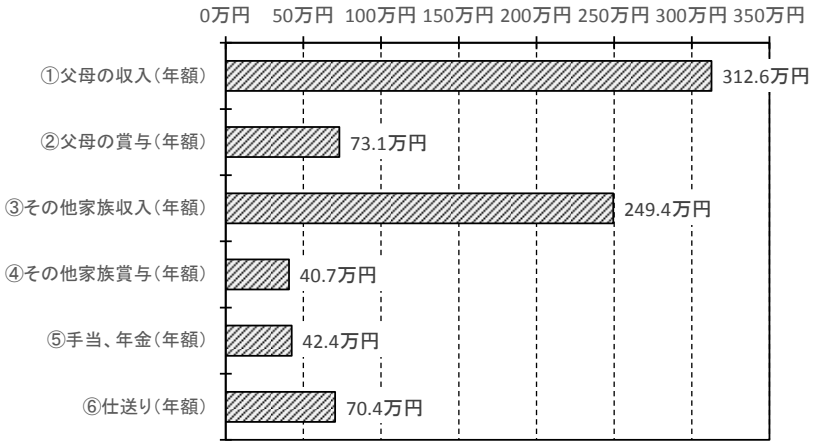
①世帯収入



年間の世帯収入の総額については、「300～500 万円未満」が 37.3%でもっとも多く、ついで「500～800 万円未満」が 30.4%と３割を占めています。

平均は 520.3 万円となっています。

②世帯収入の内訳

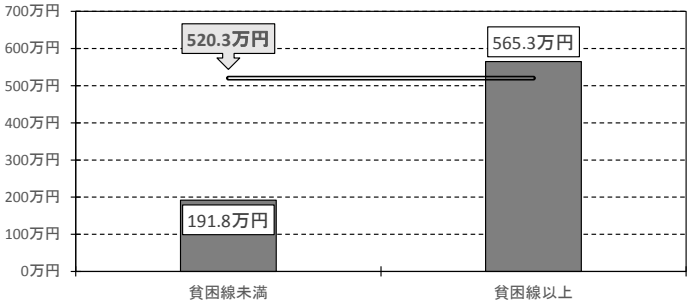


世帯収入の内訳としては、①父母の収入が平均で 312.6 万円もっとも多く、ついで③その他家族収入が 249.4 万円で多くなっています。

⑥仕送りに関して現物として送られてくるものとしては、お米や野菜などが挙げられていました。

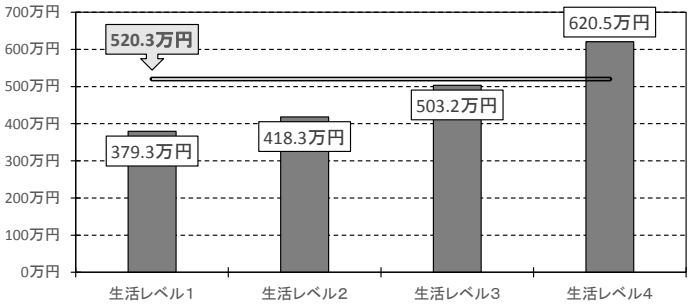
○属性別にみた分析

＜貧困線区分別＞



国の貧困線に基づく貧困線区分別にみると、「貧困線未満」の世帯収入は 191.8 万円で、全体平均の 520.3 万円を大きく下回っています。

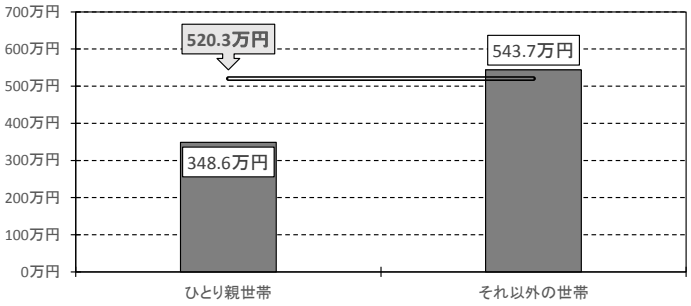
＜生活レベル別＞



衣食住に関わるすべての項目で経済的に困ったことがあるとする「生活レベル１」では379.3 万円で、生活のすべての場面で経済的に困ったことなないとする「生活レベル４」の620.5 万円まで、生活レベルが上がるほど、世帯収入は上昇しています。

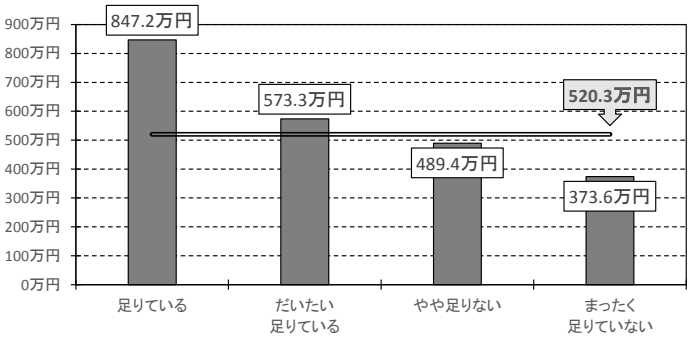
世帯収入の全体平均である520.3 万円を超えるのは「生活レベル４」のみで、生活レベル３以下では全体平均を下回る水準となっています。

＜ひとり親世帯別＞



ひとり親世帯の該当状況別にみると、「ひとり親世帯」の世帯収入は 348.6 万円で、全体平均の 520.3 万円を下回っています。

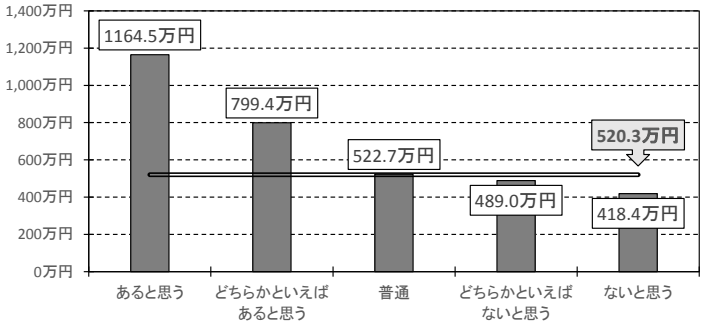
＜世帯収入の充足感別＞



世帯収入の充足感別にみると、「足りている」という回答者では 847.2 万円で、充足感が低くなるほど世帯収入は減少し、「まったく足りていない」という回答者では 373.6 万円となっています。

おおむね、全体平均の 520.3 万円を超えると世帯収入の充足感は足りていると評価され、下回ると足りないと評価されています。

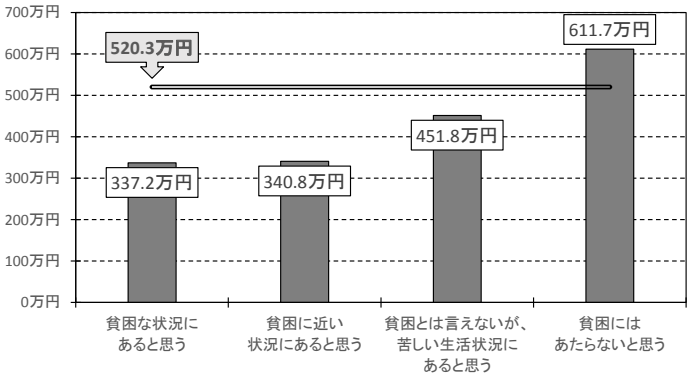
＜家計のゆとり感別＞



家計のゆとり感別にみると、ゆとりがないと感じるほど世帯収入は少なくなっており、ゆとりが「あると思う」では 1,164.5 万円であるのに対して、「ないと思う」では 418.4 万円となっています。

全体平均は 520.3 万円で、おおむね家計のゆとりについて「普通」とする回答者と一致しています。全体平均を上回るとゆとりがあるという評価がされ、下回るとゆとりがないという評価がされているように思われます。

＜貧困に対する認識別＞

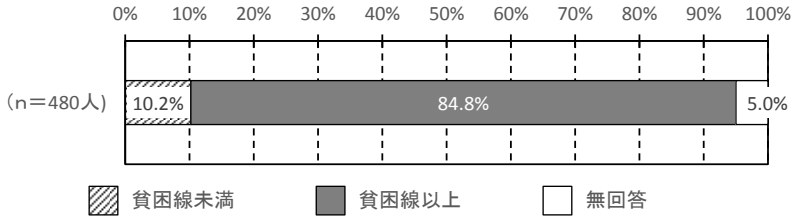


貧困に対する認識別では、「貧困にはあたらないと思う」とする回答者ほど世帯収入は高くなっています。「貧困にはあたらないと思う」とする回答者以外では、全体平均である 520.3 万円を下回る世帯収入の水準となっています。

（２）国の貧困線に基づく貧困線区分の判定（参考）

分析においては、世帯全員の１年間の手取り収入の総額（可処分所得）について、世帯人員数別に整理し、それをもとに国の「国民生活基礎調査」における貧困線にしたがって、世帯人員数別の貧困線以下の世帯を“貧困線未満”、それ以外を“貧困線以上”として集計を行っています。
※国では戸別訪問による調査を行っており、郵送配付による本市の調査とは可処分所得の把握方法が異なっています。

世帯人員数	２人世帯	３人世帯	４人世帯	５人世帯	６人世帯	７人世帯	８人世帯	９人以上世帯
国の貧困線	173 万円	211 万円	244 万円	273 万円	299 万円	323 万円	345 万円	366 万円



国の貧困線に基づいて、回答者の貧困線区分について整理したところ、「貧困線未満」に該当するのは10.2%となっています。

平成 27 年の国の「国民生活基礎調査」における子どもの貧困率は 13.9%となっており、国の水準に比べるとやや低い割合となっています。

○属性別にみた分析

		n	貧困線未満	貧困線以上	無回答
全体		100.0%	10.2%	84.8%	5.0%
		480人	49人	407人	24人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	17.2%	75.0%	7.8%
		64人	11人	48人	5人
	生活レベル2	100.0%	17.6%	78.4%	3.9%
		102人	18人	80人	4人
	生活レベル3	100.0%	10.3%	86.2%	3.4%
		87人	9人	75人	3人
	生活レベル4	100.0%	5.2%	90.6%	4.2%
		212人	11人	192人	9人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	30.9%	65.5%	3.6%
		55人	17人	36人	2人
	該当しない	100.0%	7.3%	87.7%	5.0%
		422人	31人	370人	21人
世帯収入の充足感	足りている	100.0%	0.0%	98.2%	1.8%
		56人	0人	55人	1人
	だいたい足りている	100.0%	4.3%	90.5%	5.2%
		116人	5人	105人	6人
	やや足りない	100.0%	9.7%	85.8%	4.5%
		176人	17人	151人	8人
	まったく足りていない	100.0%	20.5%	74.0%	5.5%
		127人	26人	94人	7人
家計のゆとり感	あると思う	100.0%	0.0%	94.7%	5.3%
		19人	0人	18人	1人
	どちらかといえばあると思う	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		30人	0人	30人	0人
	普通	100.0%	2.3%	91.4%	6.3%
		128人	3人	117人	8人
	どちらかといえばないと思う	100.0%	7.0%	88.3%	4.7%
		128人	9人	113人	6人
	ないと思う	100.0%	21.8%	74.1%	4.1%
		170人	37人	126人	7人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	26.9%	69.2%	3.8%
		26人	7人	18人	1人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	34.3%	60.0%	5.7%
		35人	12人	21人	2人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	10.6%	83.8%	5.6%
		160人	17人	134人	9人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	4.7%	90.9%	4.3%
		253人	12人	230人	11人

衣食住に関わるすべての項目で経済的に困ったことがあるとする「生活レベル1」では17.2%、衣食住に関わるいずれかの項目に困った経験があるとする「生活レベル2」は17.6%が「貧困線未満」に該当し、全体の 10.2%よりも高い割合となっています。

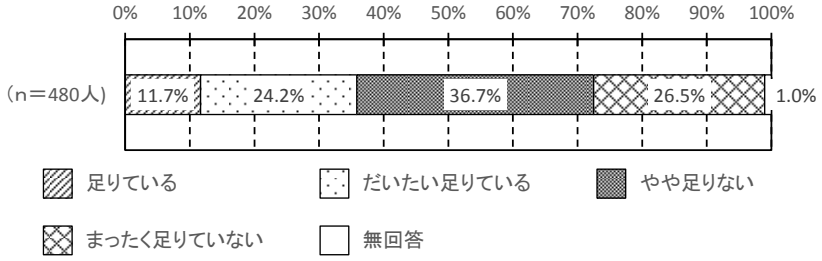
また、ひとり親世帯（該当する）では、30.9%と3割が「貧困線未満」に該当し、家計に関してゆとりが「ないと思う」という回答者では21.8%が「貧困線未満」に該当しています。

貧困に対する認識別では、「貧困な状況にあると思う」（26.9%）、「貧困に近い状況にあると思う」（34.3%）という回答者では、高い割合で「貧困線未満」に該当しています。

貧困線未満だが「貧困にはあたらないと思う」と回答。

（３）世帯収入の充足感

問７　世帯全体の収入（手取り）額は、現在の生活に足りていると思いますか。（○は１つ）



世帯収入の充足感については、「足りている」とするのは 11.7%と１割程度で、26.5%は「まったく足りていない」としています。全体では「やや足りていない」が 36.7%でもっとも多くなっています。

「まったく足りていない」と「やや足りていない」をあわせた「足りていない」という回答は 63.1%と6割を超えているのに対して、「足りている」と「だいたい足りている」をあわせた「足りている」という回答は 35.8%で、「足りていない」という評価が「足りている」という評価を大きく上回っています。

○属性別にみた分析

		n	足りている	だいたい足りている	やや足りない	まったく足りていない	無回答
全体		100.0%	11.7%	24.2%	36.7%	26.5%	1.0%
		480人	56人	116人	176人	127人	5人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	0.0%	10.2%	34.7%	53.1%	2.0%
		49人	0人	5人	17人	26人	1人
	貧困線以上	100.0%	13.5%	25.8%	37.1%	23.1%	0.5%
		407人	55人	105人	151人	94人	2人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%
		64人	0人	0人	16人	48人	0人
	生活レベル2	100.0%	0.0%	14.7%	43.1%	42.2%	0.0%
		102人	0人	15人	44人	43人	0人
	生活レベル3	100.0%	3.4%	13.8%	59.8%	21.8%	1.1%
		87人	3人	12人	52人	19人	1人
	生活レベル4	100.0%	24.1%	39.6%	26.9%	8.0%	1.4%
		212人	51人	84人	57人	17人	3人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	7.3%	14.5%	36.4%	41.8%	0.0%
		55人	4人	8人	20人	23人	0人
	該当しない	100.0%	12.3%	25.6%	37.0%	24.4%	0.7%
		422人	52人	108人	156人	103人	3人
家計のゆとり感	あると思う	100.0%	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		19人	17人	2人	0人	0人	0人
	どちらかといえばあると思う	100.0%	43.3%	53.3%	3.3%	0.0%	0.0%
		30人	13人	16人	1人	0人	0人
	普通	100.0%	18.0%	50.8%	28.9%	0.0%	2.3%
		128人	23人	65人	37人	0人	3人
	どちらかといえばないと思う	100.0%	0.8%	21.9%	67.2%	10.2%	0.0%
		128人	1人	28人	86人	13人	0人
	ないと思う	100.0%	1.2%	2.4%	28.8%	67.1%	0.6%
		170人	2人	4人	49人	114人	1人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	0.0%	3.8%	11.5%	84.6%	0.0%
		26人	0人	1人	3人	22人	0人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	0.0%	5.7%	22.9%	68.6%	2.9%
		35人	0人	2人	8人	24人	1人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	0.0%	7.5%	50.0%	41.3%	1.3%
		160人	0人	12人	80人	66人	2人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	22.1%	39.1%	32.8%	5.1%	0.8%
		253人	56人	99人	83人	13人	2人

「貧困線未満」では87.8%が世帯収入について足りていない（「やや足りない」、「まったく足りていない」）としています。

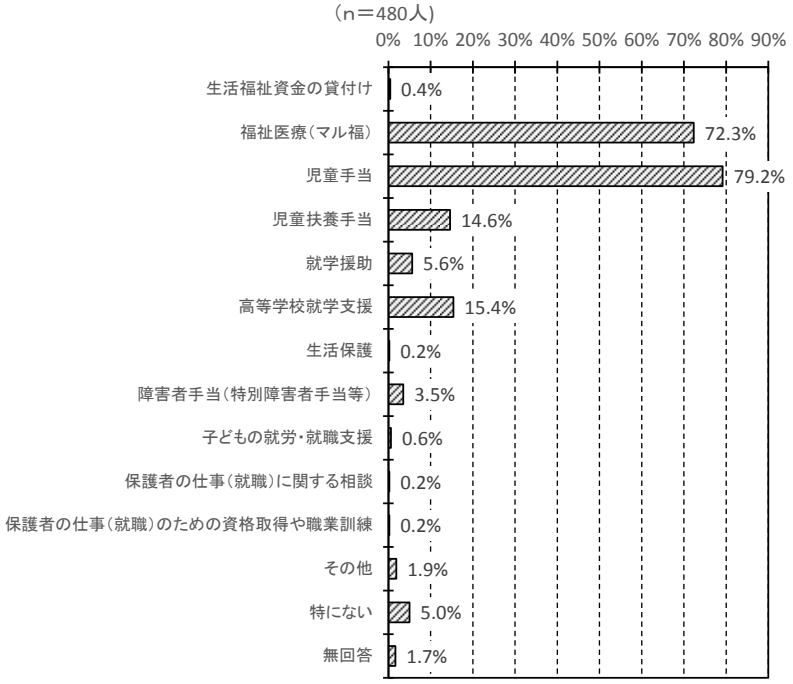
生活レベルの判定別にみると、生活レベル１～３までは足りていないという回答の方が足りている（「足りている」、「だいたい足りている」）という回答を上回っています。

ひとり親世帯では足りていないという回答が78.2%と８割近くを占めています。

家計のゆとり感別にみると、ゆとりがあるという評価の世帯ほど足りているという回答の割合が高く、貧困線に対する認識別では、「貧困にはあたらないと思う」という世帯以外では足りていないという回答の方が多くなっています。

（4）利用している手当や援助

問8　世帯で受けている手当や援助等について教えてください。（○はいくつでも）



現在利用している手当や援助としては、「児童手当」（79.2%）と「福祉医療（マル福）」（72.3%）が多くなっています。

その他として具体的には、奨学金や特別児童扶養手当などが挙げられていました。

○属性別にみた分析

		n	生活福祉資金の貸付け	福祉医療（マル福）	児童手当	児童扶養手当	就学援助	高等学校就学支援	生活保護
全体		100.0%	0.4%	72.3%	79.2%	14.6%	5.6%	15.4%	0.2%
		480人	2人	347人	380人	70人	27人	74人	1人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	0.0%	91.8%	83.7%	34.7%	30.6%	16.3%	2.0%
		49人	0人	45人	41人	17人	15人	8人	1人
	貧困線以上	100.0%	0.5%	71.0%	80.3%	12.3%	2.7%	15.7%	0.0%
		407人	2人	289人	327人	50人	11人	64人	0人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	0.0%	83.6%	74.5%	61.8%	20.0%	20.0%	1.8%
		55人	0人	46人	41人	34人	11人	11人	1人
	該当しない	100.0%	0.5%	70.9%	79.9%	8.3%	3.6%	14.9%	0.0%
		422人	2人	299人	337人	35人	15人	63人	0人

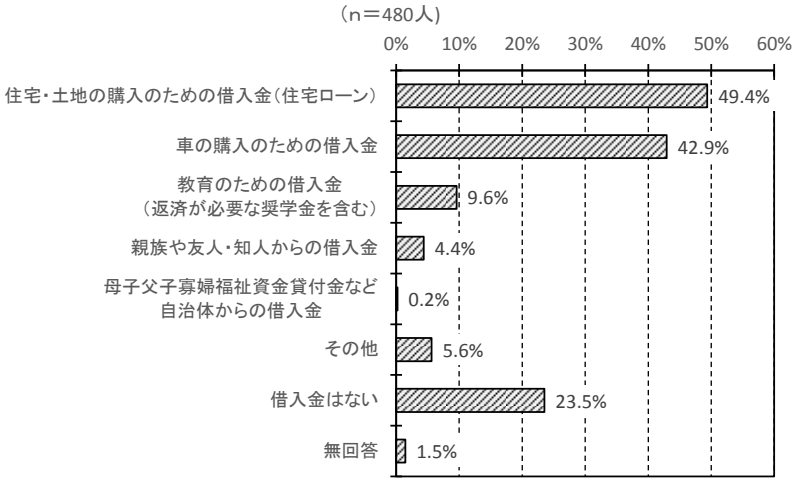
		n	障害者手当（特別障害者手当等）	子どもの就労・就職支援	保護者の仕事（就職）に関する相談	保護者の仕事（就職）のための資格取得や職業訓練	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	3.5%	0.6%	0.2%	0.2%	1.9%	5.0%	1.7%
		480人	17人	3人	1人	1人	9人	24人	8人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	10.2%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%
		49人	5人	0人	0人	1人	0人	0人	1人
	貧困線以上	100.0%	2.7%	0.5%	0.0%	0.0%	2.0%	5.4%	1.2%
		407人	11人	2人	0人	0人	8人	22人	5人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	10.9%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%
		55人	6人	0人	0人	1人	1人	0人	0人
	該当しない	100.0%	2.6%	0.7%	0.2%	0.0%	1.9%	5.7%	1.7%
		422人	11人	3人	1人	0人	8人	24人	7人

「貧困線未満」では、「福祉医療（マル福）」への回答が91.8%と特に割合が高く、ひとり親世帯においても83.6%と全体よりも回答の割合が高くなっています。

また、ひとり親世帯においては「児童扶養手当」への回答が61.8%と全体に比べて特に割合が高くなっています。

（5）借入金の状況

問9　あなたの世帯では、次のような借入金はありますか（○はいくつでも）



世帯の借入金の状況をみると、「住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）」が49.4%とほぼ半数を占め、ついで「車の購入のための借入金」が 42.9%となっています。また、23.5%は「借入金はない」としています。

「教育のための借入金（返済が必要な奨学金を含む）」については9.6%と約1割が利用しています。

その他として具体的には、カードローン、生活のための借金などが挙げられていました。

○属性別にみた分析

		n	住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）	車の購入のための借入金	教育のための借入金（返済が必要な奨学金を含む）	親族や友人・知人からの借入金	母子父子寡婦福祉資金貸付金など自治体からの借入金	その他	借入金はない	無回答
全体		100.0%	49.4%	42.9%	9.6%	4.4%	0.2%	5.6%	23.5%	1.5%
		480人	237人	206人	46人	21人	1人	27人	113人	7人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	22.4%	42.9%	6.1%	6.1%	0.0%	6.1%	32.7%	2.0%
		49人	11人	21人	3人	3人	0人	3人	16人	1人
	貧困線以上	100.0%	53.3%	44.0%	9.8%	4.4%	0.2%	5.4%	21.9%	1.0%
		407人	217人	179人	40人	18人	1人	22人	89人	4人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	12.7%	43.6%	14.5%	5.5%	0.0%	10.9%	36.4%	3.6%
		55人	7人	24人	8人	3人	0人	6人	20人	2人
	該当しない	100.0%	54.3%	42.9%	9.0%	4.3%	0.2%	4.7%	21.8%	0.9%
		422人	229人	181人	38人	18人	1人	20人	92人	4人
世帯の子どもの構成	未就学児	100.0%	48.6%	44.4%	7.5%	4.2%	0.5%	5.6%	22.9%	0.9%
		214人	104人	95人	16人	9人	1人	12人	49人	2人
	小学生（1～3年）	100.0%	52.5%	48.2%	2.9%	5.0%	0.0%	6.5%	18.7%	1.4%
		139人	73人	67人	4人	7人	0人	9人	26人	2人
	小学生（4～6年）	100.0%	53.5%	46.5%	5.6%	3.5%	0.0%	7.0%	20.4%	2.1%
		142人	76人	66人	8人	5人	0人	10人	29人	3人
	中学生	100.0%	46.3%	44.1%	3.7%	3.7%	0.0%	8.8%	26.5%	1.5%
		136人	63人	60人	5人	5人	0人	12人	36人	2人
	高校生等	100.0%	48.5%	39.4%	13.6%	4.5%	0.0%	6.1%	23.5%	1.5%
		132人	64人	52人	18人	6人	0人	8人	31人	2人
	大学生等	100.0%	60.0%	43.3%	60.0%	0.0%	0.0%	6.7%	10.0%	0.0%
		30人	18人	13人	18人	0人	0人	2人	3人	0人
	18歳未満で、就学せずに働いている子ども	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
		2人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人

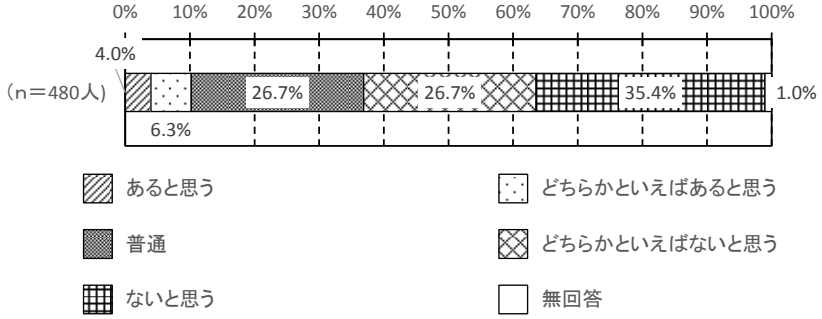
全体でもっとも回答の多かった「住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）」については、「貧困線未満」世帯やひとり親世帯では回答の割合が低く、「車の購入のための借入金」については大きな差はみられませんでした。

「借入金はない」については、「貧困線未満」世帯やひとり親世帯の方が回答の割合が高くなっています。

「教育のための借入金（返済が必要な奨学金を含む）」については、おおむね世帯の中の子どもの年代が高いほど回答の割合が高く、「大学生等」のいる世帯では60.0%と5割を占めています。

（6）家計のゆとり感

問１０　現在の家計には、ゆとりがあると思いますか。（○は１つ）



現在の家計のゆとり感については、26.7%が「普通」としていますが、「どちらかといえばないと思う」（26.7%）、「ないと思う」（35.4%）がいずれも「普通」という回答を上回り、あわせると62.1%が家計にゆとりがないとしています。

「あると思う」（4.0%）と「どちらかといえばあると思う」（6.3%）をあわせても、家計に余裕があるという回答は１割程度にとどまっています。

○属性別にみた分析

		n	あると思う	どちらかといえばあると思う	普通	どちらかといえばないと思う	ないと思う	無回答
全体		100.0%	4.0%	6.3%	26.7%	26.7%	35.4%	1.0%
		480人	19人	30人	128人	128人	170人	5人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	0.0%	0.0%	6.1%	18.4%	75.5%	0.0%
		49人	0人	0人	3人	9人	37人	0人
	貧困線以上	100.0%	4.4%	7.4%	28.7%	27.8%	31.0%	0.7%
		407人	18人	30人	117人	113人	126人	3人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.1%	85.9%	0.0%
		64人	0人	0人	0人	9人	55人	0人
	生活レベル2	100.0%	0.0%	1.0%	12.7%	31.4%	54.9%	0.0%
		102人	0人	1人	13人	32人	56人	0人
	生活レベル3	100.0%	1.1%	3.4%	20.7%	41.4%	32.2%	1.1%
		87人	1人	3人	18人	36人	28人	1人
	生活レベル4	100.0%	7.5%	12.3%	43.4%	22.6%	14.2%	0.0%
		212人	16人	26人	92人	48人	30人	0人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	3.6%	5.5%	9.1%	23.6%	58.2%	0.0%
		55人	2人	3人	5人	13人	32人	0人
	該当しない	100.0%	4.0%	6.4%	28.9%	27.3%	32.2%	1.2%
		422人	17人	27人	122人	115人	136人	5人
世帯収入の充足感	足りている	100.0%	30.4%	23.2%	41.1%	1.8%	3.6%	0.0%
		56人	17人	13人	23人	1人	2人	0人
	だいたい足りている	100.0%	1.7%	13.8%	56.0%	24.1%	3.4%	0.9%
		116人	2人	16人	65人	28人	4人	1人
	やや足りない	100.0%	0.0%	0.6%	21.0%	48.9%	27.8%	1.7%
		176人	0人	1人	37人	86人	49人	3人
	まったく足りていない	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.2%	89.8%	0.0%
		127人	0人	0人	0人	13人	114人	0人

「貧困線未満」では93.9%がゆとりはない（「どちらかといえばないと思う」、「ないと思う」）としています。

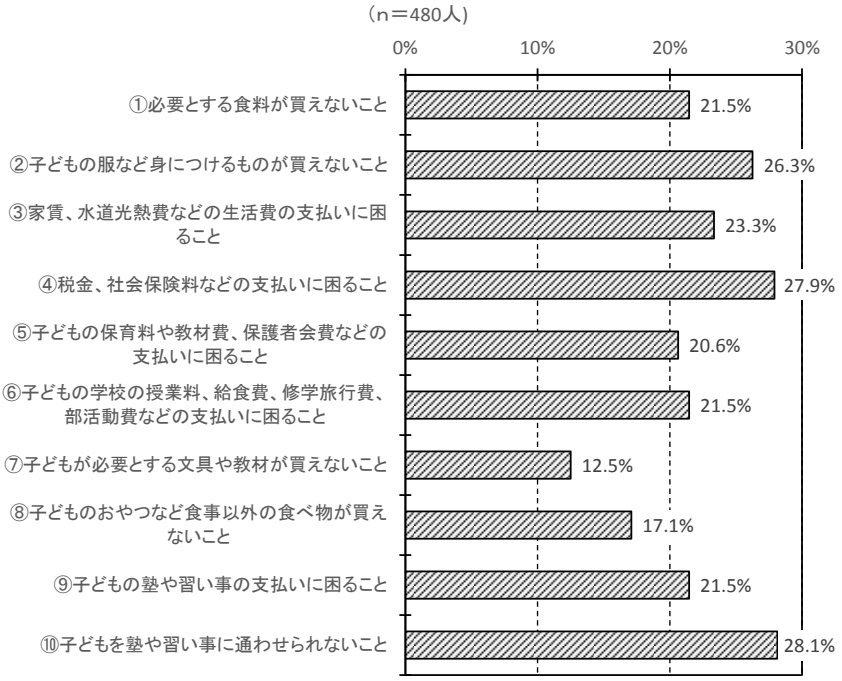
生活レベルの判定別では、「生活レベル4」でもゆとりはないという回答が36.8%とゆとりがあるという回答を上回っています。生活レベルが下がるほどゆとりはないという回答の割合が高くなっています。

ひとり親世帯ではゆとりはないという回答が8割を超えています。

（７）経済的に困った経験

問１１　この１年間に、お金が足りなくて困ったことはありましたか。次の①～⑩についてお答えください。（それぞれ○は１つ）

①経済的に困った経験

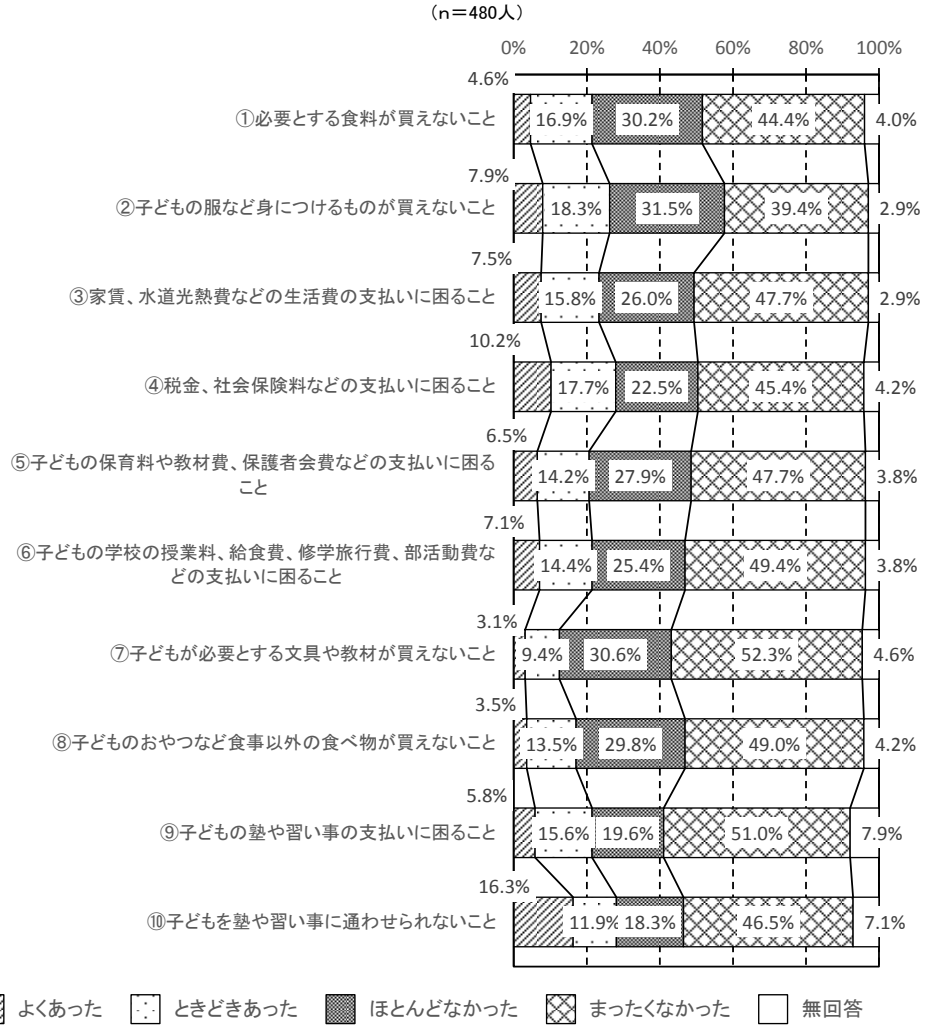


①～⑩の場面ごとに経済的に困った経験について、「よくあった」、「ときどきあった」という回答を困った経験があるとして整理すると、以下の場面において困った経験があるとの回答が多くなっています。

⑩子どもを塾や習い事に通わせられないこと（28.1%）
④税金、社会保険料などの支払いに困ること（27.9%）
②子どもの服など身につけるものが買えないこと（26.3%）

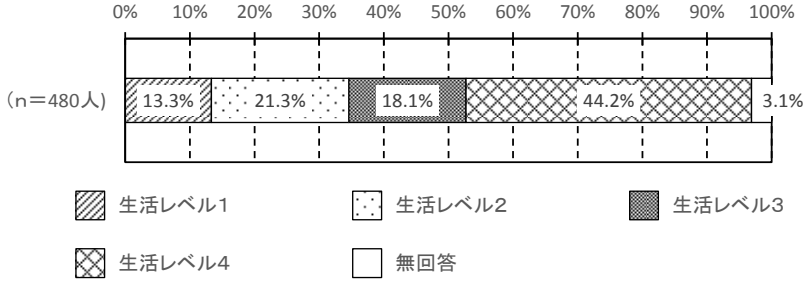
困った経験があるとの回答がもっとも少なかったのは、⑦子どもが必要とする文具や教材が買えないことで、12.5%となっています。

②経済的に困った経験の詳細



いずれの場面においても「まったくなかった」という回答が多数を占めています。
「よくあった」という回答がもっとも多かったのは、「⑩子どもを塾や習い事に通わせられないこと」（16.3%）となっています。

③生活レベルの判定



①～⑩の場面ごとに、この１年間にお金が足りなくて困ったことがあったかどうかについて、回答内容によって以下のように経済的な生活レベルを整理したところ、

生活レベル１：衣食住に関わる①②③は「よくあった」、「ときどきあった」のみに回答。
④～⑩の項目には「よくあった」「ときどきあった」「ほとんどなかった」「まったくなかった」といういずれの回答も含まれる。

生活レベル２：衣食住に関わる①②③のいずれかに「よくあった」、「ときどきあった」と回答。
④～⑩の項目には「よくあった」「ときどきあった」「ほとんどなかった」「まったくなかった」といういずれの回答も含まれる。

生活レベル３：衣食住に関わる①②③は、「ほとんどなかった」、「まったくなかった」のみに回答。
④～⑩の項目には、いずれかに「よくあった」、「ときどきあった」と回答。

生活レベル４：①～⑩のすべての項目の回答において、「ほとんどなかった」「まったくなかった」とだけ回答。

「生活レベル４」が 44.2%でもっとも多くなっています。
衣食住に関わるいずれかの項目に困った経験があるとする「生活レベル２」は 21.3%、衣食住に関わるすべての項目で経済的に困ったことがあるとする「生活レベル１」は 13.3%となっています。

○属性別にみた分析

		n	生活レベル1	生活レベル2	生活レベル3	生活レベル4	無回答
全体		100.0%	13.3%	21.3%	18.1%	44.2%	3.1%
		480人	64人	102人	87人	212人	15人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	22.4%	36.7%	18.4%	22.4%	0.0%
		49人	11人	18人	9人	11人	0人
	貧困線以上	100.0%	11.8%	19.7%	18.4%	47.2%	2.9%
		407人	48人	80人	75人	192人	12人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	21.8%	32.7%	18.2%	27.3%	0.0%
		55人	12人	18人	10人	15人	0人
	該当しない	100.0%	12.1%	19.9%	18.0%	46.4%	3.6%
		422人	51人	84人	76人	196人	15人
世帯収入の充足感	足りている	100.0%	0.0%	0.0%	5.4%	91.1%	3.6%
		56人	0人	0人	3人	51人	2人
	だいたい足りている	100.0%	0.0%	12.9%	10.3%	72.4%	4.3%
		116人	0人	15人	12人	84人	5人
	やや足りない	100.0%	9.1%	25.0%	29.5%	32.4%	4.0%
		176人	16人	44人	52人	57人	7人
	まったく足りていない	100.0%	37.8%	33.9%	15.0%	13.4%	0.0%
		127人	48人	43人	19人	17人	0人
家計のゆとり感	あると思う	100.0%	0.0%	0.0%	5.3%	84.2%	10.5%
		19人	0人	0人	1人	16人	2人
	どちらかといえばあると思う	100.0%	0.0%	3.3%	10.0%	86.7%	0.0%
		30人	0人	1人	3人	26人	0人
	普通	100.0%	0.0%	10.2%	14.1%	71.9%	3.9%
		128人	0人	13人	18人	92人	5人
	どちらかといえばないと思う	100.0%	7.0%	25.0%	28.1%	37.5%	2.3%
		128人	9人	32人	36人	48人	3人
	ないと思う	100.0%	32.4%	32.9%	16.5%	17.6%	0.6%
		170人	55人	56人	28人	30人	1人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	73.1%	19.2%	3.8%	3.8%	0.0%
		26人	19人	5人	1人	1人	0人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	31.4%	40.0%	17.1%	8.6%	2.9%
		35人	11人	14人	6人	3人	1人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	16.3%	35.6%	27.5%	18.1%	2.5%
		160人	26人	57人	44人	29人	4人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	2.8%	9.9%	13.8%	70.0%	3.6%
		253人	7人	25人	35人	177人	9人

生活レベル１だが「貧困にはあたらないと思う」と回答。

「貧困線未満」の世帯やひとり親世帯では「生活レベル１」、「生活レベル２」が半数以上を占めています。

世帯収入の充足感について足りないと感じているほど、家計のゆとり感についてゆとりがないという評価をしているほど、「生活レベル１」、「生活レベル２」の占める割合が高くなっています。

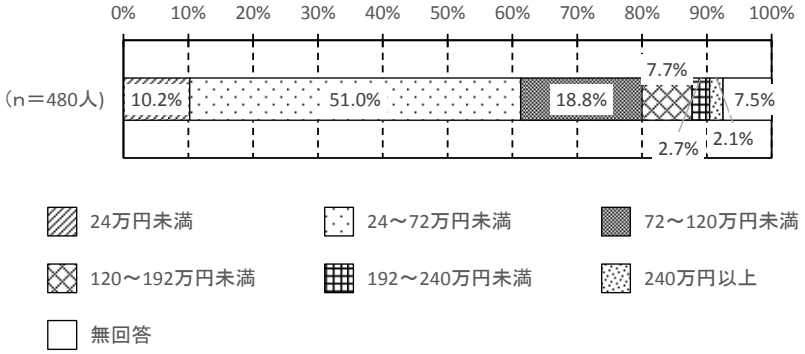
「貧困な状況にあると思う」という世帯では９割以上が「生活レベル１」、「生活レベル２」となっており、貧困ではないという評価の世帯になるほど割合は低くなっています。「貧困にはあたらないと思う」という世帯では70.0%が「生活レベル４」となっています。

３．子どもの教育や生活に関わる状況について

（１）子どもにかかる教育費

問１２　お子さんの教育にかかる費用は月額でおおよそいくらぐらいですか。問４で記入したお子さんの年代ごとに、おおよその金額をお答えください。同じ年代のお子さんが２人以上いる場合は合計額でお答えください。（回答欄に金額を記入）

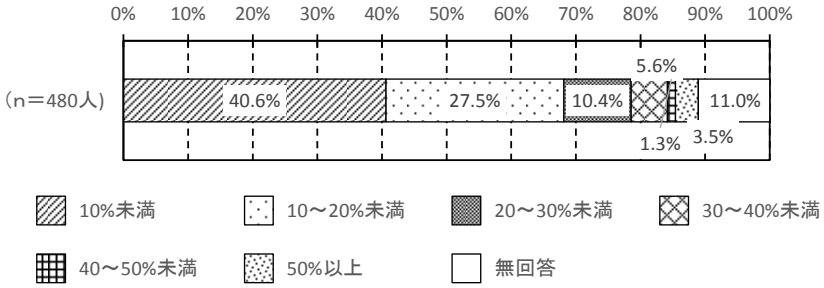
①子どもにかかる教育費（年額）



世帯のすべての子どもにかかる教育費の年額は、「24～72 万円未満」が 51.0%と半数を占めてもっとも多くなっています。

平均は 67.2 万円で、子どもの教育費は月に５万円以上となっています。

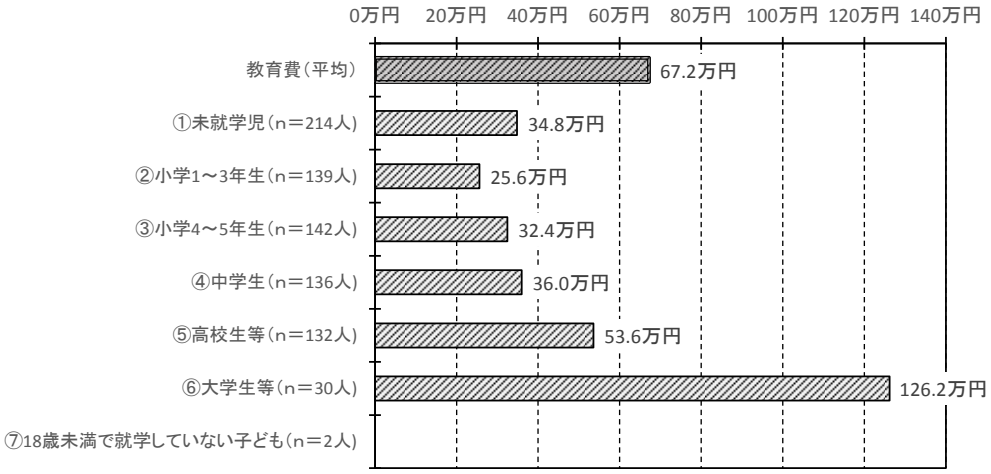
②家計に占める子どもにかかる教育費の割合



世帯のすべての子どもにかかる教育費が家計に占める割合は、「10%未満」が 40.6%でもっとも多く、ついで「10～20%未満」が 27.5%で、20%未満という回答が７割近くを占めています。

平均は 16.1%となっています。

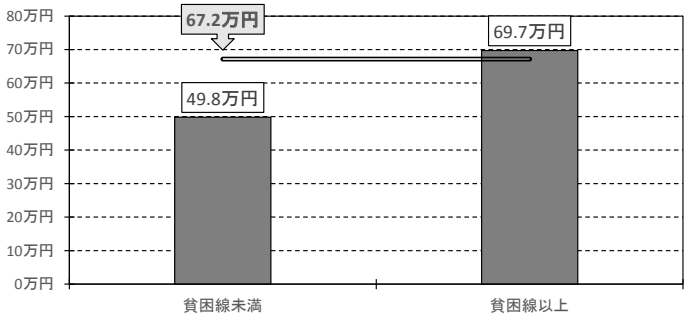
③子どもの年代別にみた教育費（年額）



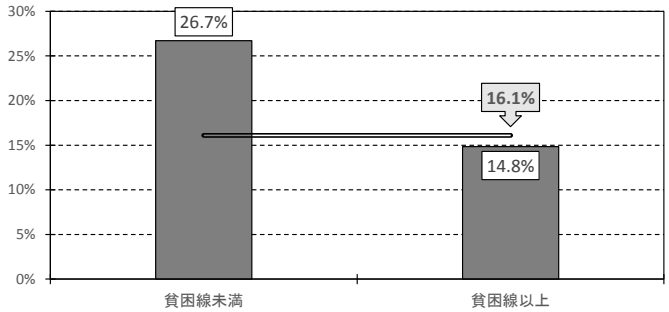
子どもの年代別に教育費の平均額をみると、おおむね子どもの年代が上昇するにつれて教育費は増大し、⑥大学生等では 126.2 万円と大きく増大します。

○属性別にみた分析

＜貧困線区分別＞

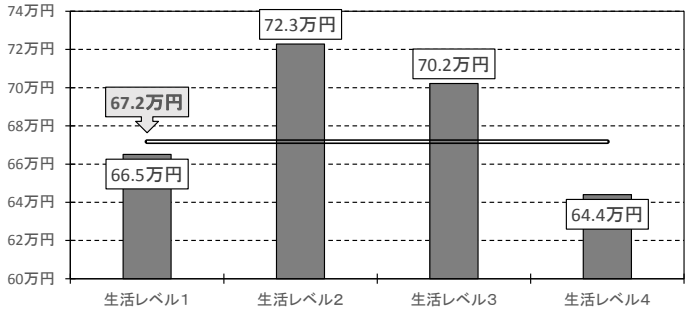


国の貧困線に基づく貧困線区分別にみると、「貧困線未満」の世帯の教育費は49.8 万円で、全体の平均である 67.2 万円を下回っています。

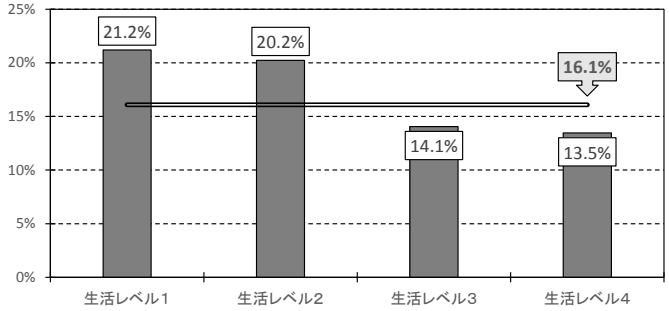


家計に占める教育費の割合は、「貧困線未満」の世帯では 26.7%と全体の平均である 16.1%を上回る水準となっています。

＜生活レベル別＞

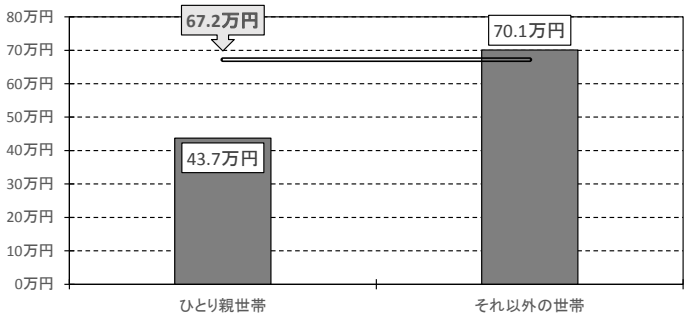


「生活レベル1」と「生活レベル4」の世帯の教育費は全体の平均である67.2 万円を下回っていますが、「生活レベル2」、「生活レベル3」では平均を上回る水準となっています。

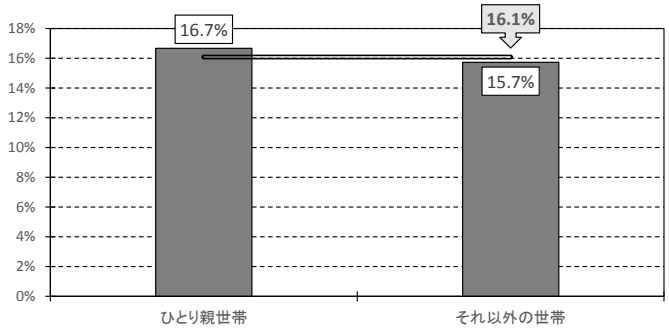


「生活レベル1」と「生活レベル2」では家計に占める教育費の割合は２割を超えて、全体の平均である 16.1%よりも高い水準となっています。

〈ひとり親世帯別〉

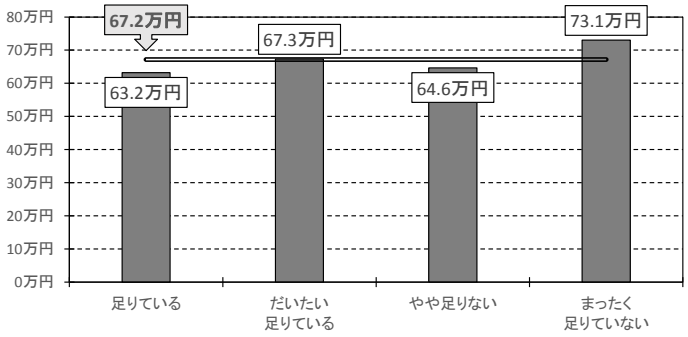


ひとり親世帯の教育費は 43.7 万円で、全体の平均を下回る水準となっています。

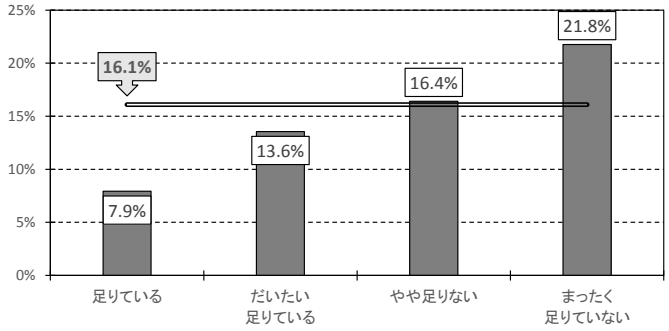


ひとり親世帯の方が家計に占める教育費の割合はやや高くなっていますが、ひとり親ではない世帯との間に大きな差はありません。

＜世帯収入の充足感別＞

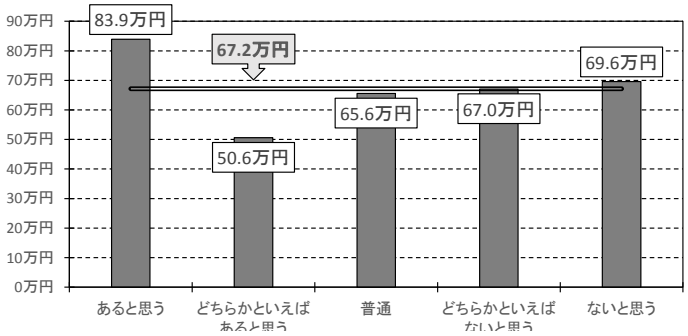


世帯収入の充足感別について「まったく足りていない」とする世帯では教育費が 73.1 万円と他の世帯よりも高額となっています。

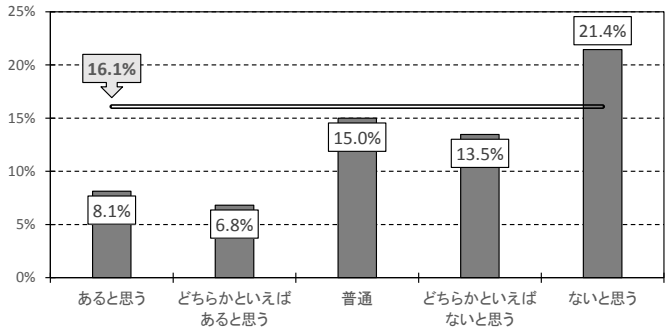


世帯収入に対する充足感について、「足りている」という世帯では家計に占める教育費の割合は 7.9%と１割未満となっていますが、「まったく足りない」では 21.8%と、世帯収入が足りていないと評価する世帯ほど家計に占める教育費の割合が高くなっています。

＜家計のゆとり感別＞

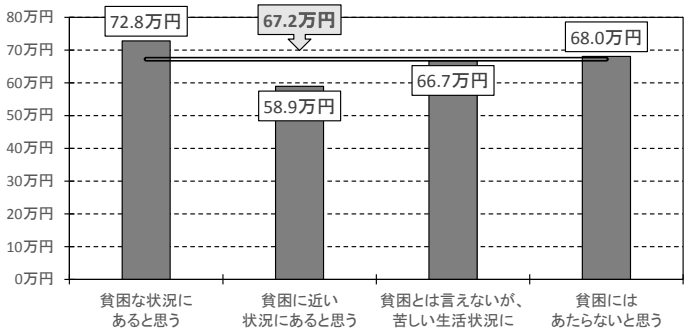


家計のゆとり感別にみると、ゆとりが「あると思う」という世帯の教育費が83.9 万円でもっとも高額となっていますが、「どちらかといえばあると思う」からゆとりがない世帯ほど教育費は高くなっています。

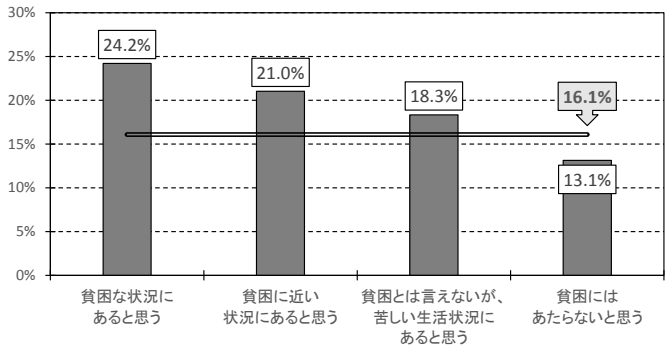


家計のゆとり感別にみると、ゆとりが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」という世帯では家計に占める教育費の割合は１割未満となっていますが、「ないと思う」という世帯では 21.4%となっています。

＜貧困に対する認識別＞



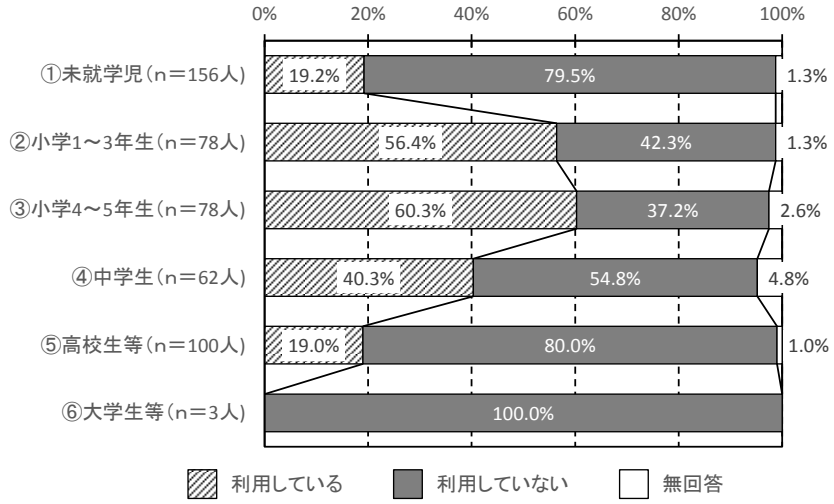
「貧困な状況にあると思う」世帯の教育費は 72.8 万円で、他の世帯よりも教育費は高額となっています。



「貧困な状況にあると思う」世帯の家計に占める教育費の割合は 24.2%で、貧困にはあたらないと評価する世帯ほど割合は低くなっています。

（２）習い事の状況

問１３　宛名のお子さんは塾や通信教育、家庭教師、その他習い事を利用していますか。（○は１つ）



習い事等の利用状況をみると、②小学１～３年生(56.4%)、③小学４～５年生（60.3%）と小学生が習い事をもっとも利用しています。その後年代が上がるにつれ、習い事を利用している割合は減少し、⑤高校生等では 19.0%となっています。

○属性別にみた分析

＜小学生（1～3年生）＞

		n	利用している	利用していない	無回答
全体		100.0%	56.4%	42.3%	1.3%
		78人	44人	33人	1人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	10.0%	90.0%	0.0%
		10人	1人	9人	0人
	貧困線以上	100.0%	62.7%	35.8%	1.5%
		67人	42人	24人	1人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	36.4%	63.6%	0.0%
		11人	4人	7人	0人
	該当しない	100.0%	59.7%	38.8%	1.5%
		67人	40人	26人	1人

習い事等を利用しているという回答が多かった小学生（1～3年生）についてみると、「貧困線未満」では「利用している」という回答は 10.0%と、全体に対して回答の割合が低くなっています。
ひとり親世帯でも「利用している」は 36.4%で、全体よりも回答の割合が低くなっています。

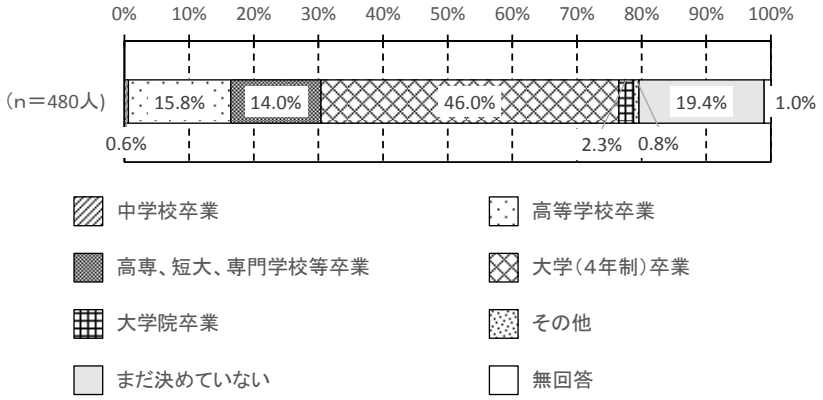
＜小学生（4～6年生）＞

		n	利用している	利用していない	無回答
全体		100.0%	60.3%	37.2%	2.6%
		78人	47人	29人	2人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%
		5人	2人	3人	0人
	貧困線以上	100.0%	62.0%	36.6%	1.4%
		71人	44人	26人	1人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%
		4人	2人	2人	0人
	該当しない	100.0%	60.8%	36.5%	2.7%
		74人	45人	27人	2人

小学生（4～6年生）についてみると、「利用している」という回答は「貧困線未満」では 40.0%、ひとり親世帯では 50.0%と全体に比べて回答の割合がやや低くなっています。

（3）子どもに希望する最終学歴

問１４　宛名のお子さんに希望する最終学歴は、どのようにお考えですか。（○は１つ）



子どもに希望する最終学歴としては、「大学（４年制）卒業」が 46.0%でもっとも多くなっています。

○属性別にみた分析

		n	中学校卒業	高等学校卒業	高専、短大、専門学校等卒業	大学（4年制）卒業	大学院卒業	その他	まだ決めていない	無回答
全体		100.0%	0.6%	15.8%	14.0%	46.0%	2.3%	0.8%	19.4%	1.0%
		480人	3人	76人	67人	221人	11人	4人	93人	5人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	0.0%	18.4%	18.4%	38.8%	0.0%	0.0%	24.5%	0.0%
		49人	0人	9人	9人	19人	0人	0人	12人	0人
	貧困線以上	100.0%	0.7%	15.7%	12.8%	47.4%	2.5%	1.0%	18.9%	1.0%
		407人	3人	64人	52人	193人	10人	4人	77人	4人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	1.6%	28.1%	18.8%	29.7%	1.6%	1.6%	18.8%	0.0%
		64人	1人	18人	12人	19人	1人	1人	12人	0人
	生活レベル2	100.0%	1.0%	20.6%	12.7%	43.1%	0.0%	1.0%	21.6%	0.0%
		102人	1人	21人	13人	44人	0人	1人	22人	0人
	生活レベル3	100.0%	0.0%	14.9%	19.5%	51.7%	0.0%	0.0%	13.8%	0.0%
		87人	0人	13人	17人	45人	0人	0人	12人	0人
	生活レベル4	100.0%	0.5%	10.4%	11.3%	51.4%	4.2%	0.9%	20.8%	0.5%
		212人	1人	22人	24人	109人	9人	2人	44人	1人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	1.8%	27.3%	20.0%	38.2%	0.0%	1.8%	10.9%	0.0%
		55人	1人	15人	11人	21人	0人	1人	6人	0人
	該当しない	100.0%	0.5%	14.2%	13.3%	47.4%	2.6%	0.7%	20.1%	1.2%
		422人	2人	60人	56人	200人	11人	3人	85人	5人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	0.0%	38.5%	23.1%	19.2%	0.0%	0.0%	19.2%	0.0%
		26人	0人	10人	6人	5人	0人	0人	5人	0人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	0.0%	25.7%	17.1%	31.4%	0.0%	0.0%	25.7%	0.0%
		35人	0人	9人	6人	11人	0人	0人	9人	0人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	1.9%	14.4%	15.6%	44.4%	0.6%	1.3%	20.6%	1.3%
		160人	3人	23人	25人	71人	1人	2人	33人	2人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	0.0%	12.6%	11.9%	52.2%	4.0%	0.8%	17.4%	1.2%
		253人	0人	32人	30人	132人	10人	2人	44人	3人

「貧困線未満」においても「大学（４年制）卒業」を希望する回答が 38.8%ともっとも多くなっていますが、全体よりも割合は低くなっています。

生活レベルの判定別にみると、生活レベルが低くなるほど、「大学（４年制）卒業」の回答の割合は低くなっており、反対に「高等学校卒業」の回答の割合は高くなっています。

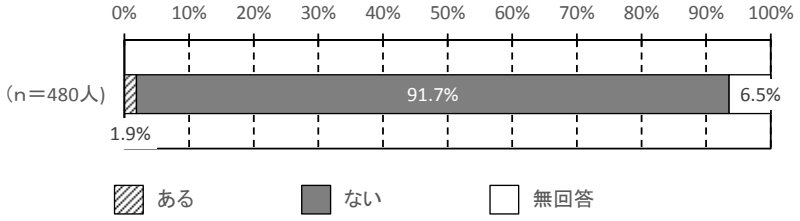
ひとり親世帯でも「大学（４年制）卒業」を希望する回答がもっとも多いものの、割合は全体よりも低く 38.2%となっています。

貧困に対する認識別にみると、貧困な状況にあるとの評価になるほど「高等学校卒業」への回答の割合が高くなっており、「貧困な状況にあると思う」では 38.5%となっています。

（4）経済的理由による進学・就学への影響

1）経済的理由によって進学・就学を断念した経験

問１５　経済的な理由によって、宛名のお子さんの進学や就学を断念（中退を含む）したことはありましたか。（○は１つ）



経済的理由によって進学・就学を断念した経験については、91.7%が「ない」としています。「ある」としたのは 1.9%となっています。

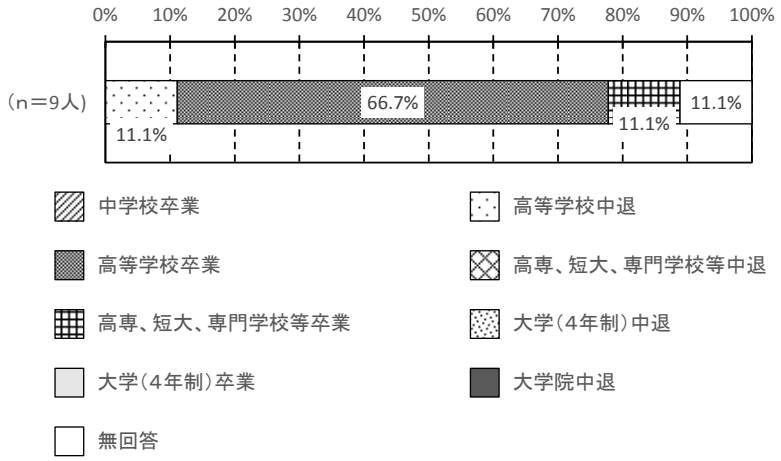
○属性別にみた分析

		n	ある	ない	無回答
全体		100.0%	1.9%	91.7%	6.5%
		480人	9人	440人	31人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	6.1%	89.8%	4.1%
		49人	3人	44人	2人
	貧困線以上	100.0%	1.2%	92.6%	6.1%
		407人	5人	377人	25人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	6.3%	82.8%	10.9%
		64人	4人	53人	7人
	生活レベル2	100.0%	3.9%	90.2%	5.9%
		102人	4人	92人	6人
	生活レベル3	100.0%	1.1%	93.1%	5.7%
		87人	1人	81人	5人
	生活レベル4	100.0%	0.0%	97.2%	2.8%
		212人	0人	206人	6人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	9.1%	83.6%	7.3%
		55人	5人	46人	4人
	該当しない	100.0%	0.9%	92.7%	6.4%
		422人	4人	391人	27人

どの属性においても、経済的理由によって進学・就学を断念した経験が「ある」との回答は少ないものの、「貧困線未満」では「ある」との回答が 6.1％、ひとり親世帯では 9.1％と、全体の 1.9%よりも高い割合となっています。

2）進学・就学を断念した場合の子どもの最終学歴

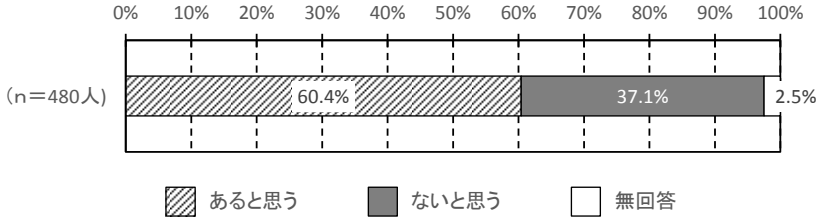
問１６　実際の最終学歴は、どのようになりましたか。（○は１つ）



経済的理由によって進学・就学を断念した経験が「ある」とした子どもの最終学歴は「高等学校卒業」がもっとも多く、大学への進学を断念したものと考えられます。

３）経済的理由によって進学・就学を断念する可能性

問１７　経済的な理由によって、お子さんの進学や就学を、今後断念するかもしれない可能性はありますか。（○は１つ）



今後、経済的理由によって進学・就学を断念する可能性については、60.4%が「あると思う」としています。

○属性別にみた分析

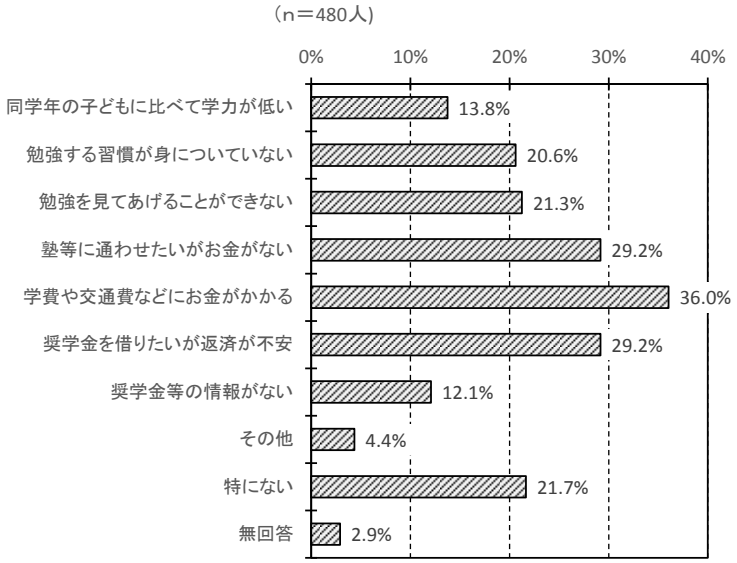
		n	あると思う	ないと思う	無回答
全体		100.0%	60.4%	37.1%	2.5%
		480人	290人	178人	12人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	67.3%	30.6%	2.0%
		49人	33人	15人	1人
	貧困線以上	100.0%	60.4%	37.8%	1.7%
		407人	246人	154人	7人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	92.2%	6.3%	1.6%
		64人	59人	4人	1人
	生活レベル2	100.0%	73.5%	25.5%	1.0%
		102人	75人	26人	1人
	生活レベル3	100.0%	75.9%	23.0%	1.1%
		87人	66人	20人	1人
	生活レベル4	100.0%	40.1%	58.0%	1.9%
		212人	85人	123人	4人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	74.5%	23.6%	1.8%
		55人	41人	13人	1人
	該当しない	100.0%	58.3%	39.1%	2.6%
		422人	246人	165人	11人
世帯収入の充足感	足りている	100.0%	26.8%	69.6%	3.6%
		56人	15人	39人	2人
	だいたい足りている	100.0%	42.2%	54.3%	3.4%
		116人	49人	63人	4人
	やや足りない	100.0%	68.8%	29.0%	2.3%
		176人	121人	51人	4人
	まったく足りていない	100.0%	80.3%	18.9%	0.8%
		127人	102人	24人	1人
家計のゆとり感	あると思う	100.0%	10.5%	78.9%	10.5%
		19人	2人	15人	2人
	どちらかといえばあると思う	100.0%	36.7%	63.3%	0.0%
		30人	11人	19人	0人
	普通	100.0%	42.2%	55.5%	2.3%
		128人	54人	71人	3人
	どちらかといえばないと思う	100.0%	64.8%	35.2%	0.0%
		128人	83人	45人	0人
	ないと思う	100.0%	82.4%	16.5%	1.2%
		170人	140人	28人	2人

今後、経済的理由によって進学・就学を断念する可能性について、貧困線区分の状況による大きな違いはみられません。

しかし、「生活レベル１」では9割が「あると思う」としており、ひとり親世帯でも7割以上が「あると思う」としています。

（5）教育に関して心配なこと

問１８　お子さんの教育に関して心配なことは何ですか。（○はいくつでも）



教育に関して心配なことについては、「学費や交通費などにお金がかかる」が36.0%でもっとも多く、ついで「塾等に通わせたいがお金がない」（29.2%）、「奨学金を借りたいが返済が不安」（29.2%）が多くなっています。

教育にかかわる経済的な問題に対する回答が多く挙げられています。

その他として具体的には、子どもの障害などが心配といった意見が挙げられていました。

○属性別にみた分析

		n	同学年の子どもに比べて学力が低い	勉強する習慣が身についていない	勉強を見てあげることができない	塾等に通わせたいがお金がない	学費や交通費などにお金がかかる	奨学金を借りたいが返済が不安	奨学金等の情報がない
全体		100.0%	13.8%	20.6%	21.3%	29.2%	36.0%	29.2%	12.1%
		480人	66人	99人	102人	140人	173人	140人	58人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	26.5%	20.4%	24.5%	40.8%	36.7%	32.7%	16.3%
		49人	13人	10人	12人	20人	18人	16人	8人
	貧困線以上	100.0%	12.5%	21.1%	21.1%	28.3%	36.6%	29.5%	11.5%
		407人	51人	86人	86人	115人	149人	120人	47人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	21.9%	21.9%	34.4%	59.4%	54.7%	51.6%	20.3%
		64人	14人	14人	22人	38人	35人	33人	13人
	生活レベル2	100.0%	18.6%	18.6%	24.5%	41.2%	43.1%	44.1%	8.8%
		102人	19人	19人	25人	42人	44人	45人	9人
	生活レベル3	100.0%	18.4%	21.8%	29.9%	42.5%	36.8%	32.2%	14.9%
		87人	16人	19人	26人	37人	32人	28人	13人
	生活レベル4	100.0%	8.0%	21.2%	12.7%	10.4%	28.3%	14.2%	9.9%
		212人	17人	45人	27人	22人	60人	30人	21人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	20.0%	29.1%	27.3%	47.3%	36.4%	50.9%	16.4%
		55人	11人	16人	15人	26人	20人	28人	9人
	該当しない	100.0%	12.8%	19.4%	20.1%	26.8%	35.8%	26.3%	11.4%
		422人	54人	82人	85人	113人	151人	111人	48人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	26.9%	19.2%	46.2%	53.8%	65.4%	53.8%	30.8%
		26人	7人	5人	12人	14人	17人	14人	8人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	22.9%	28.6%	31.4%	45.7%	45.7%	42.9%	14.3%
		35人	8人	10人	11人	16人	16人	15人	5人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	18.1%	20.6%	19.4%	44.4%	41.3%	41.9%	11.3%
		160人	29人	33人	31人	71人	66人	67人	18人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	8.3%	19.8%	17.4%	14.6%	28.9%	17.0%	10.7%
		253人	21人	50人	44人	37人	73人	43人	27人

		n	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	4.4%	21.7%	2.9%
		480人	21人	104人	14人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	2.0%	16.3%	0.0%
		49人	1人	8人	0人
	貧困線以上	100.0%	4.4%	21.4%	3.2%
		407人	18人	87人	13人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	6.3%	10.9%	0.0%
		64人	4人	7人	0人
	生活レベル2	100.0%	2.9%	13.7%	2.9%
		102人	3人	14人	3人
	生活レベル3	100.0%	2.3%	10.3%	3.4%
		87人	2人	9人	3人
	生活レベル4	100.0%	5.7%	33.5%	1.4%
		212人	12人	71人	3人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	9.1%	9.1%	1.8%
		55人	5人	5人	1人
	該当しない	100.0%	3.6%	23.5%	3.1%
		422人	15人	99人	13人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	7.7%	11.5%	0.0%
		26人	2人	3人	0人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	2.9%	11.4%	2.9%
		35人	1人	4人	1人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	1.3%	15.0%	3.8%
		160人	2人	24人	6人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	6.3%	28.1%	2.8%
		253人	16人	71人	7人

「貧困線未満」の世帯では全般的に「貧困線以上」の世帯よりも回答の割合が高く、特に「塾等に通わせたいがお金がない」（40.8%）、「同学年の子どもに比べて学力が低い」（26.5%）などは割合が高くなっています。

「生活レベル１」では、「塾等に通わせたいがお金がない」（59.4%）、「学費や交通費などにお金がかかる」（54.7%）、「奨学金を借りたいが返済が不安」（51.6%）などへの回答が半数を超えています。

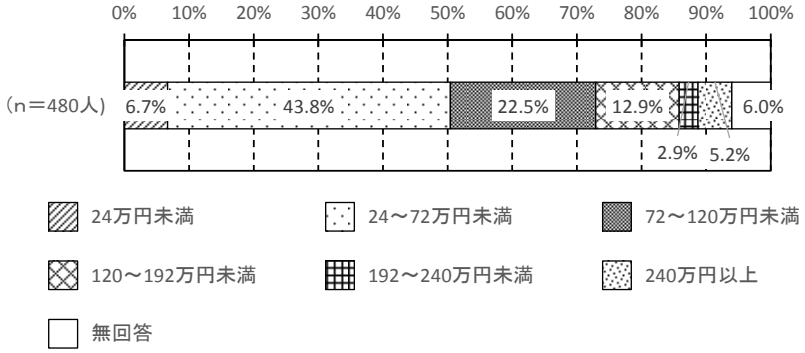
ひとり親世帯では、「奨学金を借りたいが返済が不安」（50.9%）、「塾等に通わせたいがお金がない」（47.3%）などへの回答が全体よりも特に高い割合となっています。

また「貧困な状況にあると思う」という世帯では、「学費や交通費などにお金がかかる」への回答が65.4%と6割を超えています。

（６）子どもにかかる生活費

問１９　お子さんの生活にかかる費用はひと月あたりおおよそどのぐらいですか。同じ年代のお子さんが２人以上いる場合は合計額でお答えください。（回答欄に金額を記入）

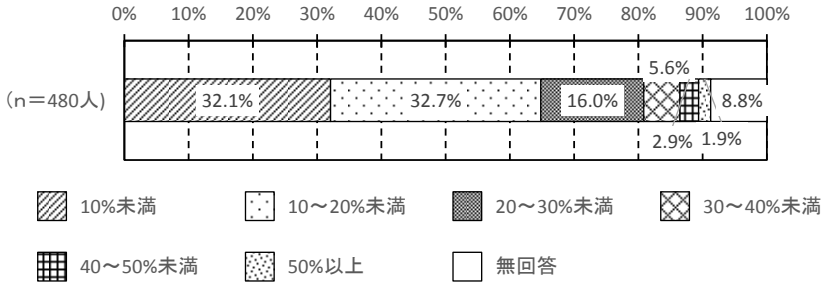
①子どもにかかる生活費（年額）



世帯のすべての子どもにかかる生活費の年額は、「24～72 万円未満」が 43.8%でもっとも多くなっています。

平均は 92.7 万円で、子どもの生活費は月に７万円以上となっています。

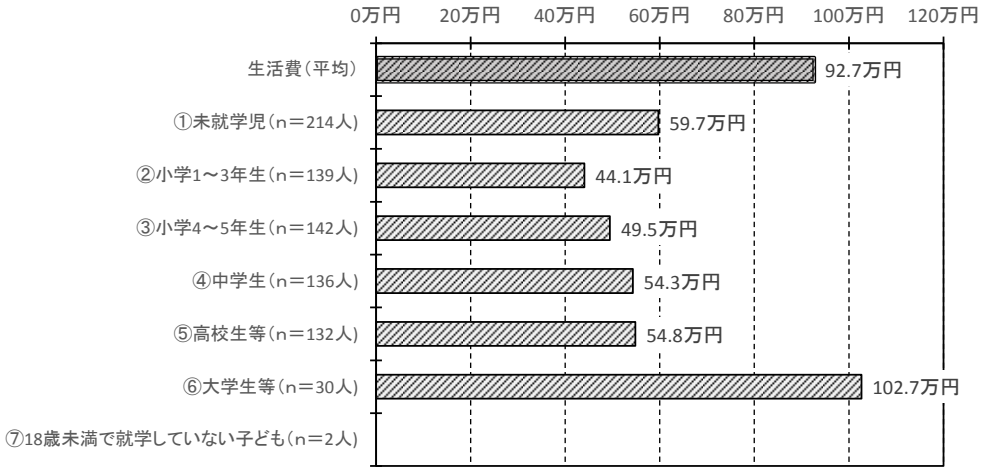
②家計に占める子どもにかかる生活費の割合



世帯のすべての子どもにかかる生活費が家計に占める割合は、「10%未満」が 32.1%、「10～20%未満」が 32.7%とともに３割を超え、20%未満という回答が６割以上を占めています。

平均は 16.5%となっています。

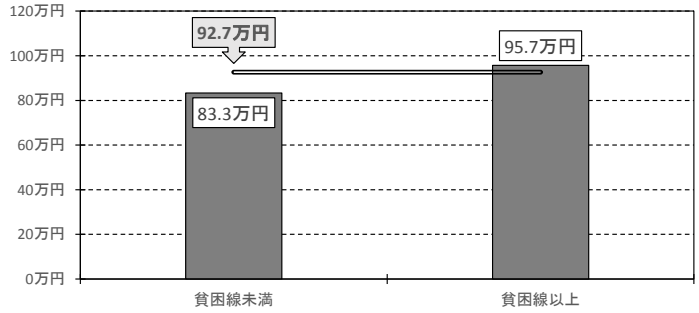
③子どもの年代別にみた生活費（年額）



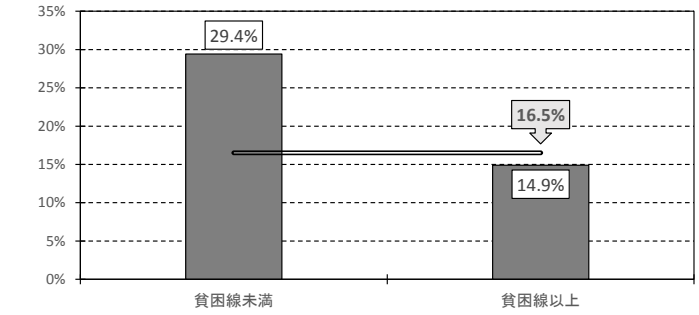
子どもの年代別に生活費の平均額をみると、おおむね子どもの年代が上昇するにつれて生活費は増大し、⑥大学生等では 102.7 万円と大きく増大します。

○属性別にみた分析

＜貧困線区分別＞

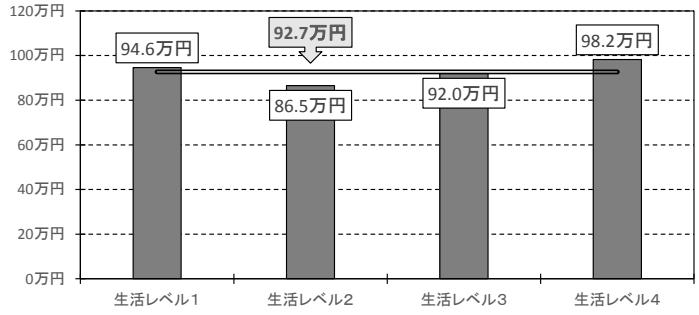


国の貧困線に基づく貧困線区分別にみると、「貧困線未満」の世帯の生活費は83.3 万円で、全体の平均である 92.7 万円を下回っています。

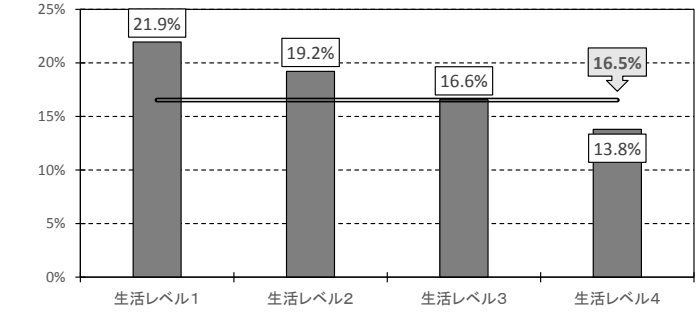


家計に占める生活費の割合は、「貧困線未満」の世帯では 29.4%と全体の平均である 16.5%を上回る水準となっています。

＜生活レベル別＞

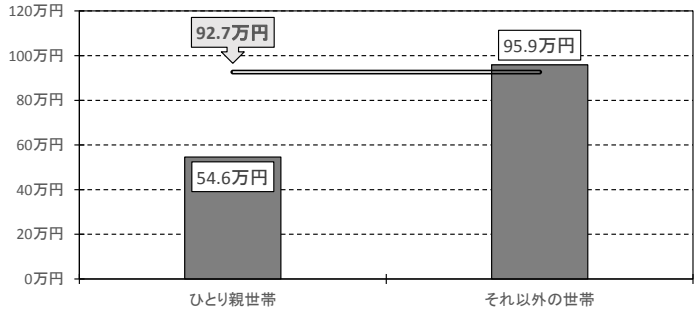


生活レベル別にみると、子どもにかかる生活費に大きな違いはみられません。

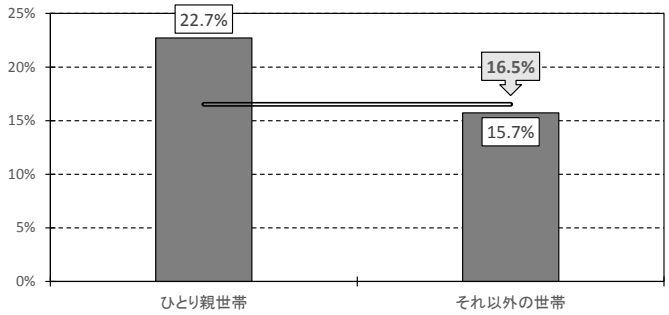


家計に占める教育費の割合は生活レベルが上がるほど（経済的に困った経験がないほど）割合が低くなっています。

〈ひとり親世帯別〉

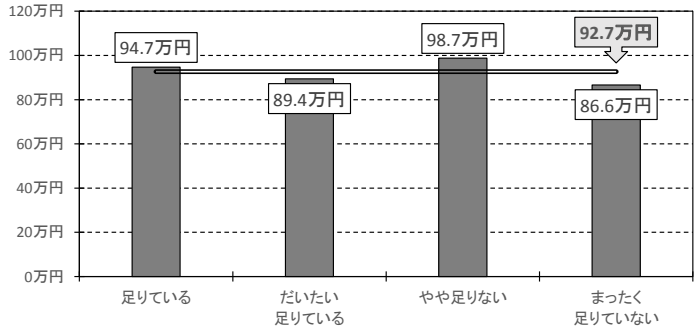


ひとり親世帯の生活費は54.6万円で、全体の平均を下回る水準となっています。

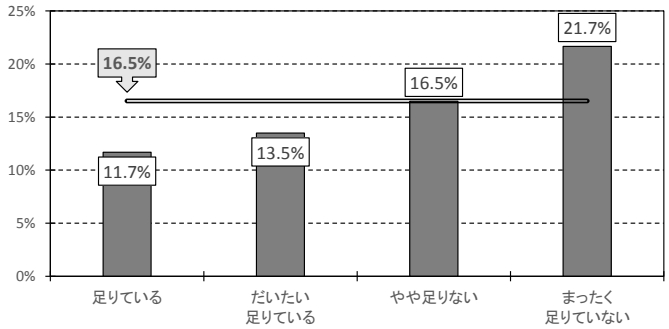


ひとり親世帯の方が家計に占める生活費の割合は高く、22.7%となっています。

＜世帯収入の充足感別＞

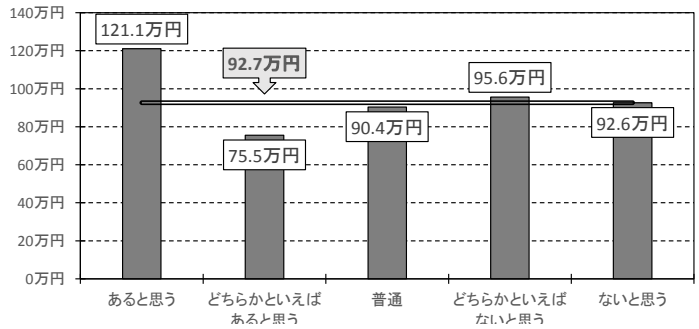


世帯収入の充足感別にみると、子どもにかかる生活費に大きな差はみられません。

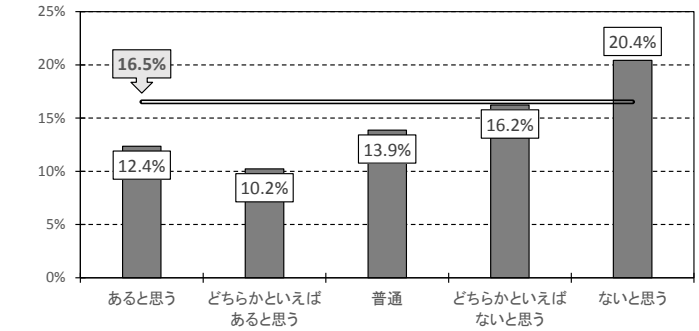


世帯収入に対する充足感について、「足りている」という世帯では家計に占める生活費の割合は11.7%となっていますが、「まったく足りない」では 21.7%と、世帯収入が足りていないと評価する世帯ほど家計に占める生活費の割合が高くなっています。

＜家計のゆとり感別＞

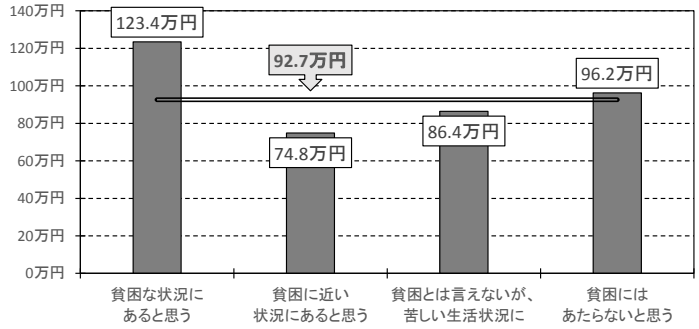


家計のゆとり感別にみると、ゆとりが「あると思う」という世帯の生活費が121.1 万円でもっとも高額となっています。「普通」からゆとりが「ないと思う」という世帯では、生活費に大きな違いはみられません。

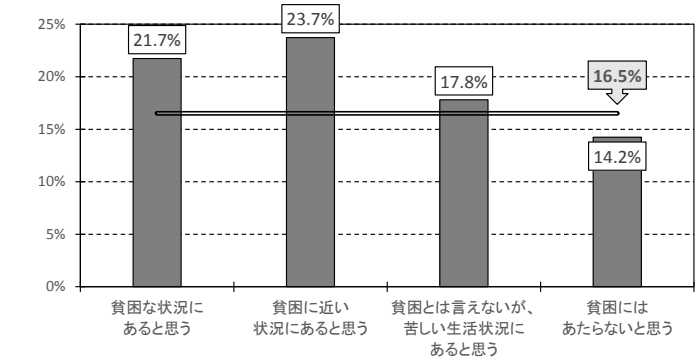


家計のゆとり感別にみると、おおむね、ゆとりがある世帯よりもない世帯になるほど、家計に占める教育費の割合は高くなっています。

＜貧困に対する認識別＞



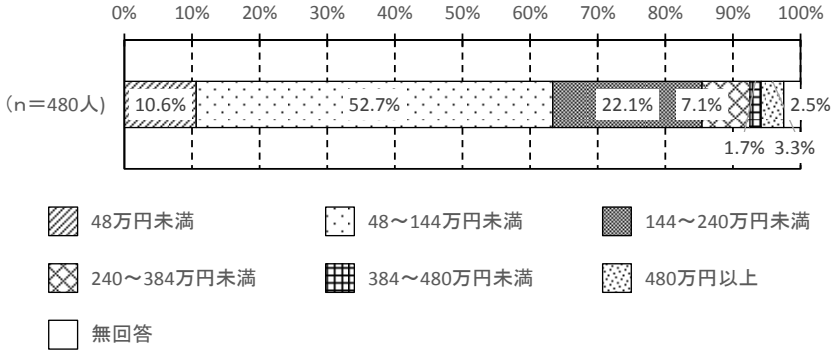
「貧困な状況にあると思う」世帯の生活費は 123.4 万円で、他の世帯よりも生活費は高額となっています。



「貧困な状況にあると思う」世帯の家計に占める教育費の割合は 21.7%、「貧困に近い状況にあると思う」世帯では 23.7%と2割を超える高い割合を占め、「貧困にはあたらないと思う」世帯では 14.2%と他の世帯よりも割合は低くなっています。

（7）子どもにかかる費用

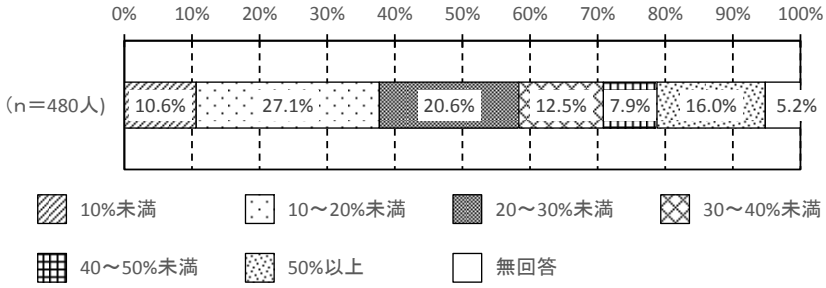
①子どもにかかる費用（年額）



世帯のすべての子どもにかかる教育費と生活費をあわせた子どもにかかる費用の総額をみると、「48～144 万円未満」が 52.7%と半数以上を占めています。

6割以上は 144 万円未満で、平均は 142.8 万円と、月に 12 万円未満となっています。

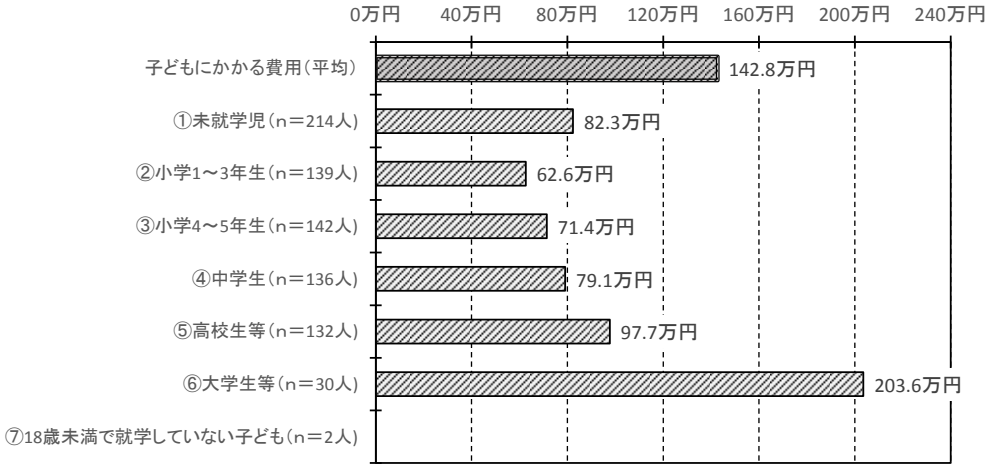
②家計に占める子どもにかかる費用の割合



子どもにかかる費用の総額が家計に占める割合をみると、「10～20%未満」が 27.1%でもっとも多く、3割未満が 58.3%と6割近くを占めています。

平均は 32.5%となっていますが、家計の「50%以上」を占めるという回答も 16.0%となっています。

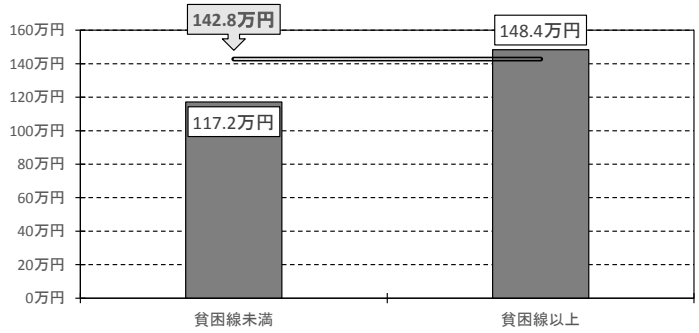
③子どもの年代別にみた子どもにかかる費用（年額）



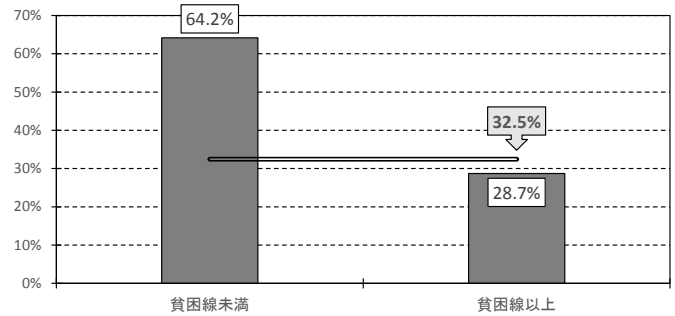
子どもの年代別に子どもにかかる費用の総額の平均をみると、①未就学児は 82.3 万円と④中学生の 79.1%と同水準となっていますが、小学生以降、年代が上がるほど子どもにかかる費用は増大し、⑥高校生等で 97.7 万円とほぼ 100 万円となり、⑥大学生等では高校生の倍の 203.6 万円と特に大きく増大します。

○属性別にみた分析

＜貧困線区分別＞

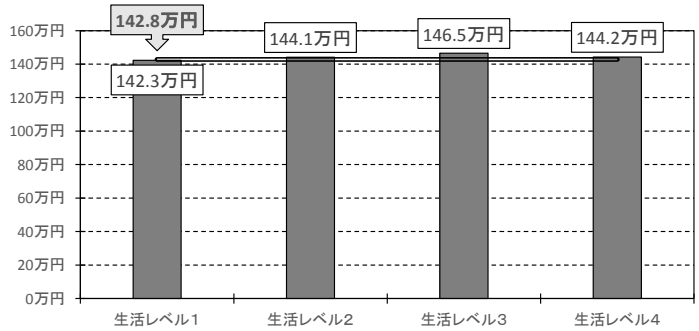


世帯の子どもにかかる教育費と生活費をあわせた子どもにかかる費用の総額は、「貧困線未満」では 117.2 万円と全体の平均である 142.8 万円よりも低い水準となっています。

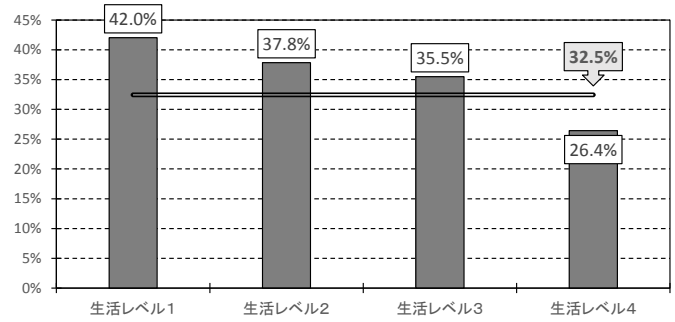


家計に占める子どもにかかる費用の割合は、「貧困線未満」では 64.2%と6割を超え、全体よりもかなり高い水準となっています。

＜生活レベル別＞

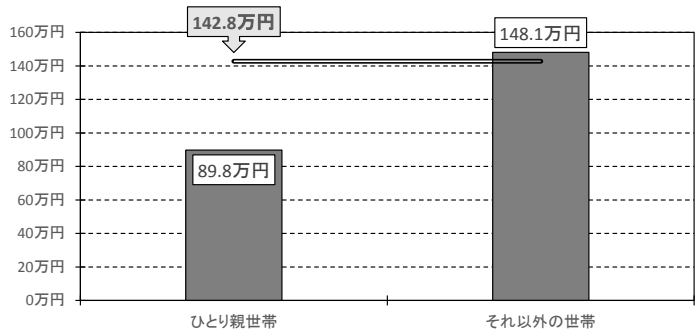


「生活レベル１」の世帯では、子どもにかかる費用は 142.3 万円で他の世帯よりもやや低くなっていますが、生活レベル１～４まで金額に大きな差はみられません。

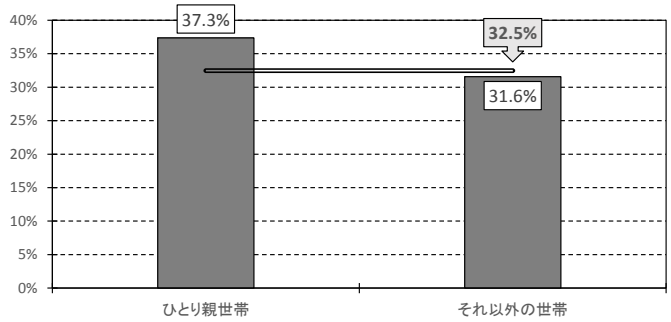


「生活レベル１」では家計に占める子どもにかかる費用の割合は 42.0%で、生活レベルが上がるほど割合は低くなっています。

〈ひとり親世帯別〉

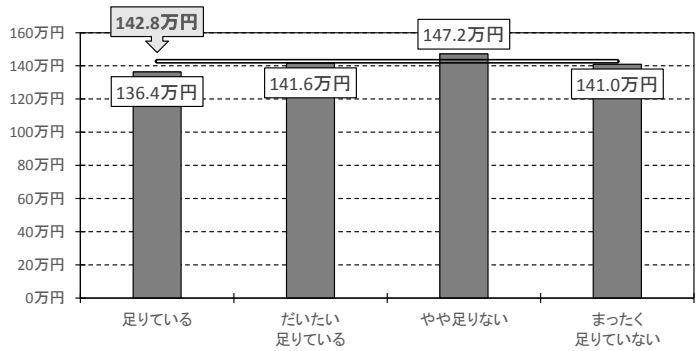


ひとり親世帯の子どもにかかる費用は89.8 万円で、全体の平均を下回る水準となっています。

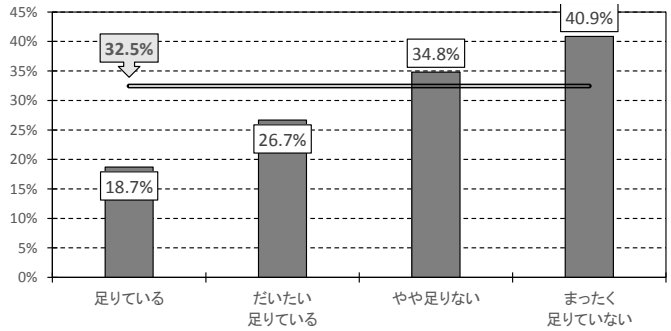


ひとり親世帯の方が、家計に占める子どもにかかる費用の割合はやや高くなっています。

＜世帯収入の充足感別＞

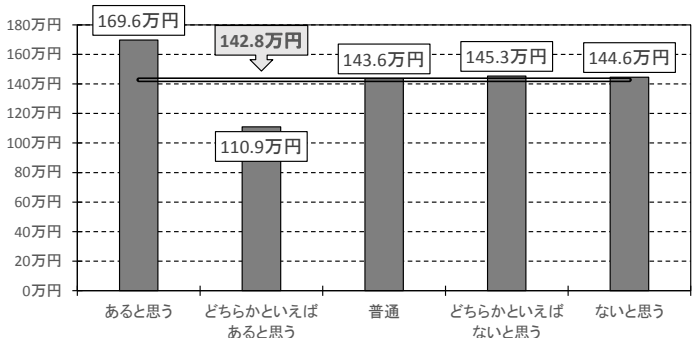


世帯収入の充足感別にみると、「足りている」という世帯では 136.4 万円と他の世帯よりも金額は少なくなっていますが、他の世帯との差はあまり大きくはありません。

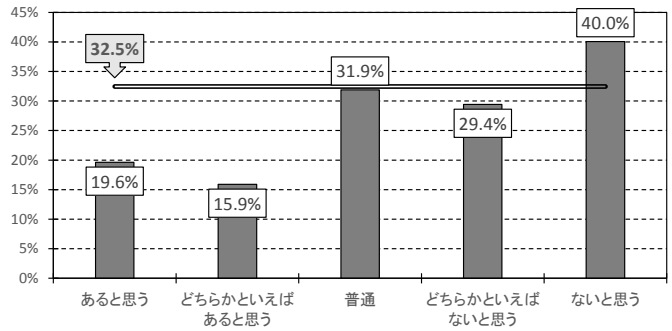


「足りている」という世帯では、家計に占める子どもにかかる費用の割合は18.7%と他の世帯よりも低くなっており、足りないという評価の世帯になるほど割合は高く、「まったく足りない」では40.9%となっています。

＜家計のゆとり感別＞

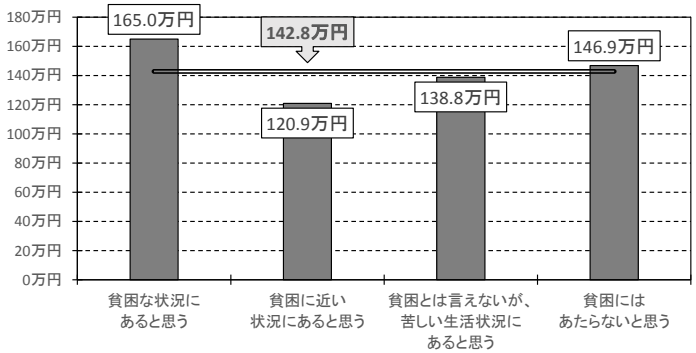


家計のゆとり感別にみると、ゆとりが「あると思う」という世帯の子どもにかかる費用は 169.6 万円でもっとも高額となっています。「普通」からゆとりが「ないと思う」という世帯では、子どもにかかる費用に大きな違いはみられません。

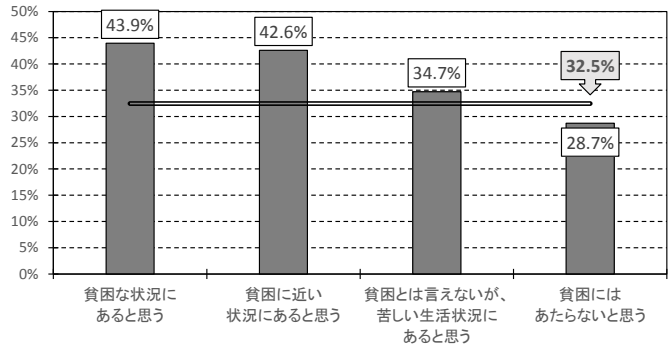


家計のゆとり感別にみると、ゆとりが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」という世帯よりも、ゆとりがないという世帯の方が家計に占める子どもにかかる費用の割合は高く、「ないと思う」では 40.0%となっています。

＜貧困に対する認識別＞



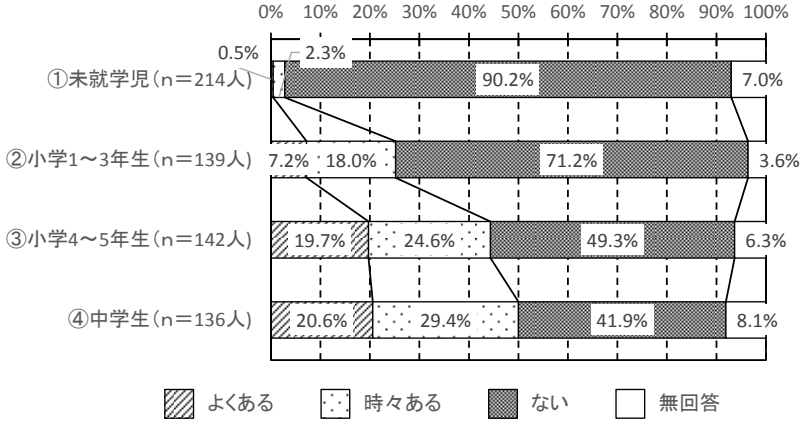
「貧困な状況にあると思う」世帯の子どもにかかる費用は 165.0 万円で、他の世帯よりも高額となっています。



「貧困な状況にあると思う」世帯の家計に占める子どもにかかる費用の割合は 43.9%で、貧困にはあたらないと評価する世帯ほど割合は低く、「貧困にはあたらないと思う」という世帯では 28.7%となっています。

（８）平日、子どもだけで過ごす状況

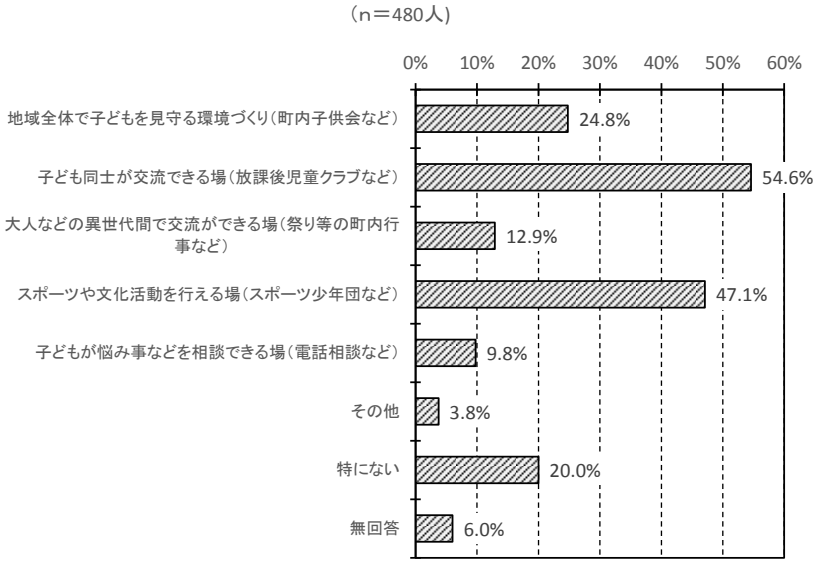
問２０　お子さん（中学生まで）が、平日の午後６時頃まで、子どもだけで過ごすことはありますか。（○は１つ）



平日の午後に子どもだけで過ごす機会についてみると、①未就学児ではほとんどありませんが、②小学１～３年生では「よくある」（7.2%）と「時々ある」（18.0%）をあわせた、子どもだけで過ごすことがあるという回答が25.2%、以降、年代が上がるにつれて割合は上昇し、④中学生では 50.0%と半数を占めています。

（９）子どもの居場所づくりに対する希望

問２１　放課後の子どもの居場所づくりにおいて充実してほしいことはどのようなことですか。（○はいくつでも）



放課後の子どもの居場所づくりにおいて充実してほしいこととしては、「子ども同士が交流できる場（放課後児童クラブなど）」が54.6%と半数を超え、ついで「スポーツや文化活動を行える場（スポーツ少年団など）」が47.1%となっています。

その他として具体的には、「学校で宿題をやることを許可してほしいです。（教室の開放）」、「理由があってスポーツ少年団に所属できない子の為のスポーツをする場所」、「放課後の時間に、大人が家にいることができれば一番いいと思います。（勤務時間の短縮等）」、「一時預かりなどの制度（２１時頃までなど）」、「図書館のように勉強や読書できる場所」、「子供の送迎、特に迎え、父母共に迎えが出来ない時がある。よほど天候が悪い時は仕事を抜けなければならない。他の父母に頼むのも申し訳ない。」などの意見がありました。

○属性別にみた分析

		n	地域全体で子どもを見守る環境づくり（町内子供会など）	子ども同士が交流できる場（放課後児童クラブなど）	大人などの異世代間で交流ができる場（祭り等の町内行事など）	スポーツや文化活動を行える場（スポーツ少年団など）	子どもが悩み事などを相談できる場（電話相談など）	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	24.8%	54.6%	12.9%	47.1%	9.8%	3.8%	20.0%	6.0%
		480人	119人	262人	62人	226人	47人	18人	96人	29人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	22.4%	57.1%	10.2%	36.7%	6.1%	2.0%	22.4%	12.2%
		49人	11人	28人	5人	18人	3人	1人	11人	6人
	貧困線以上	100.0%	24.8%	54.3%	13.5%	49.1%	9.6%	4.2%	19.9%	4.4%
		407人	101人	221人	55人	200人	39人	17人	81人	18人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	25.0%	56.3%	9.4%	40.6%	12.5%	6.3%	21.9%	7.8%
		64人	16人	36人	6人	26人	8人	4人	14人	5人
	生活レベル2	100.0%	27.5%	51.0%	14.7%	41.2%	12.7%	3.9%	27.5%	2.9%
		102人	28人	52人	15人	42人	13人	4人	28人	3人
	生活レベル3	100.0%	21.8%	54.0%	13.8%	49.4%	9.2%	2.3%	19.5%	6.9%
		87人	19人	47人	12人	43人	8人	2人	17人	6人
	生活レベル4	100.0%	25.5%	56.6%	13.2%	51.4%	8.0%	3.8%	17.0%	4.7%
		212人	54人	120人	28人	109人	17人	8人	36人	10人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	23.6%	52.7%	9.1%	34.5%	12.7%	0.0%	25.5%	9.1%
		55人	13人	29人	5人	19人	7人	0人	14人	5人
	該当しない	100.0%	24.9%	54.7%	13.3%	48.8%	9.0%	4.0%	19.4%	5.5%
		422人	105人	231人	56人	206人	38人	17人	82人	23人

「貧困線未満」では、「スポーツや文化活動を行える場（スポーツ少年団など）」への回答が36.7%と全体に比べて回答の割合が低くなっています。

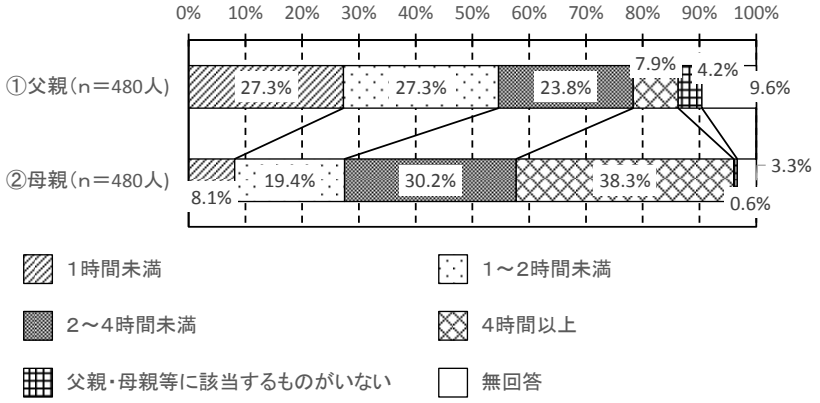
また生活レベルの判定別では、生活レベルが低いほど「スポーツや文化活動を行える場（スポーツ少年団など）」への回答の割合が低く、ひとり親世帯でも「スポーツや文化活動を行える場（スポーツ少年団など）」への回答は34.5%と全体よりも低い割合となっています。

4．子どもとの関わりについて

（1）子どもとのふれあいの状況

問22　①父親（または父親に代わる方）、②母親（または母親に代わる方）はお子さんとの会話やふれあいをどの程度もたれていますか。

1）平日の子どもとのふれあい時間



平日の保護者と子どもとのふれあいの時間をみると、①父親よりも②母親の方がふれあう時間は長く、①父親では4時間未満が８割近くを占めているのに対して、②母親では「4時間以上」が 38.3%と4割近くを占めています。

○属性別にみた分析

＜①父親＞

		n	1時間未満	1～2時間未満	2～4時間未満	4時間以上	父親または父親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	27.3%	27.3%	23.8%	7.9%	4.2%	9.6%
		480人	131人	131人	114人	38人	20人	46人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	24.5%	12.2%	18.4%	4.1%	8.2%	32.7%
		49人	12人	6人	9人	2人	4人	16人
	貧困線以上	100.0%	28.7%	29.7%	23.1%	8.4%	3.9%	6.1%
		407人	117人	121人	94人	34人	16人	25人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	7.3%	5.5%	3.6%	3.6%	29.1%	50.9%
		55人	4人	3人	2人	2人	16人	28人
	該当しない	100.0%	29.9%	30.3%	26.5%	8.5%	0.9%	3.8%
		422人	126人	128人	112人	36人	4人	16人

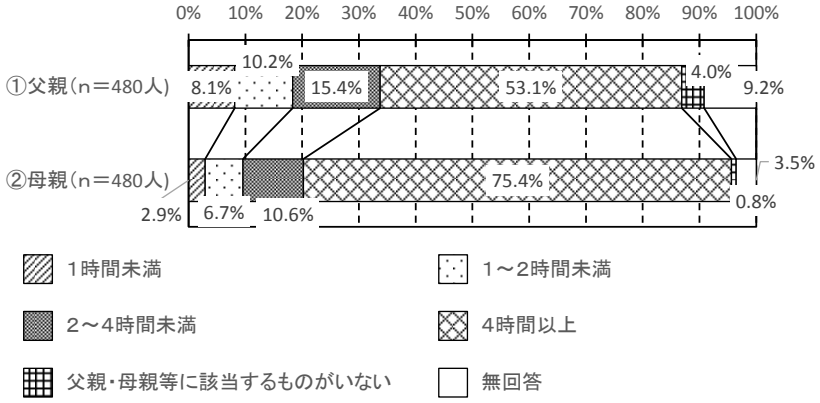
平日の父親と子どもとのふれあいの時間は、全体では2時間以上という回答が 31.7%となっていますが、「貧困線未満」では 22.4%、ひとり親世帯では 7.3%と全体に比べて回答の割合が低くなっています。

＜②母親＞

		n	1時間未満	1～2時間未満	2～4時間未満	4時間以上	母親または母親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	8.1%	19.4%	30.2%	38.3%	0.6%	3.3%
		480人	39人	93人	145人	184人	3人	16人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	12.2%	14.3%	20.4%	49.0%	0.0%	4.1%
		49人	6人	7人	10人	24人	0人	2人
	貧困線以上	100.0%	7.9%	20.4%	31.2%	36.9%	0.7%	2.9%
		407人	32人	83人	127人	150人	3人	12人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	16.4%	25.5%	21.8%	21.8%	3.6%	10.9%
		55人	9人	14人	12人	12人	2人	6人
	該当しない	100.0%	7.1%	18.2%	31.5%	40.8%	0.2%	2.1%
		422人	30人	77人	133人	172人	1人	9人

平日の母親と子どもとのふれあいの時間は、全体では2時間以上という回答が 68.5%となっています。貧困線区分の判定別にみても2時間以上という回答の割合に大きな差異はみられませんが、ひとり親世帯では 43.6%と全体よりも割合は低くなっています。また、ひとり親世帯では2時間未満という回答は 41.8%と全体の 27.5%よりも高い割合となっています。

2）休日の子どもとのふれあい時間



休日の保護者と子どもとのふれあいの時間をみると、①父親、②母親ともに平日よりもふれあう時間は長くなっており、①父親では 53.1%と半数以上が「4時間以上」、②母親では 75.4%が「4時間以上」としています。

休日についても、①父親よりも②母親の方が子どもとふれあう時間は長くなっています。

○属性別にみた分析

＜①父親＞

		n	1時間未満	1～2時間未満	2～4時間未満	4時間以上	父親または父親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	8.1%	10.2%	15.4%	53.1%	4.0%	9.2%
		480人	39人	49人	74人	255人	19人	44人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	4.1%	14.3%	14.3%	28.6%	8.2%	30.6%
		49人	2人	7人	7人	14人	4人	15人
	貧困線以上	100.0%	8.8%	9.8%	16.2%	55.5%	3.7%	5.9%
		407人	36人	40人	66人	226人	15人	24人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	1.8%	5.5%	3.6%	7.3%	30.9%	50.9%
		55人	1人	3人	2人	4人	17人	28人
	該当しない	100.0%	9.0%	10.9%	16.8%	59.5%	0.5%	3.3%
		422人	38人	46人	71人	251人	2人	14人

休日の父親と子どもとのふれあいの時間は、全体では2時間以上という回答が 68.5%となっていますが、「貧困線未満」では 42.9%、ひとり親世帯では 10.9%と全体に比べて回答の割合が低くなっています。

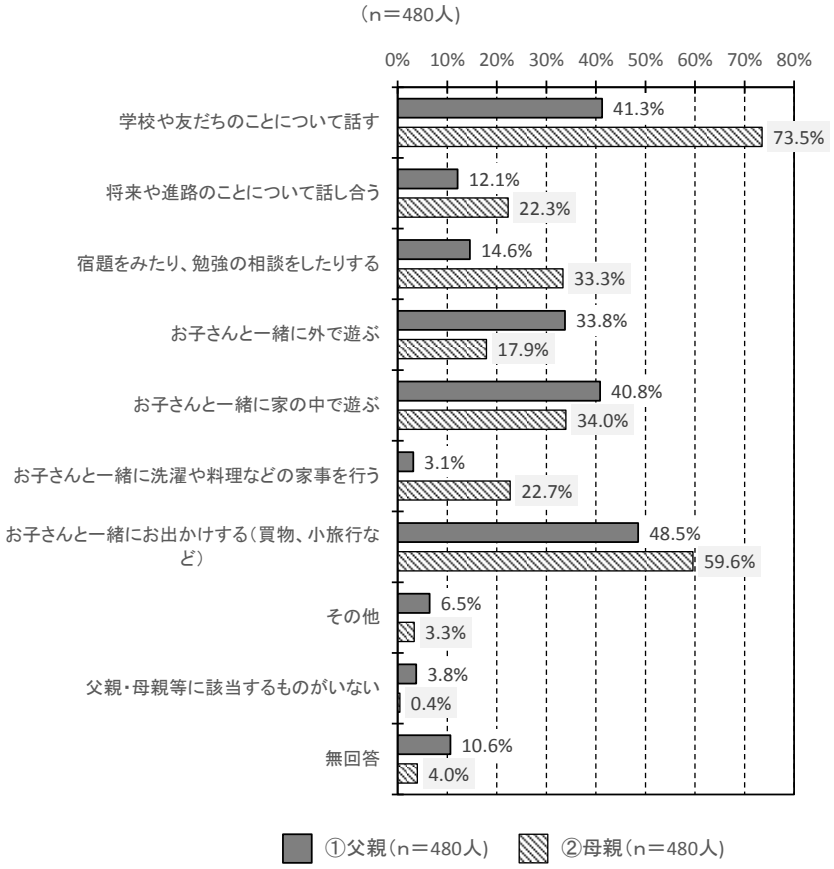
＜②母親＞

		n	1時間未満	1～2時間未満	2～4時間未満	4時間以上	母親または母親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	2.9%	6.7%	10.6%	75.4%	0.8%	3.5%
		480人	14人	32人	51人	362人	4人	17人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	2.0%	4.1%	12.2%	77.6%	0.0%	4.1%
		49人	1人	2人	6人	38人	0人	2人
	貧困線以上	100.0%	3.2%	7.1%	10.6%	75.2%	1.0%	2.9%
		407人	13人	29人	43人	306人	4人	12人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	7.3%	10.9%	12.7%	56.4%	3.6%	9.1%
		55人	4人	6人	7人	31人	2人	5人
	該当しない	100.0%	2.4%	6.2%	10.4%	78.0%	0.5%	2.6%
		422人	10人	26人	44人	329人	2人	11人

休日の母親と子どもとのふれあいの時間は、全体では2時間以上という回答が 86.0%となっています。貧困線区分の判定別にみても2時間以上という回答の割合に大きな差異はみられませんが、ひとり親世帯では69.1%と全体よりも割合は低くなっています。また、ひとり親世帯では2時間未満という回答は、18.2%と全体の9.6%よりも高い割合となっています。

３）子どもとのふれあいの内容

問２３　お子さんとの会話やふれあいの主な内容はどのようなものですか。



子どもとふれあう主な内容をみると、全般的に①父親よりも②母親の方が回答の割合が高くなっていますが、「お子さんと一緒に外で遊ぶ」と「お子さんと一緒に家の中で遊ぶ」については父親の方が回答の割合が高くなっています。

②母親では「学校や友だちのことについて話す」が73.5%でもっとも多くなっています。

遊び相手は父親、話し相手は母親ということが多いと考えられます。

その他として具体的には、父親とではスポ少、母親とではスポ少や世間話などが挙げられていました。

○属性別にみた分析

＜①父親＞

		n	学校や友だちのことについて話す	将来や進路のことについて話し合う	宿題をみたり、勉強の相談をしたりする	お子さんと一緒に外で遊ぶ	お子さんと一緒に家の中で遊ぶ	お子さんと一緒に洗濯や料理などの家事を行う	お子さんと一緒にお出かけする（買物、小旅行など）
全体		100.0%	41.3%	12.1%	14.6%	33.8%	40.8%	3.1%	48.5%
		480人	198人	58人	70人	162人	196人	15人	233人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	24.5%	4.1%	10.2%	16.3%	30.6%	2.0%	34.7%
		49人	12人	2人	5人	8人	15人	1人	17人
	貧困線以上	100.0%	42.5%	13.0%	15.5%	36.1%	42.3%	3.2%	50.4%
		407人	173人	53人	63人	147人	172人	13人	205人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	31.3%	6.3%	15.6%	31.3%	31.3%	3.1%	32.8%
		64人	20人	4人	10人	20人	20人	2人	21人
	生活レベル2	100.0%	36.3%	5.9%	12.7%	31.4%	35.3%	1.0%	52.0%
		102人	37人	6人	13人	32人	36人	1人	53人
	生活レベル3	100.0%	46.0%	20.7%	12.6%	25.3%	40.2%	4.6%	48.3%
		87人	40人	18人	11人	22人	35人	4人	42人
	生活レベル4	100.0%	45.3%	13.7%	15.6%	39.6%	46.7%	3.8%	50.9%
		212人	96人	29人	33人	84人	99人	8人	108人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	7.3%	3.6%	3.6%	7.3%	3.6%	1.8%	5.5%
		55人	4人	2人	2人	4人	2人	1人	3人
	該当しない	100.0%	46.0%	13.3%	16.1%	37.4%	46.0%	3.3%	54.5%
		422人	194人	56人	68人	158人	194人	14人	230人

		n	その他	父親または父親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	6.5%	3.8%	10.6%
		480人	31人	18人	51人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	6.1%	8.2%	30.6%
		49人	3人	4人	15人
	貧困線以上	100.0%	6.9%	3.4%	7.6%
		407人	28人	14人	31人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	15.6%	6.3%	15.6%
		64人	10人	4人	10人
	生活レベル2	100.0%	5.9%	4.9%	13.7%
		102人	6人	5人	14人
	生活レベル3	100.0%	3.4%	5.7%	9.2%
		87人	3人	5人	8人
	生活レベル4	100.0%	5.2%	1.9%	8.0%
		212人	11人	4人	17人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	1.8%	29.1%	54.5%
		55人	1人	16人	30人
	該当しない	100.0%	6.9%	0.5%	4.5%
		422人	29人	2人	19人

父親の子どもとのふれあいの内容は、全般的に「貧困線以上」よりも「貧困線未満」の方が回答の割合が低く、「学校や友だちのことについて話す」については「貧困線未満」では 24.5%と全体に比べて特に低い割合となっています。

また、おおむね生活レベルが低くなるほど、「学校や友だちのことについて話す」、「お子さんと一緒に外で遊ぶ」、「お子さんと一緒に家の中で遊ぶ」などへの回答の割合は低くなっており、ひとり親世帯ではすべての項目で、回答の割合が１割未満と低くなっています。

＜②母親＞

		n	学校や友だちのことについて話す	将来や進路のことについて話し合う	宿題をみたり、勉強の相談をしたりする	お子さんと一緒に外で遊ぶ	お子さんと一緒に家の中で遊ぶ	お子さんと一緒に洗濯や料理などの家事を行う	お子さんと一緒にお出かけする（買物、小旅行など）
全体		100.0%	73.5%	22.3%	33.3%	17.9%	34.0%	22.7%	59.6%
		480人	353人	107人	160人	86人	163人	109人	286人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	75.5%	28.6%	38.8%	14.3%	34.7%	20.4%	59.2%
		49人	37人	14人	19人	7人	17人	10人	29人
	貧困線以上	100.0%	73.7%	22.1%	34.2%	18.2%	33.7%	22.9%	59.2%
		407人	300人	90人	139人	74人	137人	93人	241人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	73.4%	17.2%	37.5%	12.5%	25.0%	34.4%	54.7%
		64人	47人	11人	24人	8人	16人	22人	35人
	生活レベル2	100.0%	77.5%	25.5%	35.3%	20.6%	31.4%	19.6%	63.7%
		102人	79人	26人	36人	21人	32人	20人	65人
	生活レベル3	100.0%	78.2%	27.6%	34.5%	12.6%	23.0%	25.3%	58.6%
		87人	68人	24人	30人	11人	20人	22人	51人
	生活レベル4	100.0%	71.7%	21.2%	32.1%	19.3%	41.5%	20.3%	58.5%
		212人	152人	45人	68人	41人	88人	43人	124人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	63.6%	21.8%	27.3%	14.5%	27.3%	12.7%	58.2%
		55人	35人	12人	15人	8人	15人	7人	32人
	該当しない	100.0%	74.9%	22.5%	34.4%	18.5%	34.6%	23.9%	60.0%
		422人	316人	95人	145人	78人	146人	101人	253人

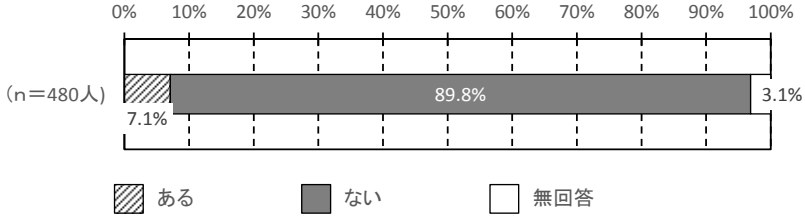
		n	その他	母親または母親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	3.3%	0.4%	4.0%
		480人	16人	2人	19人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	0.0%	0.0%	4.1%
		49人	0人	0人	2人
	貧困線以上	100.0%	3.9%	0.5%	3.4%
		407人	16人	2人	14人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	1.6%	1.6%	4.7%
		64人	1人	1人	3人
	生活レベル2	100.0%	3.9%	0.0%	2.0%
		102人	4人	0人	2人
	生活レベル3	100.0%	3.4%	0.0%	3.4%
		87人	3人	0人	3人
	生活レベル4	100.0%	3.3%	0.5%	4.2%
		212人	7人	1人	9人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	3.6%	3.6%	10.9%
		55人	2人	2人	6人
	該当しない	100.0%	3.3%	0.0%	2.8%
		422人	14人	0人	12人

母親の子どもとのふれあいの内容は、貧困線区分の判定や生活レベルの判定によって大きな違いはみられませんが、ひとり親世帯では、全般的にひとり親以外の世帯よりも回答の割合が低く、特に「お子さんと一緒に洗濯や料理などの家事を行う」、「学校や友だちのことについて話す」、「お子さんと一緒に家の中で遊ぶ」、「宿題をみたり、勉強の相談をしたりする」などへの回答は全体よりも低い割合となっています。

（２）夜、子どもだけで過ごす状況

１）夜、子どもだけで過ごす機会の有無

問２４　夜８時以降、お子さんだけで過ごすことはありますか。（○は１つ）



夜、子どもだけで過ごす機会の有無をみると、89.8%は「ない」としていますが、「ある」という回答も7.1%となっています。

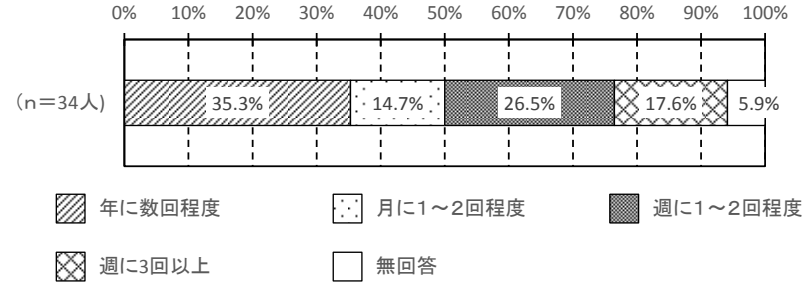
○属性別にみた分析

		n	ある	ない	無回答
全体		100.0%	7.1%	89.8%	3.1%
		480人	34人	431人	15人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	14.5%	81.8%	3.6%
		55人	8人	45人	2人
	該当しない	100.0%	5.9%	91.2%	2.8%
		422人	25人	385人	12人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	19.2%	80.8%	0.0%
		26人	5人	21人	0人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	2.9%	88.6%	8.6%
		35人	1人	31人	3人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	8.8%	88.1%	3.1%
		160人	14人	141人	5人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	5.1%	92.9%	2.0%
		253人	13人	235人	5人

ひとり親世帯では「ある」との回答が14.5%で、全体よりも高い割合となっています。
また「貧困な状況にあると思う」という世帯では「ある」との回答が19.2%と、特に割合が高くなっています。

２）夜、子どもだけで過ごす頻度

問２５　お子さんが夜、子どもだけで過ごすことはどの程度の頻度でありますか。（○は１つ）

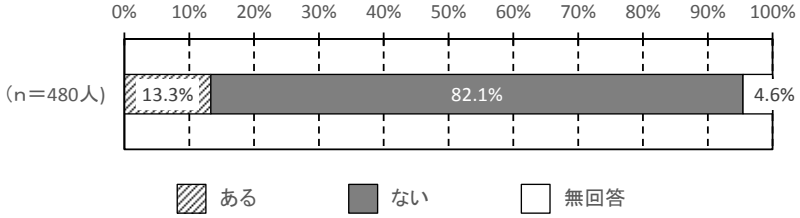


夜、子どもだけで過ごす機会が「ある」という回答者に頻度について聞くと、35.3%は「年に数回程度」となっていますが、「週に3回以上」という回答も17.6%となっています。

（3）食生活の状況

1）朝食の状況

問26　お子さんは朝食を食べないことはありますか。（○は１つ）



子どもが朝食を食べないことについては、82.1%は「ない」としていますが、「ある」という回答も 13.3%となっています。

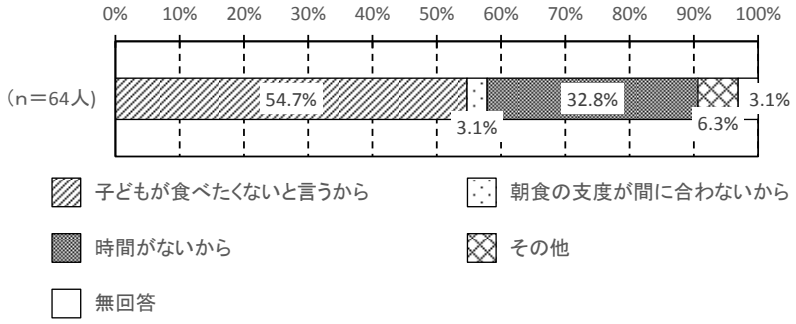
○属性別にみた分析

		n	ある	ない	無回答
全体		100.0%	13.3%	82.1%	4.6%
		480人	64人	394人	22人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	21.9%	70.3%	7.8%
		64人	14人	45人	5人
	生活レベル2	100.0%	12.7%	84.3%	2.9%
		102人	13人	86人	3人
	生活レベル3	100.0%	13.8%	81.6%	4.6%
		87人	12人	71人	4人
	生活レベル4	100.0%	9.9%	86.3%	3.8%
		212人	21人	183人	8人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	23.6%	72.7%	3.6%
		55人	13人	40人	2人
	該当しない	100.0%	11.6%	83.6%	4.7%
		422人	49人	353人	20人

「生活レベル１」では、子どもが朝食を食べないことが「ある」との回答が21.9%で、「生活レベル４」の9.9%に比べて割合が高く、おおむね生活レベルが低くなるほど「ある」との回答の割合が高くなっています。

2）朝食を食べない理由

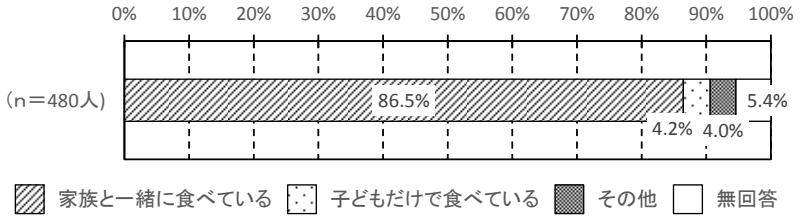
問27　お子さんが朝食を食べない理由はどのようなことですか。（○は１つ）



子どもが朝食を食べないことが「ある」という回答者にその理由について聞くと、「子どもが食べたくないと言うから」が 54.7%と半数以上を占めています。

３）夕食の状況

問２８　お子さんは、夕食はどのようにして食べていますか。（○は１つ）



夕食については、86.5%が「家族と一緒に食べている」としています。

その他としては祖父母と食べるといった意見がありました。

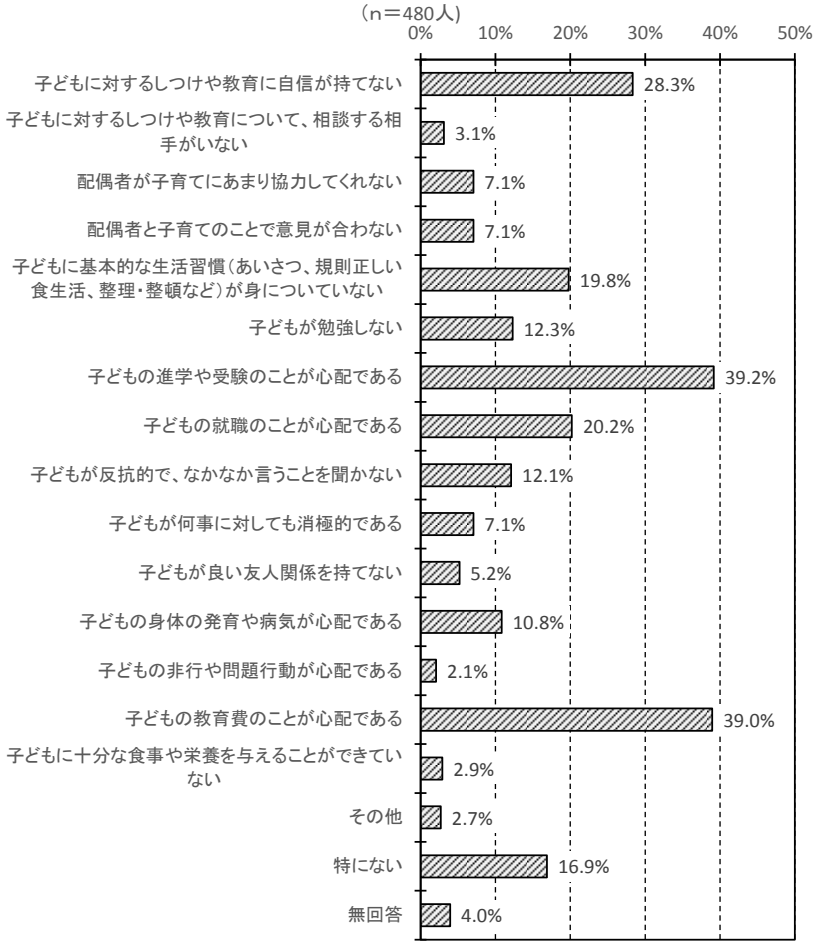
○属性別にみた分析

		n	家族と一緒に食べている	子どもだけで食べている	その他	無回答
全体		100.0%	86.5%	4.2%	4.0%	5.4%
		480人	415人	20人	19人	26人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	81.3%	9.4%	0.0%	9.4%
		64人	52人	6人	0人	6人
	生活レベル2	100.0%	88.2%	3.9%	3.9%	3.9%
		102人	90人	4人	4人	4人
	生活レベル3	100.0%	85.1%	4.6%	5.7%	4.6%
		87人	74人	4人	5人	4人
	生活レベル4	100.0%	88.2%	2.4%	4.7%	4.7%
		212人	187人	5人	10人	10人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	89.1%	5.5%	3.6%	1.8%
		55人	49人	3人	2人	1人
	該当しない	100.0%	86.0%	4.0%	4.0%	5.9%
		422人	363人	17人	17人	25人

夕食について、「子どもだけで食べている」という回答はどの属性においても低くなっていますが、「生活レベル１」では9.4%と全体よりは高い割合となっています。

（4）子どものことで心配なこと

問２９　お子さんのことについて、心配なことはありますか。（○はいくつでも）



子どものことで心配なこととしては、「子どもの進学や受験のことが心配である」（39.2%）と「子どもの教育費のことが心配である」（39.0%）への回答が多くなっています。

その他として具体的には、保護者の健康面の不安や、学校での生活状況に関する情報発信が少ないこと、通学路の安全確保、子どもの障害のことなどの意見が挙げられていました。

○属性別にみた分析

		n	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子どもに対するしつけや教育について、相談する相手がいない	配偶者が子育てにあまり協力してくれない	配偶者と子育てのことで意見が合わない	子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない	子どもが勉強しない	子どもの進学や受験のことが心配である	子どもの就職のことが心配である	子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
全体		100.0%	28.3%	3.1%	7.1%	7.1%	19.8%	12.3%	39.2%	20.2%	12.1%
		480人	136人	15人	34人	34人	95人	59人	188人	97人	58人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	28.6%	6.1%	12.2%	6.1%	24.5%	20.4%	55.1%	18.4%	16.3%
		49人	14人	3人	6人	3人	12人	10人	27人	9人	8人
	貧困線以上	100.0%	28.5%	2.9%	6.4%	7.6%	19.4%	11.8%	38.6%	20.9%	11.8%
		407人	116人	12人	26人	31人	79人	48人	157人	85人	48人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	32.8%	10.9%	14.1%	6.3%	23.4%	15.6%	43.8%	26.6%	17.2%
		64人	21人	7人	9人	4人	15人	10人	28人	17人	11人
	生活レベル2	100.0%	31.4%	2.0%	9.8%	4.9%	27.5%	16.7%	45.1%	20.6%	17.6%
		102人	32人	2人	10人	5人	28人	17人	46人	21人	18人
	生活レベル3	100.0%	34.5%	3.4%	8.0%	9.2%	24.1%	14.9%	51.7%	24.1%	12.6%
		87人	30人	3人	7人	8人	21人	13人	45人	21人	11人
	生活レベル4	100.0%	22.2%	0.9%	3.3%	7.5%	13.7%	9.0%	31.1%	17.5%	8.0%
		212人	47人	2人	7人	16人	29人	19人	66人	37人	17人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	30.9%	9.1%	0.0%	0.0%	20.0%	25.5%	54.5%	27.3%	21.8%
		55人	17人	5人	0人	0人	11人	14人	30人	15人	12人
	該当しない	100.0%	28.2%	2.4%	7.8%	8.1%	19.7%	10.4%	37.0%	19.0%	10.9%
		422人	119人	10人	33人	34人	83人	44人	156人	80人	46人
世帯収入の充足感	足りている	100.0%	23.2%	3.6%	7.1%	10.7%	12.5%	5.4%	21.4%	8.9%	3.6%
		56人	13人	2人	4人	6人	7人	3人	12人	5人	2人
	だいたい足りている	100.0%	21.6%	0.0%	1.7%	5.2%	18.1%	8.6%	35.3%	23.3%	10.3%
		116人	25人	0人	2人	6人	21人	10人	41人	27人	12人
	やや足りない	100.0%	34.1%	3.4%	9.1%	8.0%	22.7%	14.8%	39.2%	19.3%	13.6%
		176人	60人	6人	16人	14人	40人	26人	69人	34人	24人
	まったく足りていない	100.0%	29.9%	5.5%	9.4%	6.3%	19.7%	15.0%	50.4%	23.6%	15.7%
		127人	38人	7人	12人	8人	25人	19人	64人	30人	20人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	15.4%	7.7%	7.7%	0.0%	23.1%	15.4%	53.8%	34.6%	23.1%
		26人	4人	2人	2人	0人	6人	4人	14人	9人	6人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	37.1%	14.3%	14.3%	11.4%	28.6%	17.1%	51.4%	31.4%	20.0%
		35人	13人	5人	5人	4人	10人	6人	18人	11人	7人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	34.4%	3.1%	9.4%	9.4%	20.0%	13.1%	44.4%	17.5%	11.9%
		160人	55人	5人	15人	15人	32人	21人	71人	28人	19人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	24.1%	1.2%	4.7%	5.9%	18.2%	11.1%	33.2%	19.4%	9.9%
		253人	61人	3人	12人	15人	46人	28人	84人	49人	25人

		n	子どもが何事に対しても消極的である	子どもが良い友人関係を持てない	子どもの身体の発育や病気が心配である	子どもの非行や問題行動が心配である	子どもの教育費のことが心配である	子どもに十分な食事や栄養を与えることができていない	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	7.1%	5.2%	10.8%	2.1%	39.0%	2.9%	2.7%	16.9%	4.0%
		480人	34人	25人	52人	10人	187人	14人	13人	81人	19人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	8.2%	4.1%	10.2%	0.0%	46.9%	4.1%	0.0%	16.3%	4.1%
		49人	4人	2人	5人	0人	23人	2人	0人	8人	2人
	貧困線以上	100.0%	7.1%	5.7%	10.8%	2.2%	38.8%	2.9%	3.2%	16.7%	3.7%
		407人	29人	23人	44人	9人	158人	12人	13人	68人	15人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	6.3%	10.9%	10.9%	6.3%	62.5%	7.8%	3.1%	10.9%	7.8%
		64人	4人	7人	7人	4人	40人	5人	2人	7人	5人
	生活レベル2	100.0%	9.8%	5.9%	11.8%	2.0%	51.0%	2.0%	2.9%	8.8%	3.9%
		102人	10人	6人	12人	2人	52人	2人	3人	9人	4人
	生活レベル3	100.0%	11.5%	4.6%	9.2%	1.1%	48.3%	3.4%	2.3%	11.5%	2.3%
		87人	10人	4人	8人	1人	42人	3人	2人	10人	2人
	生活レベル4	100.0%	4.7%	3.3%	11.8%	1.4%	24.5%	1.9%	2.8%	24.1%	2.4%
		212人	10人	7人	25人	3人	52人	4人	6人	51人	5人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	12.7%	9.1%	12.7%	3.6%	52.7%	7.3%	3.6%	12.7%	1.8%
		55人	7人	5人	7人	2人	29人	4人	2人	7人	1人
	該当しない	100.0%	6.4%	4.7%	10.7%	1.9%	37.0%	2.4%	2.6%	17.5%	4.3%
		422人	27人	20人	45人	8人	156人	10人	11人	74人	18人
世帯収入の充足感	足りている	100.0%	3.6%	0.0%	14.3%	0.0%	10.7%	0.0%	7.1%	26.8%	1.8%
		56人	2人	0人	8人	0人	6人	0人	4人	15人	1人
	だいたい足りている	100.0%	3.4%	5.2%	11.2%	2.6%	25.9%	0.9%	3.4%	17.2%	4.3%
		116人	4人	6人	13人	3人	30人	1人	4人	20人	5人
	やや足りない	100.0%	11.4%	5.7%	11.4%	1.7%	42.6%	1.7%	0.6%	17.0%	2.3%
		176人	20人	10人	20人	3人	75人	3人	1人	30人	4人
	まったく足りていない	100.0%	6.3%	7.1%	8.7%	3.1%	59.1%	7.1%	3.1%	12.6%	6.3%
		127人	8人	9人	11人	4人	75人	9人	4人	16人	8人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	11.5%	15.4%	3.8%	3.8%	65.4%	15.4%	3.8%	26.9%	3.8%
		26人	3人	4人	1人	1人	17人	4人	1人	7人	1人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	11.4%	17.1%	5.7%	5.7%	57.1%	0.0%	5.7%	0.0%	5.7%
		35人	4人	6人	2人	2人	20人	0人	2人	0人	2人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	7.5%	5.6%	10.0%	0.6%	54.4%	3.1%	0.6%	10.6%	6.3%
		160人	12人	9人	16人	1人	87人	5人	1人	17人	10人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	5.9%	2.4%	13.0%	2.4%	24.5%	1.2%	3.6%	22.1%	2.4%
		253人	15人	6人	33人	6人	62人	3人	9人	56人	6人

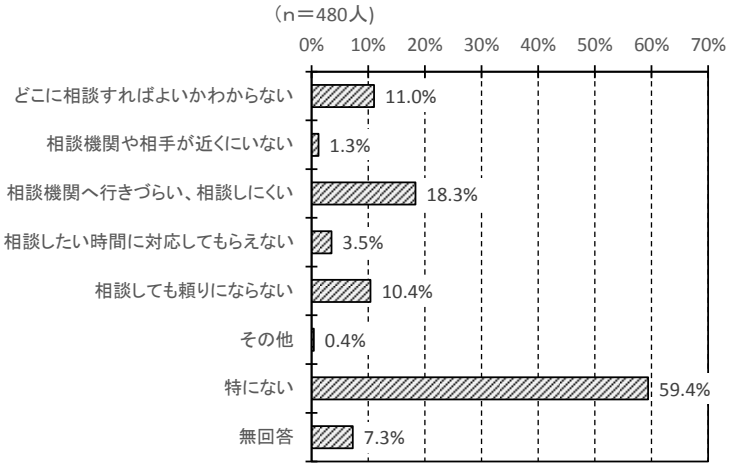
「貧困線未満」やひとり親世帯でも全体と同様に、「子どもの進学や受験のことが心配である」、「子どもの教育費のことが心配である」への回答の多くなっていますが、全体よりも回答の割合は高くなっています。

また、「子どもの進学や受験のことが心配である」、「子どもの教育費のことが心配である」への回答は、生活レベルが低いほど、世帯収入について不足感が強いほど、貧困な状態にあると思う世帯ほど、回答の割合が高くなっています。

（5）子どもに関する相談の状況

1）子育て等の相談において困ったこと

問３０　子育てや教育の相談先について困ったことはありますか。（○はいくつでも）

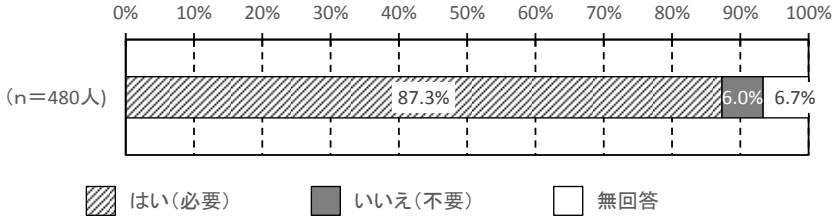


子育てや教育の相談先について困ったことについては、59.4%は「特にない」としています。

困っていることとしては、「相談機関へ行きづらい、相談しにくい」（18.3%）などが挙げられています。

2）子育て等に関する相談窓口の必要性

問３１　子育てに関する相談相手や相談窓口は必要だと思いますか。（○は１つ）



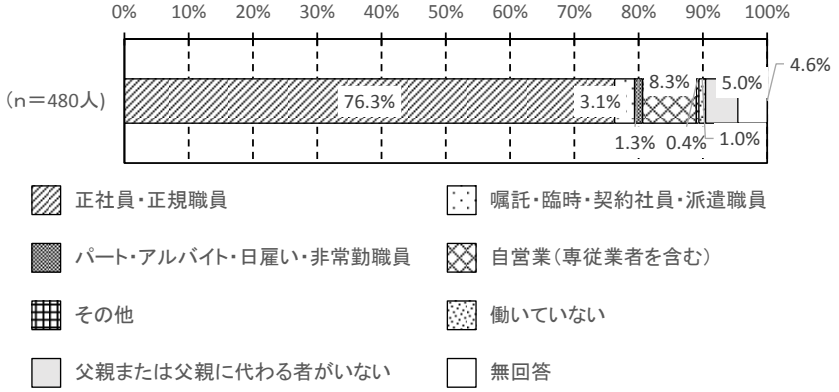
子育てに関する相談相手や相談窓口については、87.3%が「はい（必要）」としています。

5．保護者の就労状況について

（1）父親の就労状況

1）父親の就業形態

問３２　お子さんの父親（または父親に代わる方）の主な就業形態はどのようになっていますか。（○は１つ）



父親の就業形態をみると、76.3%は「正社員・正規職員」となっています。

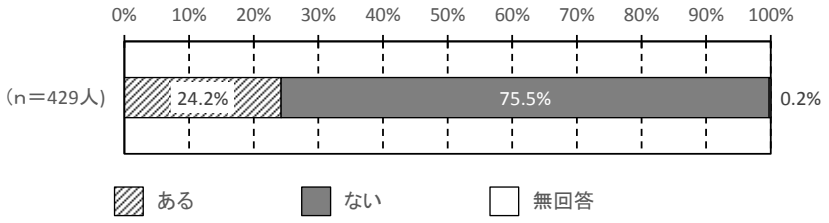
○属性別にみた分析

		n	正社員・正規職員	嘱託・臨時・契約社員・派遣職員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業（専従業者を含む）	その他	働いていない	父親または父親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	76.3%	3.1%	1.3%	8.3%	0.4%	1.0%	5.0%	4.6%
		480人	366人	15人	6人	40人	2人	5人	24人	22人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	40.8%	8.2%	2.0%	6.1%	2.0%	8.2%	16.3%	16.3%
		49人	20人	4人	1人	3人	1人	4人	8人	8人
	貧困線以上	100.0%	80.6%	2.7%	1.2%	8.4%	0.2%	0.2%	3.9%	2.7%
		407人	328人	11人	5人	34人	1人	1人	16人	11人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	65.6%	6.3%	4.7%	6.3%	0.0%	3.1%	4.7%	9.4%
		64人	42人	4人	3人	4人	0人	2人	3人	6人
	生活レベル2	100.0%	69.6%	2.9%	2.0%	8.8%	1.0%	2.0%	8.8%	4.9%
		102人	71人	3人	2人	9人	1人	2人	9人	5人
	生活レベル3	100.0%	72.4%	5.7%	1.1%	8.0%	0.0%	1.1%	5.7%	5.7%
		87人	63人	5人	1人	7人	0人	1人	5人	5人
	生活レベル4	100.0%	83.5%	1.4%	0.0%	9.0%	0.5%	0.0%	3.3%	2.4%
		212人	177人	3人	0人	19人	1人	0人	7人	5人

「貧困線未満」では「正社員・正規職員」という回答は、40.8%と全体よりも割合が低くなっています。

2）父親の夜勤の状況

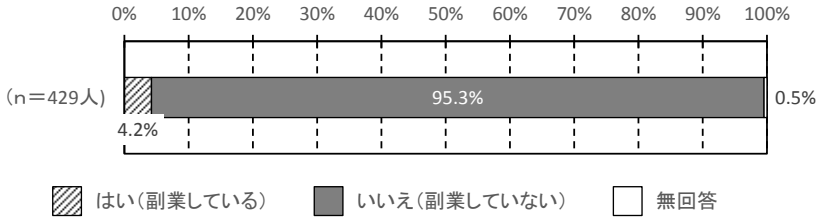
問３３　父親（または父親に代わる方）の仕事に夜勤はありますか。（○は１つ）



父親の夜勤の有無をみると、75.5%は「ない」としていますが、「ある」も24.2%となっています。

3）父親の副業の状況

問３４　父親（または父親に代わる方）の主な仕事のほかに、副業（ダブルワーク、トリプルワークなど）をされていますか。（○は１つ）

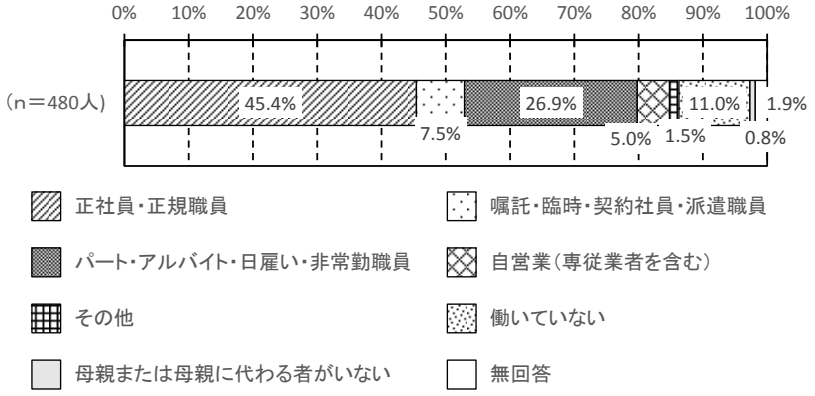


父親の副業の状況をみると、95.3%と大半は「いいえ（副業していない）」としています。

（２）母親の就労状況

１）母親の就業形態

問３５　お子さんの母親（または母親に代わる方）の主な就業形態はどのようになっていますか。（○は１つ）



母親の就業形態をみると、45.4%は「正社員・正規職員」となっていますが、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」も26.9%を占めています。

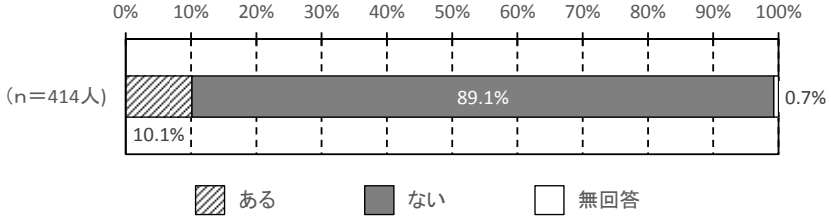
○属性別にみた分析

		n	正社員・正規職員	嘱託・臨時・契約社員・派遣職員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業（専従業者を含む）	その他	働いていない	母親または母親に代わる者がいない	無回答
全体		100.0%	45.4%	7.5%	26.9%	5.0%	1.5%	11.0%	0.8%	1.9%
		480人	218人	36人	129人	24人	7人	53人	4人	9人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	26.5%	6.1%	34.7%	6.1%	4.1%	18.4%	0.0%	4.1%
		49人	13人	3人	17人	3人	2人	9人	0人	2人
	貧困線以上	100.0%	47.4%	8.1%	26.5%	4.9%	1.0%	9.8%	1.0%	1.2%
		407人	193人	33人	108人	20人	4人	40人	4人	5人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	42.2%	6.3%	32.8%	1.6%	3.1%	7.8%	1.6%	4.7%
		64人	27人	4人	21人	1人	2人	5人	1人	3人
	生活レベル2	100.0%	41.2%	7.8%	32.4%	7.8%	1.0%	8.8%	0.0%	1.0%
		102人	42人	8人	33人	8人	1人	9人	0人	1人
	生活レベル3	100.0%	49.4%	6.9%	25.3%	3.4%	0.0%	11.5%	1.1%	2.3%
		87人	43人	6人	22人	3人	0人	10人	1人	2人
	生活レベル4	100.0%	46.7%	8.0%	23.1%	5.7%	1.9%	12.7%	0.9%	0.9%
		212人	99人	17人	49人	12人	4人	27人	2人	2人

「貧困線未満」では、「正社員・正規職員」への回答の割合が全体よりも低く、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」、「働いていない」への回答は全体よりも割合が高くなっています。

２）母親の夜勤の状況

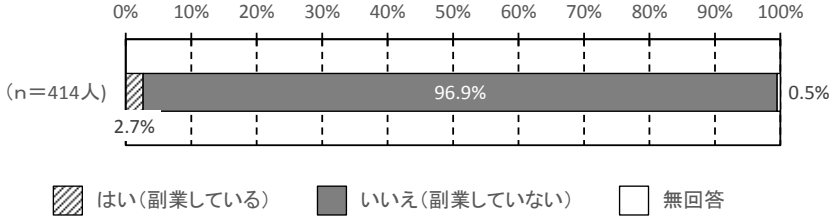
問３６　母親（または母親に代わる方）の仕事に夜勤はありますか。（○は１つ）



母親の夜勤の有無をみると、「ある」は10.1%と１割を占めています。

３）母親の副業の状況

問３７　母親（または母親に代わる方）の主な仕事のほかに、副業（ダブルワーク、トリプルワークなど）をされていますか。（○は１つ）

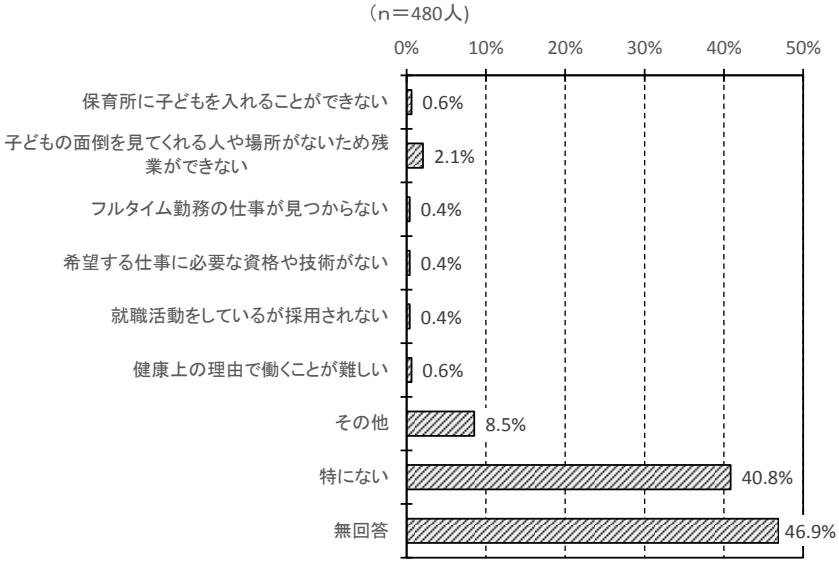


母親の副業状況をみると、96.9%は「いいえ（副業していない）」としています。

（３）保護者の就労に関して困っていること

問３８　保護者の就労に関して困っていることは何ですか。①父親（または父親に代わる方）、②母親（または母親に代わる方）のそれぞれについてお答えください。（①、②のそれぞれについて、回答欄にあてはまる選択肢の番号をいくつでもご記入ください。）

①父親

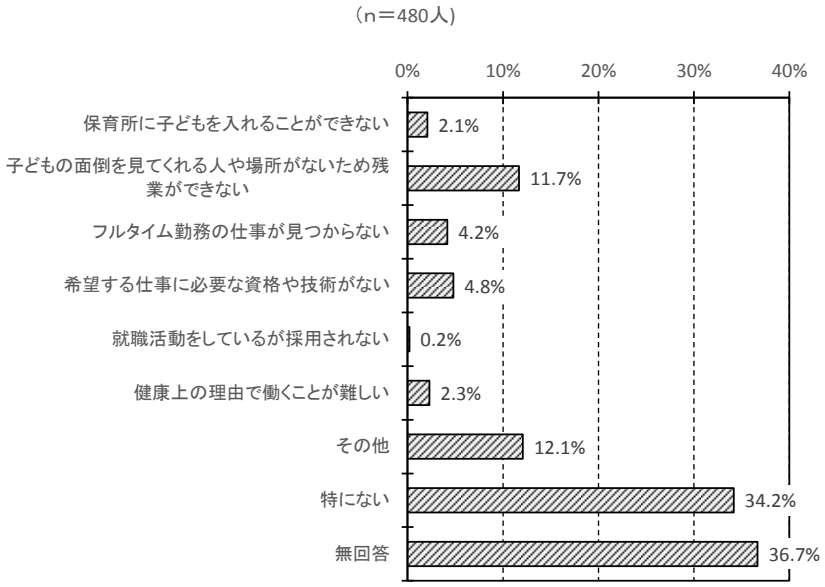


父親が就労に関して困っていることについてみると、40.8%は「特にない」としています。

困っていることとして回答が１割を超えるものはありませんでした。

その他として具体的には、「ブラック企業、定時で帰ってこれない。残業＆サービス残業が多い。」、「休日出勤が多い」「正規だけど給料がひくい」、「ボーナスがない」など、勤務先の就労環境や待遇などに関する意見や、自営業のために収入が不安定といった意見などが挙げられていました。

②母親



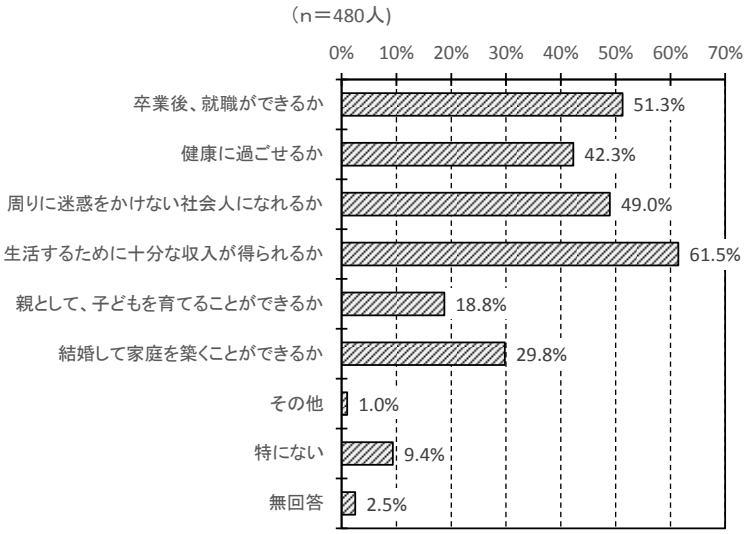
母親が就労に関して困っていることについてみると、「特にない」が 34.2%でもっとも多くなっていますが、困っていることとしては、「子どもの面倒を見てくれる人や場所がないため残業ができない」が 11.7%などとなっています。

その他として具体的には、「給料が少ない」、「収入が少ない」、「忙しい時間になると、土曜日も出勤になってしまい、子供の行事に出られない事がある。」、「休みが月に２回以上となるときびしく言われる」、「子供がかぜをひいた時等、仕事を何日も休まなければいけず。有休がなくなり、欠勤扱いになり、収入が減る事。」といった勤務先の就労環境や子育てへの理解不足といった意見や、「保育園に入れられるか心配（４月～育児休暇があける為）」、働くことで子どもとの時間が少なくなることへの不安や不満といった意見が挙げられていました。

６．子どものために必要な支援について

（１）子どもの将来に関して心配なこと

問３９　お子さんの将来について心配なことはありますか。（○はいくつでも）



子どもの将来に関して心配なこととしては、「生活するために十分な収入が得られるか」が 61.5%でもっとも多く、ついで「卒業後、就職ができるか」（51.3%）、「周りに迷惑をかけない社会人になれるか」（49.0%）となっています。

就職や収入など、子どもが自立した生活を送ることができるかどうか、という点について心配している回答が多くなっています。

○属性別にみた分析

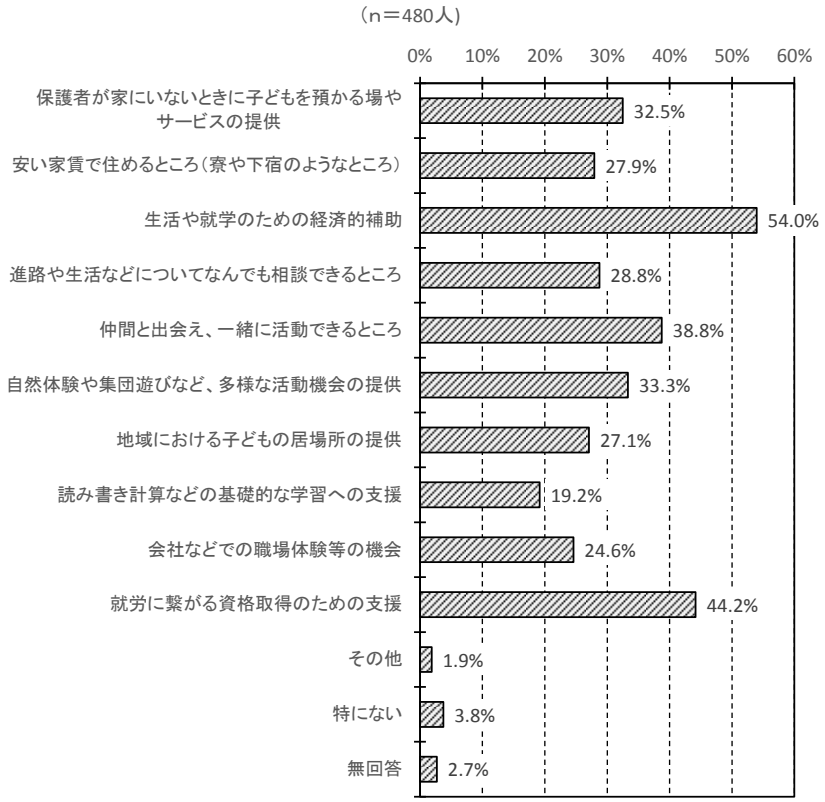
		n	卒業後、就職ができるか	健康に過ごせるか	周りに迷惑をかけない社会人になれるか	生活するために十分な収入が得られるか	親として、子どもを育てることができるか	結婚して家庭を築くことができるか	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	51.3%	42.3%	49.0%	61.5%	18.8%	29.8%	1.0%	9.4%	2.5%
		480人	246人	203人	235人	295人	90人	143人	5人	45人	12人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	53.1%	36.7%	44.9%	71.4%	8.2%	26.5%	0.0%	8.2%	0.0%
		49人	26人	18人	22人	35人	4人	13人	0人	4人	0人
	貧困線以上	100.0%	50.6%	42.8%	50.4%	60.2%	19.9%	30.0%	1.2%	10.1%	2.2%
		407人	206人	174人	205人	245人	81人	122人	5人	41人	9人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	60.9%	43.8%	50.0%	79.7%	23.4%	29.7%	3.1%	4.7%	1.6%
		64人	39人	28人	32人	51人	15人	19人	2人	3人	1人
	生活レベル2	100.0%	53.9%	42.2%	60.8%	72.5%	11.8%	23.5%	0.0%	3.9%	2.0%
		102人	55人	43人	62人	74人	12人	24人	0人	4人	2人
	生活レベル3	100.0%	48.3%	41.4%	48.3%	62.1%	21.8%	33.3%	2.3%	4.6%	3.4%
		87人	42人	36人	42人	54人	19人	29人	2人	4人	3人
	生活レベル4	100.0%	47.6%	42.5%	42.9%	50.5%	19.3%	30.7%	0.5%	15.6%	1.9%
		212人	101人	90人	91人	107人	41人	65人	1人	33人	4人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	50.9%	32.7%	60.0%	63.6%	10.9%	21.8%	0.0%	7.3%	1.8%
		55人	28人	18人	33人	35人	6人	12人	0人	4人	1人
	該当しない	100.0%	50.9%	43.1%	47.4%	60.9%	19.4%	30.8%	1.2%	9.7%	2.6%
		422人	215人	182人	200人	257人	82人	130人	5人	41人	11人

「貧困線未満」では、「生活するために十分な収入が得られるか」への回答が71.4%と、全体よりも高い割合となっています。また生活レベルが低いほど「生活するために十分な収入が得られるか」への回答の割合が高く、「生活レベル1」では79.7%となっています。

ひとり親世帯でも「生活するために十分な収入が得られるか」への回答が6割を超えていますが、その他に「周りに迷惑をかけない社会人になれるか」への回答も60.0%と全体よりも高い割合となっています。

（2）子どものために必要と思われる支援

問40　今後、子どものために必要と思われる支援はどのようなことだと思いますか。（○はいくつでも）



今後、子どものために必要な支援としては、「生活や就学のための経済的補助」が54.0%でもっとも多く、ついで「就労に繋がる資格取得のための支援」が44.2%となっています。

その他として具体的には、「支援金、高校無償化」、「学費が安くなること」、「奨学金や大学の授業料無償化」といった教育にかかわる経済的負担の軽減に関する意見や、「医療費を無しに」、「児童手当の拡大」、「カルチャースクールの充実」といった意見が挙げられていました。

○属性別にみた分析

		n	保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	安い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなところ）	生活や就学のための経済的補助	進路や生活などについてなんでも相談できるところ	仲間と出会え、一緒に活動できるところ	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	地域における子どもの居場所の提供	読み書き計算などの基礎的な学習への支援
全体		100.0%	32.5%	27.9%	54.0%	28.8%	38.8%	33.3%	27.1%	19.2%
		480人	156人	134人	259人	138人	186人	160人	130人	92人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	34.7%	22.4%	59.2%	26.5%	22.4%	22.4%	26.5%	24.5%
		49人	17人	11人	29人	13人	11人	11人	13人	12人
	貧困線以上	100.0%	32.4%	29.2%	53.3%	29.2%	41.3%	34.9%	27.5%	19.2%
		407人	132人	119人	217人	119人	168人	142人	112人	78人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	32.8%	45.3%	79.7%	29.7%	25.0%	23.4%	25.0%	20.3%
		64人	21人	29人	51人	19人	16人	15人	16人	13人
	生活レベル2	100.0%	30.4%	26.5%	62.7%	25.5%	38.2%	30.4%	24.5%	23.5%
		102人	31人	27人	64人	26人	39人	31人	25人	24人
	生活レベル3	100.0%	28.7%	31.0%	64.4%	35.6%	44.8%	40.2%	29.9%	26.4%
		87人	25人	27人	56人	31人	39人	35人	26人	23人
	生活レベル4	100.0%	34.4%	23.1%	38.7%	28.8%	40.6%	36.3%	27.4%	14.6%
		212人	73人	49人	82人	61人	86人	77人	58人	31人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	20.0%	41.8%	56.4%	25.5%	32.7%	20.0%	20.0%	16.4%
		55人	11人	23人	31人	14人	18人	11人	11人	9人
	該当しない	100.0%	34.1%	26.3%	53.6%	28.9%	39.6%	34.8%	28.0%	19.2%
		422人	144人	111人	226人	122人	167人	147人	118人	81人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	34.6%	38.5%	84.6%	30.8%	23.1%	30.8%	19.2%	30.8%
		26人	9人	10人	22人	8人	6人	8人	5人	8人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	25.7%	20.0%	65.7%	40.0%	40.0%	37.1%	37.1%	28.6%
		35人	9人	7人	23人	14人	14人	13人	13人	10人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	31.3%	36.9%	67.5%	25.6%	35.6%	27.5%	21.9%	22.5%
		160人	50人	59人	108人	41人	57人	44人	35人	36人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	34.8%	22.9%	41.5%	29.2%	42.7%	36.8%	30.0%	14.6%
		253人	88人	58人	105人	74人	108人	93人	76人	37人

		n	会社などでの職場体験等の機会	就労に繋がる資格取得のための支援	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	24.6%	44.2%	1.9%	3.8%	2.7%
		480人	118人	212人	9人	18人	13人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	20.4%	40.8%	2.0%	6.1%	8.2%
		49人	10人	20人	1人	3人	4人
	貧困線以上	100.0%	25.8%	45.9%	2.0%	3.4%	1.2%
		407人	105人	187人	8人	14人	5人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	14.1%	43.8%	4.7%	0.0%	4.7%
		64人	9人	28人	3人	0人	3人
	生活レベル2	100.0%	20.6%	50.0%	1.0%	1.0%	2.9%
		102人	21人	51人	1人	1人	3人
	生活レベル3	100.0%	31.0%	51.7%	2.3%	3.4%	0.0%
		87人	27人	45人	2人	3人	0人
	生活レベル4	100.0%	26.4%	39.2%	1.4%	6.6%	1.9%
		212人	56人	83人	3人	14人	4人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	23.6%	47.3%	1.8%	9.1%	5.5%
		55人	13人	26人	1人	5人	3人
	該当しない	100.0%	24.6%	43.8%	1.7%	3.1%	2.4%
		422人	104人	185人	7人	13人	10人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	15.4%	42.3%	7.7%	0.0%	3.8%
		26人	4人	11人	2人	0人	1人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	28.6%	51.4%	0.0%	5.7%	5.7%
		35人	10人	18人	0人	2人	2人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	22.5%	48.8%	1.3%	1.9%	1.3%
		160人	36人	78人	2人	3人	2人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	26.5%	41.1%	2.0%	5.1%	1.6%
		253人	67人	104人	5人	13人	4人

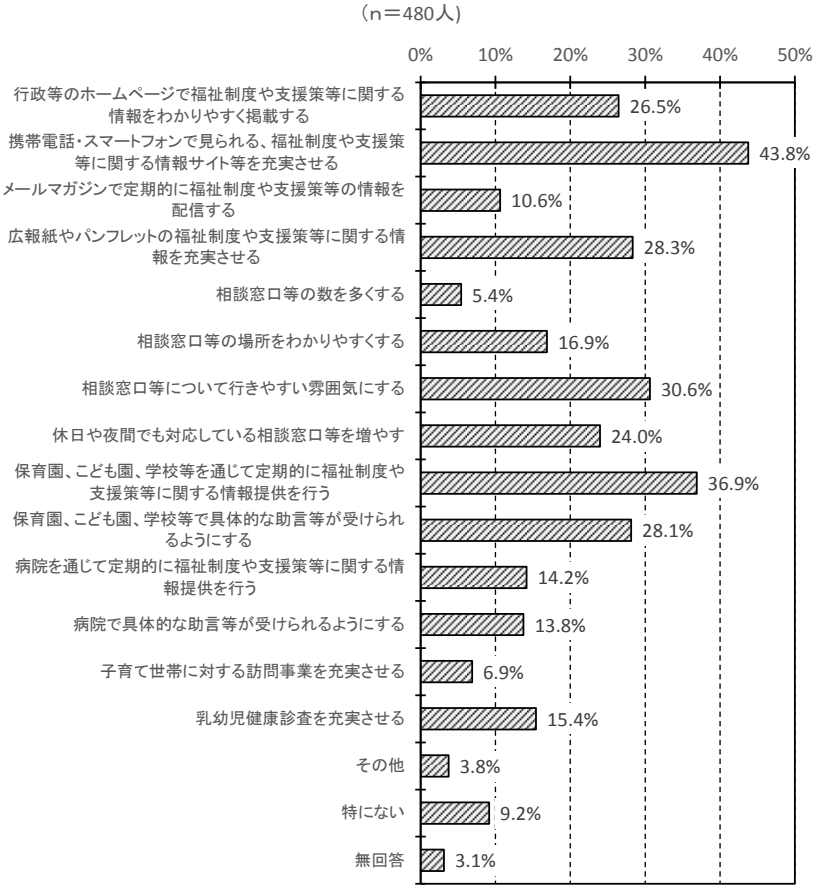
「貧困線未満」世帯でも全体と同様に、「生活や就学のための経済的補助」（59.2%）、「就労に繋がる資格取得のための支援」（40.8%）への回答が多くなっています。おおむね全体と同様の回答傾向となっていますが、「仲間と出会え、一緒に活動できるところ」への回答は22.4%と全体よりも回答の割合は低くなっています。

「生活や就学のための経済的補助」については、生活レベルが低くなるほど回答の割合が高くなっており、「生活レベル1」では79.7%となっています。

ひとり親世帯では、「生活や就学のための経済的補助」、「就労に繋がる資格取得のための支援」のほかに、「安い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなところ）」への回答が41.8%と全体よりも高い割合となっています。

（３）支援を受けやすくするために必要なこと

問４１　子どものために役立つ支援を受けやすくするためにどんなことがあればよいと思いますか。（○はいくつでも）



子どものための支援を受けやすくするために必要なこととしては、「携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が43.8%でもっとも多く、ついで「保育園、こども園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う」が36.9%となっています。

相談窓口等の充実よりは、情報提供の充実を希望する回答が多く、情報提供についても各自が入手しやすい形での情報提供を希望する回答が多くなっています。

○属性別にみた分析

		n	行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する	携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる	メールマガジンで定期的に福祉制度や支援策等の情報を配信する	広報紙やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる	相談窓口等の数を多くする	相談窓口等の場所をわかりやすくする	相談窓口等について行きやすい雰囲気にする	休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす	保育園、こども園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う
全体		100.0%	26.5%	43.8%	10.6%	28.3%	5.4%	16.9%	30.6%	24.0%	36.9%
		480人	127人	210人	51人	136人	26人	81人	147人	115人	177人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	12.2%	40.8%	12.2%	34.7%	10.2%	20.4%	30.6%	22.4%	30.6%
		49人	6人	20人	6人	17人	5人	10人	15人	11人	15人
	貧困線以上	100.0%	28.5%	44.5%	10.6%	28.0%	4.9%	16.5%	30.7%	23.8%	36.9%
		407人	116人	181人	43人	114人	20人	67人	125人	97人	150人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	21.9%	45.3%	15.6%	31.3%	15.6%	18.8%	26.6%	29.7%	46.9%
		64人	14人	29人	10人	20人	10人	12人	17人	19人	30人
	生活レベル2	100.0%	21.6%	42.2%	13.7%	31.4%	3.9%	18.6%	38.2%	28.4%	37.3%
		102人	22人	43人	14人	32人	4人	19人	39人	29人	38人
	生活レベル3	100.0%	25.3%	48.3%	11.5%	29.9%	3.4%	14.9%	32.2%	23.0%	39.1%
		87人	22人	42人	10人	26人	3人	13人	28人	20人	34人
	生活レベル4	100.0%	30.2%	43.4%	7.5%	25.0%	4.2%	17.5%	26.9%	20.8%	32.1%
		212人	64人	92人	16人	53人	9人	37人	57人	44人	68人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	23.6%	41.8%	14.5%	25.5%	5.5%	16.4%	36.4%	30.9%	21.8%
		55人	13人	23人	8人	14人	3人	9人	20人	17人	12人
	該当しない	100.0%	27.0%	44.1%	10.2%	28.9%	5.2%	16.8%	29.9%	23.0%	38.6%
		422人	114人	186人	43人	122人	22人	71人	126人	97人	163人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	15.4%	23.1%	11.5%	26.9%	11.5%	23.1%	26.9%	19.2%	46.2%
		26人	4人	6人	3人	7人	3人	6人	7人	5人	12人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	34.3%	60.0%	8.6%	37.1%	2.9%	31.4%	45.7%	31.4%	22.9%
		35人	12人	21人	3人	13人	1人	11人	16人	11人	8人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	21.3%	53.8%	11.9%	29.4%	5.6%	16.3%	31.9%	29.4%	39.4%
		160人	34人	86人	19人	47人	9人	26人	51人	47人	63人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	30.4%	37.9%	10.3%	27.3%	5.1%	15.0%	28.5%	20.6%	37.2%
		253人	77人	96人	26人	69人	13人	38人	72人	52人	94人

		n	保育園、こども園、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする	病院を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	病院で具体的な助言等が受けられるようにする	子育て世帯に対する訪問事業を充実させる	乳幼児健康診査を充実させる	その他	特にない	無回答
全体		100.0%	28.1%	14.2%	13.8%	6.9%	15.4%	3.8%	9.2%	3.1%
		480人	135人	68人	66人	33人	74人	18人	44人	15人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	24.5%	18.4%	16.3%	4.1%	10.2%	4.1%	12.2%	8.2%
		49人	12人	9人	8人	2人	5人	2人	6人	4人
	貧困線以上	100.0%	27.8%	13.8%	12.8%	7.4%	15.7%	3.9%	9.1%	1.7%
		407人	113人	56人	52人	30人	64人	16人	37人	7人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	37.5%	21.9%	17.2%	17.2%	17.2%	6.3%	15.6%	3.1%
		64人	24人	14人	11人	11人	11人	4人	10人	2人
	生活レベル2	100.0%	22.5%	11.8%	10.8%	3.9%	8.8%	4.9%	8.8%	2.9%
		102人	23人	12人	11人	4人	9人	5人	9人	3人
	生活レベル3	100.0%	34.5%	20.7%	17.2%	6.9%	14.9%	4.6%	8.0%	3.4%
		87人	30人	18人	15人	6人	13人	4人	7人	3人
	生活レベル4	100.0%	25.9%	9.4%	12.7%	5.7%	17.5%	1.9%	8.0%	2.4%
		212人	55人	20人	27人	12人	37人	4人	17人	5人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	21.8%	10.9%	9.1%	3.6%	7.3%	3.6%	10.9%	7.3%
		55人	12人	6人	5人	2人	4人	2人	6人	4人
	該当しない	100.0%	28.7%	14.5%	14.2%	7.1%	16.4%	3.8%	9.0%	2.4%
		422人	121人	61人	60人	30人	69人	16人	38人	10人
貧困に対する認識	貧困な状況にあると思う	100.0%	38.5%	19.2%	19.2%	23.1%	11.5%	7.7%	30.8%	0.0%
		26人	10人	5人	5人	6人	3人	2人	8人	0人
	貧困に近い状況にあると思う	100.0%	22.9%	20.0%	17.1%	5.7%	14.3%	0.0%	5.7%	5.7%
		35人	8人	7人	6人	2人	5人	0人	2人	2人
	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	100.0%	25.0%	13.8%	11.9%	5.6%	13.1%	5.6%	10.0%	3.8%
		160人	40人	22人	19人	9人	21人	9人	16人	6人
	貧困にはあたらないと思う	100.0%	30.4%	13.4%	14.2%	6.3%	17.8%	2.8%	7.1%	0.8%
		253人	77人	34人	36人	16人	45人	7人	18人	2人

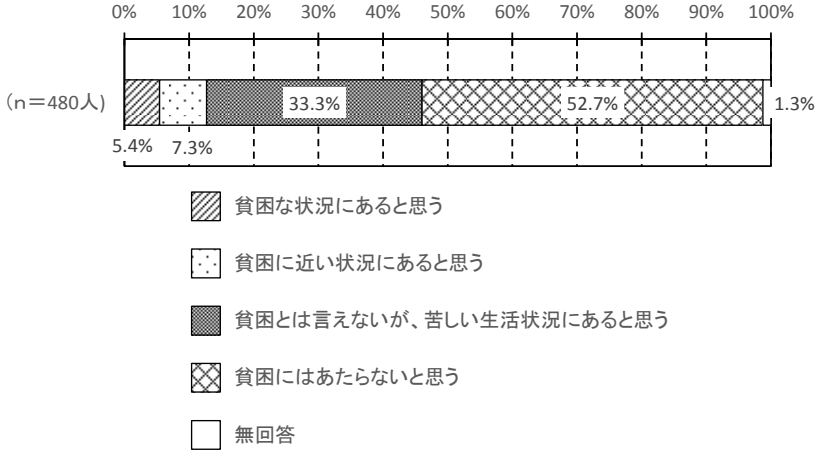
「貧困線未満」世帯、ひとり親世帯においても、「携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」への回答が多く、回答の割合は全体と大きな差はみられません。

「貧困線未満」世帯では、ついで「広報紙やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる」への回答が34.7%で、全体よりも割合が高くなっています。

7．子どもの貧困対策のために必要な支援について

（1）貧困に対する認識

問42　現在、あなたのご家庭は“貧困”という状況にあると思いますか。（○は1つ）



貧困に対する認識をみると、52.7%と半数以上は「貧困にはあたらないと思う」としています。

「貧困な状況にあると思う」は5.4%、「貧困に近い状況にあると思う」は7.3%で、あわせると 12.7%が貧困またはそれに近い状況にあると回答しており、全体の１割程度が特に厳しい状況にあると考えられます。

○属性別にみた分析

		n	貧困な状況にあると思う	貧困に近い状況にあると思う	貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	貧困にはあたらないと思う	無回答
全体		100.0%	5.4%	7.3%	33.3%	52.7%	1.3%
		480人	26人	35人	160人	253人	6人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	14.3%	24.5%	34.7%	24.5%	2.0%
		49人	7人	12人	17人	12人	1人
	貧困線以上	100.0%	4.4%	5.2%	32.9%	56.5%	1.0%
		407人	18人	21人	134人	230人	4人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	29.7%	17.2%	40.6%	10.9%	1.6%
		64人	19人	11人	26人	7人	1人
	生活レベル2	100.0%	4.9%	13.7%	55.9%	24.5%	1.0%
		102人	5人	14人	57人	25人	1人
	生活レベル3	100.0%	1.1%	6.9%	50.6%	40.2%	1.1%
		87人	1人	6人	44人	35人	1人
	生活レベル4	100.0%	0.5%	1.4%	13.7%	83.5%	0.9%
		212人	1人	3人	29人	177人	2人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	12.7%	10.9%	47.3%	29.1%	0.0%
		55人	7人	6人	26人	16人	0人
	該当しない	100.0%	4.3%	6.6%	31.8%	55.9%	1.4%
		422人	18人	28人	134人	236人	6人

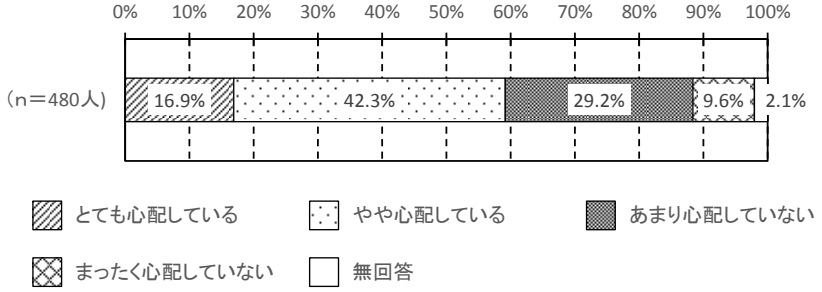
「貧困線未満」世帯では、「貧困な状況にあると思う」という回答が 14.3%で全体よりも割合が高くなっています。「貧困に近い状況にあると思う」とあわせると、38.8%が貧困または貧困に近い状態にあるとしています。

「生活レベル１」では「貧困な状況にあると思う」という回答が 29.7%と約3割を占め、「貧困に近い状況にあると思う」とあわせると、46.9%が貧困または貧困に近い状態にあるとしています。

ひとり親世帯でも「貧困な状況にあると思う」と「貧困に近い状況にあると思う」はあわせると、23.6%と全体の 12.7%を上回る割合となっています。

（２）貧困の連鎖に対する心配

問４３　子どもへの貧困の連鎖について心配していますか。（○は１つ）



子どもへの貧困の連鎖に対する心配については、42.3%が「やや心配している」としており、「とても心配している」とあわせると約６割が貧困の連鎖を心配しています。

○属性別にみた分析

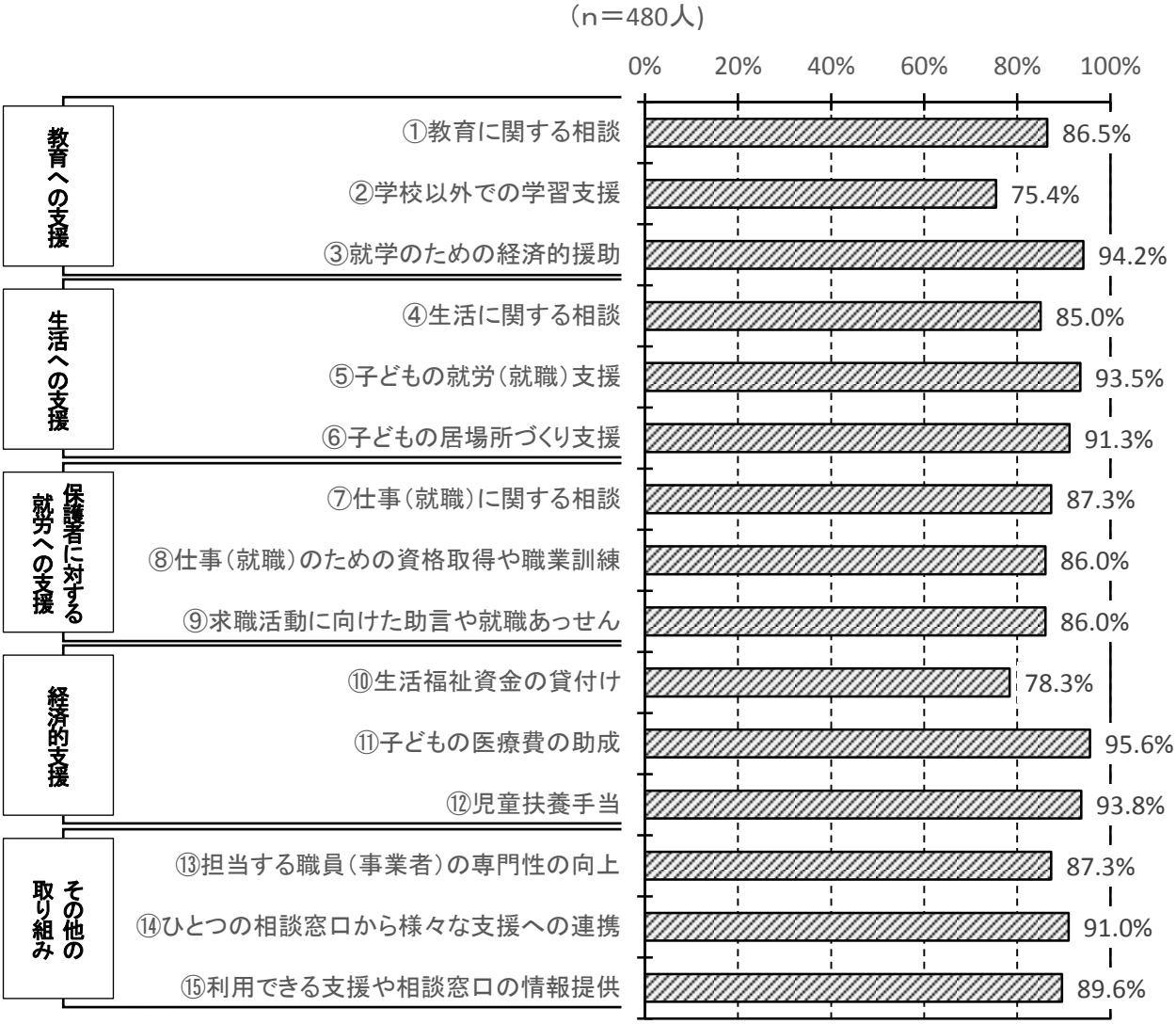
		n	とても心配している	やや心配している	あまり心配していない	まったく心配していない	無回答
全体		100.0%	16.9%	42.3%	29.2%	9.6%	2.1%
		480人	81人	203人	140人	46人	10人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	25.5%	45.5%	25.5%	3.6%	0.0%
		55人	14人	25人	14人	2人	0人
	該当しない	100.0%	15.6%	41.9%	29.6%	10.4%	2.4%
		422人	66人	177人	125人	44人	10人

ひとり親世帯では、子どもへの貧困の連鎖について「とても心配している」という回答が 25.5%で、全体よりも回答の割合が高くなっています。

（３）子どもの貧困対策における支援事業の重要度

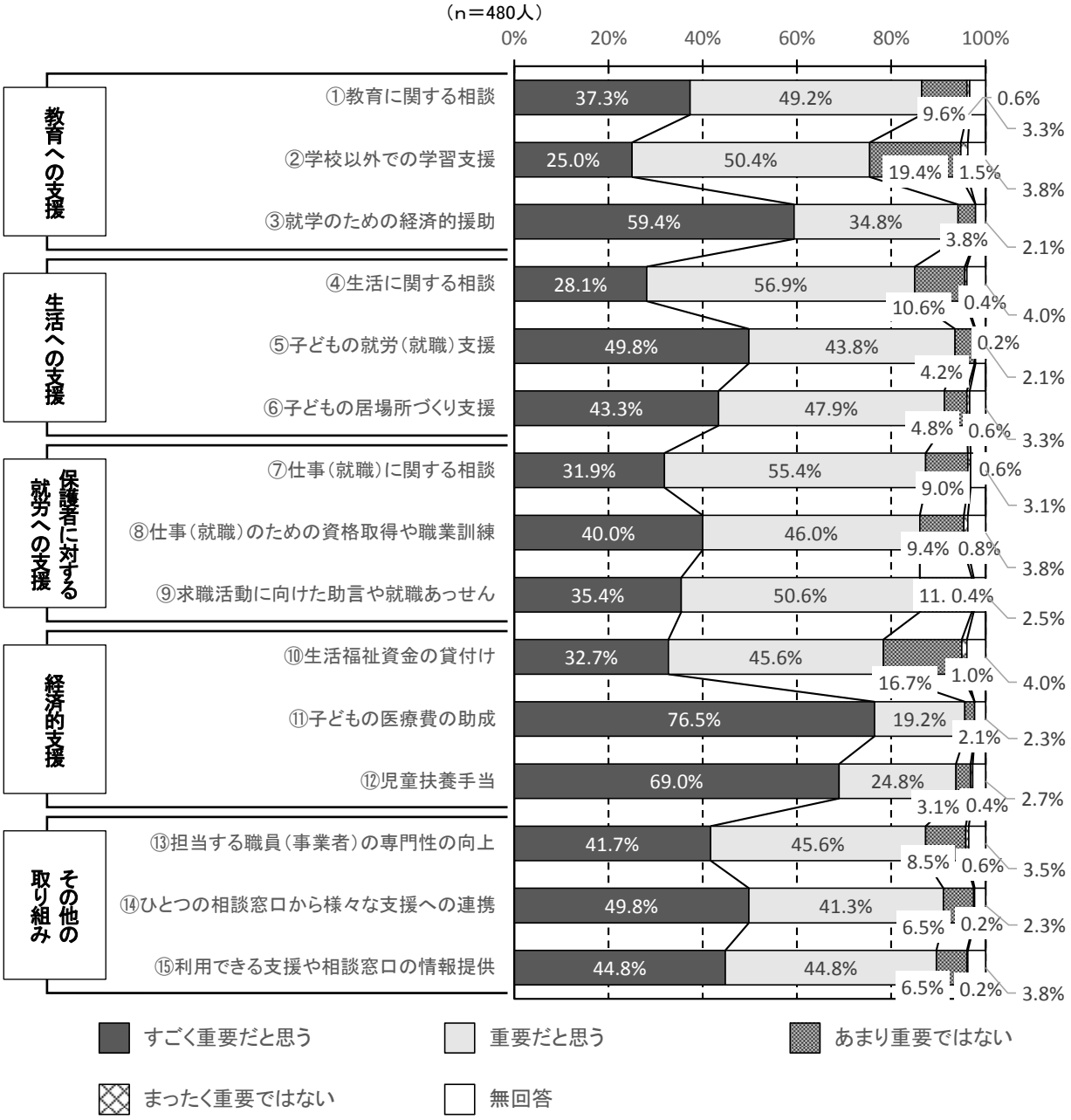
問４４　子どもの貧困対策における支援事業について、事業ごとにどの程度重要だと思いますか。（①～⑮の事業ごとに○は１つ）

①重要と思われる支援事業



子どもの貧困対策における支援事業について「すごく重要だと思う」、「重要だと思う」という回答を重要と思われる支援事業について整理すると、全般的に重要という回答の割合が高いですが、「②学校以外での学習支援」（75.4%）と「⑩生活福祉資金の貸付け」（78.3%）は他の項目に比べるとやや回答の割合が低くなっています。

②子どもの貧困対策における支援事業の重要度の詳細



子どもの貧困対策における支援事業に対して「すごく重要である」という回答をみると、「⑪子どもの医療費の助成」（76.5%）、「⑫児童扶養手当」（69.0%）では、「すごく重要である」という回答の割合が特に高くなっています。

その他には「③就学のための経済的援助」が59.4%で回答が多くなっています。

○属性別にみた分析

		n	①教育に関する相談	②学校以外での学習支援	③就学のための経済的援助	④生活に関する相談	⑤子どもの就労（就職）支援	⑥子どもの居場所づくり支援	⑦仕事（就職）に関する相談	⑧仕事（就職）のための資格取得や職業訓練
全体		100.0%	86.5%	75.4%	94.2%	85.0%	93.5%	91.3%	87.3%	86.0%
		480人	415人	362人	452人	408人	449人	438人	419人	413人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	87.8%	79.6%	95.9%	83.7%	93.9%	87.8%	91.8%	83.7%
		49人	43人	39人	47人	41人	46人	43人	45人	41人
	貧困線以上	100.0%	86.5%	74.7%	94.3%	85.0%	93.6%	92.1%	87.2%	87.2%
		407人	352人	304人	384人	346人	381人	375人	355人	355人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	84.4%	81.3%	95.3%	84.4%	92.2%	89.1%	90.6%	85.9%
		64人	54人	52人	61人	54人	59人	57人	58人	55人
	生活レベル2	100.0%	89.2%	74.5%	93.1%	83.3%	96.1%	92.2%	85.3%	84.3%
		102人	91人	76人	95人	85人	98人	94人	87人	86人
	生活レベル3	100.0%	82.8%	72.4%	97.7%	80.5%	94.3%	92.0%	88.5%	89.7%
		87人	72人	63人	85人	70人	82人	80人	77人	78人
	生活レベル4	100.0%	86.3%	74.5%	92.9%	87.3%	92.5%	91.5%	86.8%	85.4%
		212人	183人	158人	197人	185人	196人	194人	184人	181人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	80.0%	74.5%	90.9%	81.8%	89.1%	83.6%	76.4%	78.2%
		55人	44人	41人	50人	45人	49人	46人	42人	43人
	該当しない	100.0%	87.4%	75.6%	94.8%	85.5%	94.1%	92.4%	88.9%	87.4%
		422人	369人	319人	400人	361人	397人	390人	375人	369人

		n	⑨求職活動に向けた助言や就職あっせん	⑩生活福祉資金の貸付け	⑪子どもの医療費の助成	⑫児童扶養手当	⑬担当する職員（事業者）の専門性の向上	⑭ひとつの相談窓口から様々な支援への連携	⑮利用できる支援や相談窓口の情報提供
全体		100.0%	86.0%	78.3%	95.6%	93.8%	87.3%	91.0%	89.6%
		480人	413人	376人	459人	450人	419人	437人	430人
貧困線区分の判定	貧困線未満	100.0%	89.8%	75.5%	95.9%	93.9%	85.7%	95.9%	91.8%
		49人	44人	37人	47人	46人	42人	47人	45人
	貧困線以上	100.0%	86.2%	78.6%	95.8%	93.9%	87.7%	90.9%	89.7%
		407人	351人	320人	390人	382人	357人	370人	365人
生活レベルの判定	生活レベル1	100.0%	89.1%	84.4%	95.3%	95.3%	87.5%	87.5%	89.1%
		64人	57人	54人	61人	61人	56人	56人	57人
	生活レベル2	100.0%	87.3%	75.5%	98.0%	93.1%	83.3%	92.2%	91.2%
		102人	89人	77人	100人	95人	85人	94人	93人
	生活レベル3	100.0%	88.5%	81.6%	98.9%	95.4%	88.5%	92.0%	90.8%
		87人	77人	71人	86人	83人	77人	80人	79人
	生活レベル4	100.0%	83.0%	75.5%	93.9%	93.4%	88.7%	91.0%	88.7%
		212人	176人	160人	199人	198人	188人	193人	188人
ひとり親世帯	該当する	100.0%	83.6%	74.5%	85.5%	87.3%	85.5%	85.5%	81.8%
		55人	46人	41人	47人	48人	47人	47人	45人
	該当しない	100.0%	86.7%	79.1%	96.9%	94.8%	87.7%	91.7%	90.8%
		422人	366人	334人	409人	400人	370人	387人	383人

いずれの属性においても全体と同様に、全般的に高い割合となっていますが、全体でやや回答の割合が低かった「②学校以外での学習支援」と「⑩生活福祉資金の貸付け」について、「生活レベル１」ではそれぞれ８割を超え、全体よりも高い割合となっています。

「⑦仕事（就職）に関する相談」と「⑭ひとつの相談窓口から様々な支援への連携」については、「貧困線未満」では全体よりも高い割合となっていますが、ひとり親世帯では反対に全体よりも低い割合となっています。

大館市
子どもの成長環境の把握のためのアンケート調査
結果報告書

平成３０年３月

発行・編集：	大館市　福祉部　子ども課 〒017-0897 秋田県大館市字三ノ丸１０３番地４ ＴＥＬ：０１８６－４３－７０５４